

昭和9年(1934年)設立

公益社団法人 昭和経済会

# 昭和経済

Manager Association of Japan

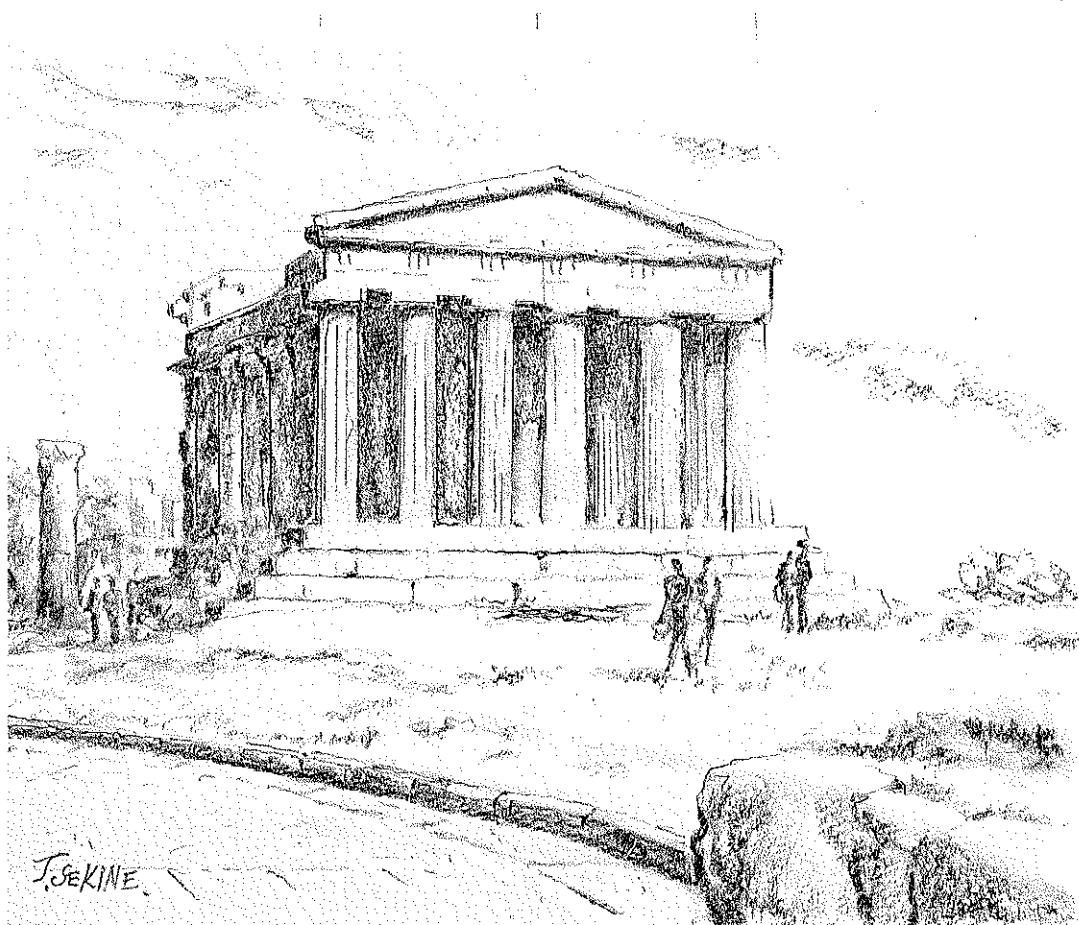
日本の製糸業 発展支えた3つの革新

岡崎 哲二

東海道新幹線50年

高速鉄道の国際標準に米リニア技術面で支援  
アジアと交流の輪を

葛西 敬之  
池上 彰



T.SEKINE

コンコルディア神殿（シチリア島）

人間社会は今日まで幾多の歴史的試練を経て、その存続を得てきました。

その間、私達は経済社会の生活の中で、自然科学への洞察は驚きを以て、文化科学への触発は閃きを以て発展に寄与してきました。科学技術の進歩と開発は人間の英知を以てこれに臨み、文化科学の啓発と振興は人間の情操を以て、限りなく高めてゆかねばなりません。

歴史のいかなる発展過程においても、常に人間の尊厳をうたいあげ、自由と平和が約束される豊かな人間社会の存続が、私達の目的であり実践であります。

昭和経済会は、伝統を重んじ、時代の変化に機敏に対処しつつ、この普遍的な理念のもとに、日常の企業経営と経済活動を通して、さらに公私経済の発展と推進に役立つ啓発、協力、親睦の団体として、その使命を果たしてまいります。

公益社団法人 昭和経済会

## 公益社団法人 昭和経済会の案内

(元財務省大臣官房所管)

### 創立と趣旨

会員制の企業家、経営者団体で我が国の「公私経済の発展助長と会員相互の連絡並びに親睦を図る」目的で、一九三四年(昭和九年)五月十五日創立され昭和十四年、大蔵省から社団法人の許可を受けました。

### 主な活動

- ① 会員相互の啓発、親睦、協力
- ② 内外の経済、政治、文化、学術の定期講演会
- ③ 政府、関係省庁への要望と提言
- ④ 専門委員の法律、税務、経営相談
- ⑤ 海外派遣留学生奨学基金の活用
- ⑥ 月刊「昭和経済」の発行

ほほゑえ

うつてこみう

ありたたず

くらげり

い

いくよのえ

あき

二一



写真家 杉村 浩 制作

日本經濟の 磕いしづえ

佐々木 誠 吾

民生の安定を期す政策の自由と平和の要諦のもと

経済の仕組みにならひ民生の發展を期す日本經濟

願ひごとこまごまと挙げ全能の神のみ前にたてまつりけり

いとたかきみくらに立ちて仰ぎ見る百濟觀音のあまでらしたり

よき友の尾張に住みて奥ゆかしたより届きて嬉しかりけり

会はずともかんたん照らす意氣を得て墨字のたより味はひとつ読む

美しき墨字のあとに人がらのにじみておれば便りよむ夜

わが和歌に理解を示す仁兄に恥らひて記すわがこころかな

夢殿の重きとびらを押しあけて若き僧侶がひとり入り立つ

天てらすおほきほとけはとこしへに衆生を助け導きにけり

# □□□□□□□□□□暑中号・目次



卷頭言 ..... 佐々木誠吾 (4)

わが回想記 ..... 堀江 忠男 (87)

日本の製糸業  
発展支えた3つの革新 ..... 岡崎 哲二 (25)

「天職とは」 ..... ランコ岩本 (87)

東海道新幹線五十年

高速鉄道の国際標準に米リニア技術で支援

葛西 敬之 (29)

昭経俳壇 .....  
賢者の狂言 ..... 佐々木誠吾 (94)

アジアと交流の輪を

池上 彰 (34)

後記隨想 ..... 佐々木誠吾 (113)

中東の大統領選

民主的手法 権威主義生む

アラブの春 見えぬ「幸福」

山内 昌之 (37)

表紙絵のことば ..... 関根 常雄 (135)

暑中広告 ..... (137)

特別賛助会員 ..... (142)

定例講演会 アベノミクス

世界経済の潮流と日本経済の方向

熊野 英生 (42)

## 卷頭言 佐々木誠吾

### 対外純資産の最高額

日本の企業や政府、そして個人が海外に持つ資産から負債を引いた額、即ちこれを称して我々は対外純資産と云つてゐるが、これが二〇一三年度末で、過去最高の三二五兆円余に達したことが財務省の調査で分かつた。これは前年度比で九、七ペーセントの増加で、こうした傾向は今後も続くと思われる。更にはこれが日本の着実な経済の発展を裏付けていることになり、長期的な趨勢として底堅いものと思われてくる。対外純資産の増加は、特に海外で日本企業が事業を開拓する勢いが増して、それに円安効果が加わって投資家がドル建てで資産を持つために、これが円換算して膨らんでいった結果である。世界市場に与える影響は大きく、良

質な経済運営と活動が望まれるところである。円安にもかかわらず相変わらず海外でのM&A、企業買収も活発であり、新興国への投資も積極的であるゆえ、日本は世界最大の債権国となつてゐる。こうした事実と背景を経済外交を通じてもつと積極的に活用していくべきであり、競争激化の国際社会において最も重視されて、信用の度合いを示す尺度であることを、先ず我われが認識すべき点である。裏返して云えることは、国内の経済活動の不振を海外活動で補つてきた証左で、日本の人口減少が顕著になつてきてゐる現状にかんがみ、海外の市場拡大を目指すこうした傾向はこれからも持続する可能性がある。少子高齢化に伴う生産、労働人口の減少は、趨勢的なものとなるが、一方で技術開発と進歩によつて産業界に省力化が顕著に進んで生産性がさらに向上し、全てにおいて省力化社会に突入していく状況にあるため、一概にマイナス要因としてとらえること

の見直しが社会改革の一端として理解されなければ、常態的社会の到来として前向きに受け止め活用されてしかるべき要因である。

六月二日 続

世界中を熱狂させたワールドカップ・ブラジル大会は、ドイツが二十四年ぶりで四度目の優勝を飾り、一ヶ月に及ぶ熾烈の大会の幕を閉じた。この大会で優勝を果たしたドイツは、日本円にして三五億五千円の賞金を獲得した。

開催国ブラジルにとってブラジルの優勝は至上命令であつたが、ネイマールの負傷事故は致命的で全員参加で試合に臨んだが、ネイマールの穴を埋めることができなかつた。逆に失意と痛手がチーム全体に及びドイツとの試合ではドイツに七点の大得点を許し、観衆は悲鳴に近い絶叫でうなだれ、惨敗を期したブラジルチームは会場のサポーターの激しいブーイングにあつた。観戦に見えたブラジル大統領にも

野次と非難とのブーリングが止まず、開催国のブラジル選手たちは踏んだり蹴つたりで、気の毒で見ていられなかつた。

そもそものはず、開催前からブラジルではサッカーより病院を、学校をと、生活の確保を求める訴えが日増しに強くなり、開催を危ぶむ声もあつたりした。大衆は街に繰り出し、民生経済の安定を求める反対運動が続発していた。貧困にあえぐ民衆にとつては、巨額の金を使うサッカーワールドカップではない。今日の食糧に事欠く貧困層が多くを占め、格差社会の拡大を余儀なくされているのが実情である。サッカーに使う金があるなら、国民生活に直結する生活問題をまず手掛けてからにしろと云う悲痛な叫びである。一部の娯楽に大金を浪費する風潮は、貧困層の多くいる国にとって逆に広まつてゐる傾向が世界にある。華やかなワールドカップ世界大会の裏に隠された実情を、垣間見たブラジル大会であつた。これもまた眞実である。

## 梅雨入り

しとしとと、音も立てずに降りしきる細い雨が梅雨の雨である。しかもいつ梅雨に入つたかも知らないうちに、身近かにそれらしき雰囲気がしているうちに、気が付くと自分の身体が雨のしづくに濡れていて、知らぬうちにコートを身につけている。入梅の時期には農作業も始まつて、農家の人は毎日忙しい時を刻むことになる。紫のあやめにふりそそぐ雨もそうだし、紫陽花の花にかかる細い雨もそうだし、港の街に霧のようだけむつて、街路字を静かに濡らす白い雨もそうだし、梅雨の雨と聞くと、心の隅まで雨がしみこんでくるような物憂く、つい感傷的になつてしまふものである。

気象庁が五日に発表したところによると、関東地方が梅雨に入ったとのことである。去年より5日早く梅雨入りした。しかし、翌6日から

は俄かに天候が変わつて空には黒雲が立ち込めて、突然に襲つてきた激しい雨に大地が土砂ぶれである。それというのも、本邦を梅雨前線が移動しており、これに対しても太平洋側に低気圧が停滞しているため、二つが重なつているところに、南から暖かい湿つた空気が流れ込んで、関東地方に激しい大雨を降らしている。各地に大雨注意報が出て、土砂災害や、川の増水に注意を呼びかけている。交通機関にも、ダメヤの乱れが起き、外出した人たちの足にも影響が出てきている。しとしと降るべき梅雨入りの雨が、二百十日の嵐を思わせる結果になつてゐる。

こんな日に限つて、妻と二人の友人が、かねてから計画していた会津若松の奥地の秘境を訪ねて一泊二日のバスツアーリに出かけて行つた。近畿ツーリストが企画したもので、朝早く7時に新宿駅前ターミナルから出発である。金曜日の朝、大雨の中、仕方がないから自由が丘

駅まで車で送つてやつた。車の中で慰め半分に、嵐のなかの旅行も冒険的で、違つた意味で楽しみがあるもんだと無責任に言い放つてやつた。どうせ大型観光バスで、途中の事故さえなければ、嵐が来ても濡れずに目的地の場所に運んで行つてくれるわけだから、呑気なものさと、ただしひテランと云えども運転手は大変であろう。費用は締めて一九、五〇〇円だというから普通なら中止と云うことになるのだろうが、安さに惹かれて行く心境に、無理して行くなとは言えない。聞くところによると会津若松の東山温泉あたりでゆつくりとしてくるなら別だが、秘境を訪ねてと云うことでもっと山奥に入つてトロッコにも乗つて深山幽谷をの地を行くというから嵐の中、それは無理じやないかと思つたが、云つても逆効果しかないと思つたので、あえて口にしなかつた。一八五〇〇円もかけて美容院に行つてきた後でもあるし、少女みたいな晴れやかな格好をしていたし、逆にダイナミ

ックに楽しんで来いよと励ましてやつたのである。車のフロントガラスに吹き付ける激しい雨粒と強い風を見ていたら、とてもそんな心境にはなれなかつたが致し方がない。それにしても頭の髪の毛のセットに二万円もするにかど、そつちの方に気が散つてしまつていた。野郎なら最近は千円床屋がはやつていて、お粗末ながら簡単である。尾山台のハッピーロードにも、千円床屋が出店して、いつも客が入つている。頭髪も手入れに金をかける御仁がいるが、もともと手入れの必要もない不細工な顔ではたいして風采が上がるわけではない。千円だつてもつたといないくらいだ。自分で鉄を使つて適当にやればいいのである。それにしてもいい年をこいて、顔も頭も今はやりの無精ひげで覆い、いかにも不潔な人間が多くなつてきた。これが初老のファツションだというのである。汚いスニーカーを履き、ジーンズをはいてリュックを背負つたりしているから、この団太い神経には何

とも口の出しようがない。しかもおまけに、わけ

の分からぬバッヂをつけたりしていた。

上さんの髪のセットから脱線して、また余計な愚痴になってしまったが、最近は上から下まで世のなか理解できないことが沢山あることは確かである。街の中をぶつぶつ言いながら歩いていくのもいれば、にやにやしながら視点の定まらない人もいる。もちろん携帯電話でしながら歩いていく御仁もいるが、これは一見してわかるからいいものの、夢中になつて他の通行人とぶつかつたりして因縁をつけられても困る。この種の類には、大体が自己中心的な人間が多いからである。交通事故にならなければ幸いだという行為である。職場でも最近は変わった雰囲気のところが多くなってきたそうである。以前だつたら叱られたようなことでも、最近はほつたらかしのようだし礼儀もマナーもあつたものじやない。始末が悪くなつてきた。こんな手合いに右へ倣えされたら、会社の業績

は下方修正だろう。

自由が丘駅に朝早く送つていく時に、こんな嵐時に一体どこに行くんだと聞いたら会津若松の奥だというから、奥だといつても広いし、それ以上聞かなかつた。上さんは、眞面目で効率万能主義で、成果主義の亭主の性格を知つてゐるから、それ以上云つてもくどくなるので云わないのでどう。敢えて成果主義を主張するゆえんは、なんだつてスピード時代で、もたもたしていたら限られた人生で、時間がもつたない。簡潔明瞭で行くべきで、勿体づけられていては身がもたない。それが主たる理由である。会津若松から奥に入つて途中トロツコにも乗つていくというから人間の住んでいるところにはちがいなさそうである。携帯電話のように便利なものが出来てゐるから、全国どこにいても所在が分かるし、何かあれば連絡しさえすればすぐに対応できる世の中である。それだけ人間が横着になつてきた。横着と云えば小生はス

テテコでクレープシャツの姿で運転中である。

それに短靴を履いているので、土砂降りの外には出られない。出るつもりはないから、こんないでたちで車を運転してきたのだろう。上さんはこんな旦那の姿にも気が付いていないし、気が付くとすれば真面目で勤勉な交番のお巡りさんしかいない。公序良俗に反するとして職務質問されるかもしれないが、その時は誰にも迷惑をかけているわけではないし、これは自分の主張する衣裳だし、車からわざわざ小生を呼び出した君が悪いので、反対に人権侵害だと主張するだろう。君の行為は夜這いに等しいと。もしかすると変態じやないかと。仕掛けた君の方が、トイレにいる女性を盗撮しているようなものだと。それは校長先生がすることであつてお巡りさんがすることではないと。天才の山下清やチャップリンもこんな恰好をしていたようだぞと、彼をたしなめて交番に戻り、誠実に職務に就けど、しまいには命令するに違いない。

だからこんなことは起こりえない。

家内から電話がないところを見ると、無事バランスに間に合ってみんなと楽しく目的地に向けて出発したに違いない。私は早朝、中途半端な時間帯に起こされて、妻を駅まで送つていったことを以て既に通勤前のウォーミングアップをこなした程度の行動に入つていて。改めて寝ることもできないし、このまま起きているより仕方がない。用意された朝食を早めにとつて今週最後の精勤を果たして来ようと思った。小降りになつた頃合いを見て、傘をさして庭に出てみた。こうした時には番傘をさして庭に出て、かすかな雨脚の音を聞いてみるのが乙なのだが、ご時世で近ごろは番傘を買うこともままならない。女性の差す和傘は綺麗で風情があつて、梅雨時の風物詩である。昔若いころに京都に旅行をしたとき、傘陣の店で和傘を土産に買つてきたことがあった。普段は床の間に立てかけてあるが、お正月にはこれを広げておくと風情が

あつて、京都の宿にきているような気分になる。これに会津八一の墨書の掛け軸を駆けたりして遊んでいる。あの和傘を広げたときの油のにおいが好きであつたが近ごろは嗅げなくなつてしまつた。凝つた和傘になると蛇の目傘とも言つたが、広げると蛇の目のようない輪の模様が細い絹糸で編むんである。粹な蛇の目傘を京都の舞子に差させると、梅雨時の古都に風情が増す。

だみ声の田中角栄が骨組みの太い番傘をして得意げに、目白の屋敷で池の鯉に餌をやつて悦に入つてゐる姿が氏の専売特許であつたが、角栄に限らず、歌舞伎に出てくる助六がつて廓の前で番傘をさして見得を切つていたはずである。吉田茂は羽織袴、白足袋の姿にパイプだつたが、角栄は下駄と扇子とステテコ姿が良く似合つた。これに番傘をさされば合格だらう。角栄は今太閣の出で立ちで庶民の立志伝として人氣を博したが、ロッキード社のコーチ

ヤンからもらつたピーナッツを口に入れながらも、政治家としても、人間としても晩年が氣の毒であつた。しかし一生、権金がまつわるついていた感じで残念だつた。漫画のサザエさんのお父さんの波平のステテコ姿は、庶民派を代表するもので親しみがあつて自然であり、好感のもてる雰囲気である。チャーチルは燕尾服にシルクハット、パイプをくわえステッキを手にした得意絶頂の肖像画だが、モダンタイムスのチャップリンの姿は、これを風刺したものだとも言われている。そう言えば、ふうてんの寅さんだつて個性的な役を服装を以て任じてゐる。しかし梅雨の間に冥想して浮かんでくるのが、やはり日本人には番傘の風情が一番合つていて、男らしさを演出するにふさわしい。番傘は浮世絵にもよく見かけるが、昔の人は番傘をさしている姿が氣に入つてゐたようである。番傘に落ちる雨の音には格別な思いを抱いていたようである。番傘と風呂敷さえあれば、志高く、

六月六日

人生いたるところ青山あり、なんて寝言にしか聞けない当世書生氣質かもしれない。

濡れた飛び石をまたいでいくと、折から紫陽花が真っ青に染まつて咲いている。これを見る限り、やはり梅雨に入つたのだなあと思つたのである。気象予報のように、願わくば梅雨入りが大雨になって、河川の氾濫や土砂災害が起きたりしないように、人命に被害が及んだりしないよう、心の中で神さまにお助けを乞うたのである。もちろん嵐の中を突撃していった、妻と友人二人のバス旅行の悪なきを祈つたことは当然である。一行がどういうコースを踏んで行くのか知らないが、バスの運転手の無事な活躍も一緒である。蕭々と降つていた雨が、又強く太い雨に変つて、音を立てて滝のように降り出した。例年と違つて局地的、集中豪雨で始まつた梅雨入りである。しつとりとした情緒も吹き飛ばされてしまつた。このところ味氣なく、篠突く雨に紫陽花の花が台無しである。

### 梅雨明けとワールドカップ・サッカー

#### それに大事な平和五原則

世の中で起きていることが、予期せぬ番狂わせの展開である。

大雨で始まつた梅雨入りが、一転して梅雨明けの展開かと思わしめるここ数日の真夏のカンカン照りである。一昨日、庭烟に出て草むしりをしていたら、十分もたたないうちに目がくらくらして頭も朦朧としてきたので、慌てて家の中に引っ込んだ。テレビの天気図を見ても北から南まで、本邦が赤い太陽で埋まつてしまつてゐる。雨を示すところが一か所もない。真っ青の空と灼熱に日照りに、梅雨明けかなといつたら、家内が梅雨入りになつたばかりで、雨は

これからですよと云うのである。上さんの云うこととはいへ、俄かに信用できないような有様である。

攻撃力を以て優勝高い前評判の日本チームが、ワールドカップの初戦でまさかの敗退をきたした。相手はアフリカのコートジュボアールである。馬鹿にするわけではないが、アフリカの中部南海岸に面した国で、面積は日本と同じくらいである。スポーツは経済力と関係ないが、経済力と知名度からすれば比較にならない国に、日本国があつさりと負けに甘んじてしまつた。印象的にはこの先の戦いに苦戦を強いられてしまう可能性を否定できない。日本のチームの団結力と連続に何となく重苦しいイメージを払しょくできないからである。初戦の勝敗にはがつかり、気分は落胆である。ザッケローニが戦術を間違えて、攻撃力を出し切れず何とも情けない話である。素人目で恐縮だが、この一戦で見る限り、選手に元気がないし、ボールを

つなぐこともできないし、パスしたボールを力尽されて相手に盗られたりして、初步的に疑問を感じた。その証拠にゴールを目指して蹴ったショートの数も、相手が20回なのに、こちらは7回にとどまっている。前半本田の得点で一対〇で終了したが、後半に入つてもたまたまたた試合展開に、敵のエースの登場で形勢は一気に逆転し、二分間のうちに二点を採られて二対一で敗北した。第二戦はギリシャとの戦いである。高温多湿のグランドだが、態勢を立て直して実力を發揮し、懸命に応援する我々のためにも、初戦敗退の雪辱を晴らしてもらいたい。暗い雰囲気を払しょくすることが大事である。

初戦で勝っていたなら日本中が湧きかえつていただろうに、株だつて上がつていたかもしれない。経済に繋げて申し訳ないが、勝つていれば確かに世界一を目指した前哨戦、さすがはご祝儀で、いろいろな物品が売れるから消費景

氣につながって、経済効果は上がるだろう。消費税値上げも難なく消化して加速し、次のステップに向けた取り組みもかなえたわけである。心理的、間接的影響は大きい。安倍さんの第三の矢は株価上昇によつて景気刺激を促す点にある。負けてしまつたので、がつかりと落胆を織り込んで今日の東京株式相場は日経平均で後場の取引は一五〇円以上も下げてしまつてゐる。イラクでのアルカイダ系武装勢力が進撃を開始して、南下して首都のバグダッドに迫つていることも影響しているかもしれない。ニューヨーク株式市場ではクリントンを次期大統領として予測し期待しているわけではあるまゝが、現実、経済力の回復を期待して連日の高値更新できている。

今、日本の国会で論議されている集団的自衛権の行使を、仮に閣議決定だけで発動するような事態になつたら、少なくとも今の自衛隊は外国に行つて戦闘に参加して戦場で相手と銃火、

砲火を交えることだつてある。死傷者も予想される。あらゆる武器を使つて敵方の報復だつてあるだろう。平和憲法のもと戦争をしてこなかつた日本にとつて、今の集団的自衛権と閣議決定の事案は、日本の姿勢を根本的に変えることになつて、両案とも歯止めが効かなくなつてしまふことは明らかである。閣議決定を以て憲法をないがしろにする人物が、将来わんさと出でこないとも限らない。安倍さんみたいな平和主義者なら権限を大きく付託することはできても安心できるとして、ヒトラーみたいな人物が国民をだましだましながら出て来たら、いつの間にか戦争の好きな東条英機みたいな国にまたなつてしまつだらう。戦争によつて我々國民が犠牲を負うことはまづびらごめんだ。シリアやイラクがそうであるように、大量の難民が隣国に押しかけてきている。

日本でも戦時中は都市部から避難する疎開族が沢山發生した。これも難民と云つて差し支

えない。国内の農村地帯に、大量の疎開族が発生して、飢餓に耐えながら困苦の生活を余儀なくされたのである。集団疎開で地方に行つた女、子供たちは、みんな散々な目にあつたのである。

いい加減にしてもらいたい。更には戦火を交えることによつて、平和の裡に発展してきた日本

経済は混乱状態になるだらうし、アベノミクスを云々しているどころではなくなるつてくるだらう。安倍さんの政権担当の責務はたちどころに消滅してしまうことになる。平和の状態であるがゆえに、アベノミクスのような効用が發揮されるのである。本末転倒の論議をしているようで虚しさが先に立つてくる。集団的自衛権の問題を解決するに単なる閣議決定で決めていいものか、大いに疑問である。それは時期尚早として、平和憲法を堅持して、経済優先政策に時間を割いて、眞の国益に寄与してもらいたい。紛争の絶えない昨今の世界だが、個別的にそれだけをとつてみれば、集団的自衛権を容認する

ことがいかにも喫急且つ不可欠のことのよう思えるが、こうした時こそ戦闘行為の誘惑的挑発に乗らないように自らを戒め、日本の持つ平和憲法の真価を世界に訴えて、発揮していくなければいけないではないだらうか。

びつくりしたのは、今日の朝日新聞の一面記事である。今国会で紛糾している集団的自衛権の問題である。憲法解釈をめぐつても、論議されている事案である。新聞の一面記事とは、アメリカ軍の艦船は、仮に朝鮮半島での有事の際に、米軍艦船が邦人を救出して日本に送るようなことはしないという過去にあつた説明と事実である。だとすると安倍さんが国民に対して熱心に説いている集団的自衛権がなぜ必要なのかと云う問題に対しても、その前提が崩れているのである。それを論議しても始まらないということがある。たとえばアメリカの艦船が日本人を救出して、我が國若しくは安全な地域に搬送中

に、敵軍から攻撃を受けた場合に、日本の軍隊は何もしないのか、何もできないのかと云うことで、安倍さんの持論は展開されてきている。そしてそれでもいいのかと、その是非を迫つてきている。

そこで、米軍艦艇が、朝鮮半島の有事の際に日本人を乗せて助けることは状況的にはないとするならば、安倍さんの主張する前提が崩れてきて、いつたい何のための主張なのかわからなくなってくるではないか。だとすると安倍さんが想定する前提条件が全くないことになつて、この論議はかみ合わないことになつて、例えとしては適切でない。ありえない事例を以て、集団的自衛権を容認することを迫ることは国民に對しての説明にならない。これは困った問題である。

と云うのはこの事例を以て安倍さんは、この事案にたいして全面的に信認を寄せているからである。私はかねてから、判りやすいが、

しかし安倍さんの説明に疑問を持つていたのである。邦人を救出中のアメリカ艦船が攻撃を受けた場合と云うたとえである。アメリカ軍が日本人を救出する前に、なぜ日本人は自ら危険な地域を脱出しないのか、脱出すればこうした事態は想定されないではないかと云う素朴な考へがあつた。そしてそうした事態は現実に起ころのだろうかと云うことである。又、韓国に居る日本人を北朝鮮が攻撃ってきて、日本人の生命と平和が危険にさらされた時、アメリカ軍が日本人を保護して艦船に積んで日本に運んできてくれるのかと云うことである。繰り返して云うが、アメリカ政府高官は、かつてこうした時に邦人救出を断つていたというのである。別に朝日新聞と歯車がかみ合つたというわけではないが、小生の考え方は正しかつたということになる。そうだとしたら、こんな論議をしていても始まらないことになる。なんだか尻取り合戦みたいなことになつてきて、馬鹿馬鹿し

くなってきた。ふりだしに戻つて関係者は頭を冷やしてくる必要がある。憲法を一政党によつて、一政治家によつて恣意的に解釈されたのでは、憲法が幾つあつても足りないだらう。馬鹿馬鹿しい次元の低い論議を以て、憲法問題にまで影響するようなことがあつては、それこそ日本を守つてきてくれた先輩たちに申し訳ない気がしてくる。

シリアでもイラクでも、未だに殺傷が続いている。戦争が続いて、飢餓で死んでいく子供や女性が、そして避難民が五〇万、六〇万という群衆をなし、战火を逃れて悲惨な生活を余儀なく述べている。戦争をしない、戦争をやらせないという教えを綴つた憲法が、どこが悪いんだ。外国から侵略をされないためにも自ら平和の旗手となつて世界に飛び回らなければいけない。輸出国日本と云つても新幹線や、航空機などいろいろ商品はあるが、原発や、武器輸出に一国の首相が世界を飛び回つていては困るの

である。限定した商品の売り込みをしなくとも、良い商品なら商談は民間レベルで達せられるからである。もつと次元の高い使命を以て、弾みをつけた安倍さんの積極的、世界平和外交を展開してもらいたいのである。日本国憲法の平和主義を世界に輸出することである。そして侵略に対しても、断固として自衛のための軍事力の行使を決めればよい。自衛隊の諸君の意気はしつかりしている。国民の生命、財産を守るために、その根底をなす日本の平和を堅持するために先ず、わが自衛隊は高度の戦力を以て戦うだろう。前時代的発想を以て領土拡張をもくろむ中国は、近隣諸国のみならず世界に対して狼藉を働く国家として非難されなければならぬ。南沙諸島の沖合で、ベトナムやフィリピン国と領有権争いを演じて一触即発の緊張状態となつてゐる。軍事衝突にならないよう中国は自制すべきである。でかい体を誇示するだけが能ではない。中身が問題である。

それを正当化するように、国内では言論統制

を強め、対外的にはいたずらに緊張を作つたりしている。中国各地でも抵抗勢力に対して激しい弾圧を行い、流血殺傷事件が起きて、反政府活動の圧殺に懸命な中国である。尖閣諸島の問題もあるが、わが国もいたずらな挑発に乗つてはいけない。対立と混乱を治め、平和裏に解決する方策をとるべきである。そうならないよう努めるのが政治家である。ローマ法王も平和を説いて、戦争を仕向ける国や、混乱の続いている国々を回つて救済すべきである。ローマの宮殿に居座つていくら叫んでもダメである。世界の宗教家が、その指導者が無知蒙昧な民衆を煽るのではなく、知性と感性を以て民衆を一つにまとめていくべきだ。宗教家である以上己を無にして、よりどころとするものは絶対者の愛と慈悲に向かつて思いを一つにして、人間性を賛嘆するものでなければならない。その上でお互いの立場を尊敬しあつて、国々の自立の道を

互いに摸索していけばいいのである。

昔、世界でしきりに謳つていた平和五原則なるものがあった。私が懸命に勉強し、血氣盛んだった学生時代の頃だったと記憶している。1954年、中国の周恩来首相とインドのネール首相とが合意した原則である。それは立派な理念であり文言である。そしてどこの紛争地にも通じる現実的なものである。曰く、相互領土と主権の尊重、相互不可侵、内政不干渉、平等互恵、そして平和共存の五つの原則である。今時代にピッタリである。政治家がだめなら純粹な宗教家たちが、そのリーダーたちが宗派を超えて一致団結し、誉れ高き平和五原則を確立し、お布施と献金で集めた膨大な資金を世界平和のためにどんどん使うべきである。世界宗教會議と云つたものがあつたような気がする。国民が過去において戦争で散々に苦労をし、凄惨な原爆の洗礼を受けた日本の、国会議員にしたつてそうである。集団的自衛権の行使を容認す

るかどうかを閣議決定で持っていくというが、

仮に国連の安保理事会の決定に従つて日本

通することは世界に戦争参加を表明することである。

に自衛隊派遣を要請してきた場合はどうなるのだろうか。日本に対し国連が武力行使を求めてきた場合は、これに従つて、日本の自衛隊は軍事作戦に加わって、直接関係のない国に対して武力行使を行うのであらうか。国連決議に従つて、自動的に集団的自衛権の発動となるであろう。日本は、これを拒否することはできな

い。拡大解釈していくと、歯止めが効かなくなつてくる。例えば安保理の要請に従つて地球のあらゆる地点で紛争に巻き込まれ、戦場に出兵しなければならなくなるだろう。グローバル経済の解釈されるように、かかわりのある国はグローバルなものとなつて、全ての事案にかかわりを持つてくる。拡大解釈の落とし穴はそこにある。恐怖を散布するばかりとなるであろう。世界に敵を作るばかりである。こんな落とし穴にはまつてしまつては悲惨である。この法律を

一度川を渡つてしまつたら引き返すことはできない。憲法はそうしたことをあえて禁じているのである。時間に拘束されず、そろは云つても判り切つた問題について、いつまで貴重な時間を浪費しているんだろう。議論している間も君らを養うために金がかかっているんだ。それは我々国民の血と汗の税金なんだぞ。無駄使いをするんではない！と云うことである。

何事も、やつてみてからでないと分からぬことだらけである。しかし、やつてみなければわからないなんて、それで失敗ばかりしていたらどうするんだ。国は破滅である。

いや気が射してきた昨今

いやな雰囲気の世の中である。経済は幸いにして好調になつたが、殺傷事件の犯罪が相

変わらず日常的である。簡単に人を拉致したり、殺したりしている。彼らには罪悪感がない。金銭トラブルで会つたり、怨恨であつたりするが、専ら動機がうつぶん晴らしに行つて、その事件に巻き込まれているケースが多い。薬物使用者の増大もあって、気晴らしに犯罪行為をされていたら、善良な国民はたまつたものでない。銃刀所持違反で捕まる若者も多い。巡査が職務質問をするうち、何等かの理由で危険を示唆する被疑者を確認するそうである。中には薬物使用で発作を起こす人間もいて、うかつに不審者に接触することもできないようだ。治安に当たる人間がそうした状態だから、普通の人間はうかつに人の群れに入れない。ましてや深夜の一人歩きは危険である。数日前も脱法ハーブを使用

してクルマを運転、通行人を跳ね飛ばしながら迷走して建造物に激突して止まつた事件が起きている。若い女性がひとり病院に搬送中に死亡して痛ましい。

中東の国々で起きてる戦乱、戦火の模様を伝える報道が過熱して、連日の「ごとく生々しい情報」を伝えてくる。それだけを見ると実に戦争の好きな人種だと思うし、人を殺すこと何らの罪悪感もない、民族性と云うか、国民性と云うか血肉を散らし飛ばし合う連中が多いことに唖然とする。まるで柵の中に彫り物をいたた暴力団の物凄い連中を入れて、掴み合いの喧嘩をさせているようなもので、殺傷を戒める宗教を逆手にとつて、救世、布教と云う美名に隠れて、武器を以て殺し合いを正当化しているものである。神を冒涜する以外のなにものでもない。神を語る資格もない人間が、逆手にとつて人殺しをして憂さ晴らしをしているものである。

こうした輩がグループを以て集団化して脅

迫的行動に出てきている。この集団化が拡大して世界に広がつてきている。テロがその最たるものである。従来の国家的軍事力を背景にした暴力行為と違つたものとして現れてきたものが、テロである。近代兵器、大量破壊兵器の脇の甘さを突いた、新しい形の暴力行為である。だからアメリカが手こずつてしているのである。宗教的妄動を駆使して、犯罪地区の無知蒙昧な民衆を驅り立てて、混乱を拡大して社会的な権益、利権の収奪を目論んでいるのである。たとえば、イラクで起きている逊ニ派、シーア派の対立抗争はまさしくそれであり、一方で民族主義を絡めたクルド人が領土占有をもくろんで動いている。その間隙をぬつて、大国の思惑が複雑に絡んできている。

暴力の好きな人間がいるし、それがグループを作り地域に根を張つて公然とした行動をとることもある。意識の進んだ地域や国ではこれが沈められているが、未開発的な地域や社会で

は、こうした暴力的なグループが幅を利かせて君臨し、支配勢力を醸成していくようになる。暴力的関係は体裁を隠すために組織つくりを試み、地域で集団的認知を得ようとする。地域に溶け込んで民衆を味方につけ勢力拡大の基盤を作っていく。極めて原始的発想だが、この野蛮性が、今日の資本化され金融化された社会経済組織と、国家形成を果たした国々に挑戦し、勢力を發揮して各地の混乱に乗じてゲリラ活動を惹起せしめている。大量破壊兵器を使えなくなつた大国は、自ら買って出ることもできずにいらだち、手も足も出ない皮肉な状況となつていて。ブッシュが気違ひじみてイラクに進攻していくたようなことは、あらゆる観点からして不可能なことである。さらには民族対立、宗教対立も複雑に絡み合つて、かつてのようにアメリカもロシアも、治安回復、秩序維持を名目に軍事介入することの難しさが、そこにある。こうした世界的状況を踏まえてみれば、政治

家の英知を以て外交を通し、平和的に話し合う解決の度合いがますます大きくなつてくるはずである。そうしたことを踏まえて考えれば、交戦権を否定する我が国憲法の精神は、ますます世界の注目をえて、重要度が増してくる潮流にあることも落ち着いて考えたらどうであろうか。国の借金一〇〇〇兆円を抱えてこの先、他国との軍事行動に参加して敵と戦争に加わるなんて無茶苦茶な話は、結局国民にそのつけて回つてくるのと同じ、加えて戦闘に参加する日本兵士の戦場の死を、再びみる悲惨な結果になつてしまい、過去に辛酸をなめた日本人の経験と教訓は一体なんだったのだろうか、と云う女性の素朴な意見があつたが、実はこれが正しいのではないか。NHKの日曜討論で、いい年をこいたおっさん達がテーブルに並んで口角泡を飛ばして議論しなくとも、そんなことは中学生だつてわかることである。九死に一生を得て帰還した旧兵士は、好きこのんで勝手にそう

した道を行こうとする今の政治家の気がしれない、あいつらは戦場の怖さを知っていないから平気でんなことが言えるんだと、一発の銃声が原因で戦争がはじまり、世界が混乱して野獸のごとく殺し合つのはいつの時代でも同じこと、この最初の一発の銃声を止める、ともできない人間なら、人に迷惑かけないでさつさと先に死んでいただいたほうが良いと、大胆につぶやく賢人の姿が印象的であった。

#### 学童疎開船、対馬丸の沈没

天皇、皇后両陛下はこの日、沖縄を訪問された。七十年前の太平洋戦争中に撃沈された、学童疎開船の対馬丸の犠牲者を慰問するためである。昭和十六年十二月八日、日本のハワイ真珠湾の奇襲攻撃に始まつた太平洋戦争は、一九年七月七日にサイパン島が米軍に占領されて、

米軍の日本本土に対する攻撃は日増しに激しくなり、沖縄はもとより本土でも都市からの学童疎開が始まった。私はこれを称して難民と云つて憚らない。敗戦の色濃くなつた状況で、軍と政府は一九年八月ごろから、本土決戦に備え女子、子供、老人を避難させる措置を取り始めたのである。先ず至近の沖縄から開始することとした。

#### 昭和一九年八月二二日夜十時過ぎ、疎開学童

児ら一七七八人を乗せた学童疎開船、対馬丸が、鹿児島県、悪石島の北西一〇キロの地点を航行中、米潜水艦の魚雷3発の攻撃を受けて沈没、学童八〇〇名を含む一四〇〇人が犠牲になつた。痛ましいこの事件は、戦争の被害が予想もつかないところまで及んで家族離散、多くの人命が失われ、人々の間に悲劇が及んでいくことの事例である。実際の惨状は云うべくして語りがたく、生存者たちの口は堅く閉ざされたままで、既に七〇年余の歳月が流れているのである。

今、戦争の慘禍を思い起こし、平和の大切さを両陛下が、慰靈の念を以て熱く国民に語りかけておられるのである。卒寿を迎えたときもそうであつた。記者の質問に対し、過去を振り返つて思い起こすこととは痛ましい戦争の慘禍を忘ることはできないこと、そして平和の大切さを経験し、それを心にとめて強調されていた。

喉もと過ぎれば熱さ忘れるで、人間の悪い癖が日本人の多くに身についてきているようである。戦争体験者も少なくなってきて、平和ボケの今の多くの人たちには戦争の恐怖を口にする者もいなくなつてきているのが現実である。平和の裡に均衡した諸国間の関係を構築し、経済的繁栄がいかに重要なことであるかが、混乱して、不幸にも内戦状態の多くの国々に、我々は教訓として体得しなければならないはずである。過去の戦争を反省し、平和を愛す

る両陛下の、つつましやかな祈りに深く感謝している。

六月二七日

### 好調な決算発表

私が主宰している短歌同人誌、淵の五月号に氣前の良い和歌を載せていますが、そのうつの一首をご紹介します。

思ひきりよたりの子らと買ひものし金をゆたかに使いはたせり

庭も広く、子どもたちがのびのびと勉強に励んでいる様子が一瞥してわかります。学校の敷地の周囲には煙が広く続いて、都会の騒音から解放されて、自ずと田舎の風景を満喫することができます。文化祭とは違つて競技を競い合うものなので、トラック一杯を競技場として使ってしまうので、食べ物などの売店は一切用意されていません。そのため朝から始まつた協議の項目は、午後一時ごろまでにすべて終了して、解散するように組まれていました。

休日の運動会に付き合つて、可愛い双子の姉妹が参加するレースを応援するため、孫の佳ちやんと、麗ちゃんを連れて玉堤小学校に出かけました。多摩川に程近く、環境は抜群に優秀なところにあって行楽にも絶好などころです。校

ところで、あきほちゃんと、ゆきほちゃんと姉妹の、競争とマラソンレースを充分に応援したあと、みんなで腹ごしらいをする予定を組んでいたので、運動会のあとは、車に乗つて食事の支度をするために、沢山の食材を仕入れることになりました。運動会で頑張つて優秀な成績を収めた、あきほちゃんと、ゆきほちゃんとに就いては努力、敢闘賞に値するもので、何らかの敬意を表する必要があります。今日はできるだ

けの買い物を思い切つてして、夕餉までに備えることにしました。

休日をよたりの子らと過ごすあと夕餉の庭に卓をそなへり

すがすがしいお天気になりました。拙宅の庭の中央に橋脚ように煉瓦を積んで、細工した大きな一枚板を渡して十人ぐらいならでも、ゆとりを以て向き合える食卓を準備しました。真ん中に焼き肉をする近代的用具のプレートを揃えて、準備は万端です。子供たち四人を連れて近くのスーパー・オオゼキにいざ出陣です。車の中でも買い物のことと話題は持ちきりです。今日は好きなものは何でも買つても構わないからね、とこちらも意氣揚揚です。上場会社の好調な決算の発表で、配当金が沢山入つてきたので懐ぐあいは好調です。何ぼ使つたつて子供たちのこと、たかが知れてるし、三越とか高島

屋で買つたりするものと違い、別にびくびくすことはありません。四人がそれぞれ籠を以て好きなものをぶち込んで、おじさんがあとは責任を以て清算していくからと伝えました。あきちゃんが心配そうな顔をして「いくら持つてきたの?」と訊ねます。ゆきほちゃんが「予算はいくらなの」と聞きます。「大丈夫さ、好きなものを好きなだけ籠に入れてくればいいさ。あきほちゃんは牛肉のたんが好きなんだろ?。食べたいだけ買つて、焼いて食べがいいさ」と云つたりしていました。野菜類は烟になつてゐるものを探んで来れば幾らでもあるから、他のものがいいねと云うことでした。アベノミクスがこんなところにも好影響をもたらしてきています。結構なことであります。

## 日本の製糸業

発展支えた3つの革新

東京大学大学院経済学研究科教授

岡崎 哲一



ユネスコ（国連教育科学文化機関）の諮問機関であるイコモス（国際記念物遺跡会議）が、「富岡製糸場と絹産業遺産群」の世界文化遺産への登録を適当とする勧告を行つた。15日からカタールのドーハで開かれる世界遺産委員会で、最終決定される予定となつている。

勧告の中ではイコモスは「モデル工場としての富岡製糸場と関連資産は、19世紀末期に養蚕と日本の生糸産業の革新に決定的な役割を果たし、日本が近代工業化世界に仲間入りする鍵となつた」と評価している。実際、製糸業は、日本の工業化を主導した産業の一つであつた。

戦前の日本経済における製糸業の位置は、輸出の面できわだつてゐる。生糸は、世界恐慌とレーションをはじめとする化学繊維の発達のために輸出が減少した1930年代まで、ほぼ一貫して日本の輸出総額の20～30

0%を占め続けた。

しかも、日本のもう一つの主要な輸出品であつた綿製品が、原料（綿花）のほとんどを輸入に依存していたのに対し、生糸の原料となる繭は国産であつたため、外貨収支における製糸業の貢献は特に大きかつた。

日本の製糸業は、長野県、群馬県、山梨県などに集積した多数の民間製糸工場によつて主に担われた。1900年代には、機械を使用する製糸工場が6千～8千カ所操業していた。

1872年に官営工場として設立された富岡製糸場の役割は、世界の製糸先進国であつたフランスの技術を日本に導入し、「モル工場」としてそれを広く民間に普及させることについた。

富岡を起点とする近代日本の製糸業の発展は、経済史研究の主要なトピックの一つとされ、多くの知見が生み出されてきた。特に

強調に値するのは、日本の製糸業の発展が、独自の技術的、組織的、制度的な革新によつてもたらされたことである。

第一に、技術的には、一橋大名譽教授で労働経済学が専門だつた故小野旭氏らが示したように、民間工場は富岡に導入されたフランスの技術をそのまま受け入れたのではなかつた。当時の日本の条件に適合させるため、さまざまな修正を加えたのである。

資本が豊富で労働力が希少な先進国フランスで開発された技術は、高価な鉄製の機械を用いるなど、労働費に比べて設備費が相対的に大きい「資本集約」的な性質を持つていた。フランスをモデルにした富岡製糸場の資本集約度の高さは、創業当時の姿をとどめている総糸場や繭倉庫の外観からもうかがえる。

一方、当時の日本のような発展途上国では、資本が希少で労働力が豊富であるため、先進

国の資本集約的な技術をそのまま使用する  
と製品のコストが高くなる。そこで民間工場  
は、鉄製機械を木製に変更する、蒸氣力を水  
力に変更するなどの修正を加えて、技術を日  
本の資本・労働市場の条件に適合させたので  
ある。

第一に、当時の日本ではまだ、多數の労働  
者を一つの工場に集めて、規律をもつて働く  
こと自体が難しかった。この課題は、製  
糸業では「等級賃金制度」と呼ばれる組織革  
新によって克服された。

東大教授で経済史が専門の中林真幸氏が  
分析しているように、この制度の下では、各  
労働者の成績は、労働生産性、製品の品質な  
どの複数の要素について事後的に評価され  
た。さらに、それらを総合した値が同じ工場  
の他の労働者と比較され、成績の相対的な位  
置に応じて賃金が支払われたのである。

賃金を製品の出来高だけに結びつけた出

来高賃金制度の場合、労働者は品質などを輕  
視してもつぱら生産量を増やすことだけに  
努力するようになる。等級賃金制度は、工場  
経営にとつて重要な複数の要素を成績評価  
に組み入れることによつて、労働者の努力・  
注意力の配分を望ましい方向にコントロー  
ルする役割を果たした。

これら工場内の二つの革新に加えて、製糸  
業を取り巻く制度の革新にも注目する必要  
がある。

生糸の大部分は製糸工場から横浜の売込  
問屋に販売され、さらに外国商社を通じて主  
に米国に輸出された。製糸工場は、売込問屋  
に生糸を届け、代金を受け取る前に、生糸の  
生産、特に原料となる繭の仕入れのために多  
額の資金を必要とした。それを賄つたのが、  
主に売込問屋による前貸しだった。

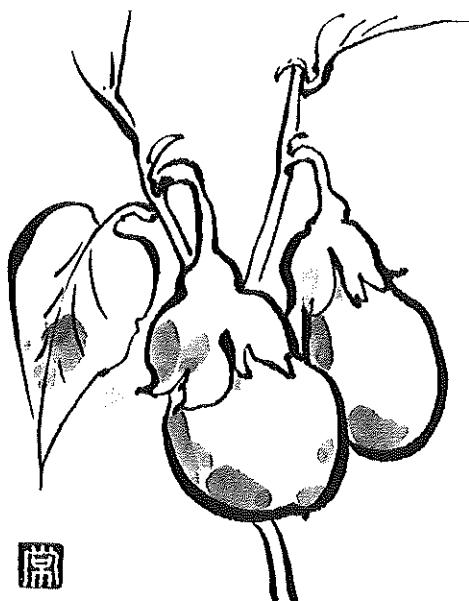
売込問屋はそのための資金を民間銀行か  
ら借り入れ、さらに民間銀行には日本銀行が

資金を供給していた。東大名誉教授で経済史が専門の石井寛治氏の古典的著作は、日銀を頂点とする階層的な金融ネットワークが日本製糸業の発展を支えた構造を描いている。

日本の製糸業の発展をもたらした技術的、組織的、制度的革新は、経済発展を理解するうえで普遍的な意味を持つている。今日でも、特に発展途上国においては重要性を失っていない。富岡製糸場と関連施設の世界遺産への登録が、このような日本の歴史的経験についてあらためて考える機会になればと思う。

58年生まれ。東大大学院経済学研究科教授。専攻は経済史、歴史比較制度分析。

八  
五  
九  
二



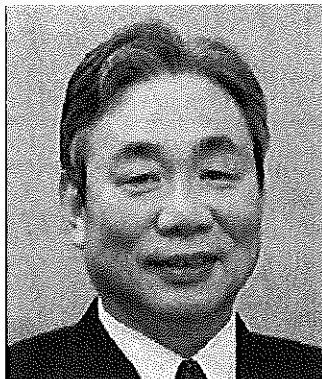
作品 関根常雄

## 東海道新幹線五十年

高速鉄道の国際標準に  
米リニア技術面で支援

JR東海名誉会長

葛西 敬之



東海道新幹線は今年10月に、50周年を迎える。この間、列車事故による旅客の死傷ゼロという記録を日々更新しつつ、今や、技術的な完成の域に達した。

昭和39年（1964年）に東海道本線のバイパスとして開業した東海道新幹線は、時速200<sup>キロ</sup>・片台の運転で世界の常識を破り、それまで6時間半かかった東京―大阪間を3時間に短縮した。この飛躍は想定をはるかに上回る旅客増をもたらし、東海道本線とあわせて開業初年度から黒字を計上、10年を経ずに全投資額を回収したのである。

この成功は、衰退の一途にあつた鉄道旅客輸送に「高速鉄道」という新たな活路を拓き、高速鉄道の建設が世界的な潮流となつた。

一方、国鉄の分割民営化以降、東海道新幹線は最新のパワー・エレクトロニクス技術を生かしたさらなる高速化、軽量化、高頻度化、省エネルギー化などの性能向上を急速に進

め、東京→新大阪間の所要時間は最速2時間25分、一日の列車本数は最大410本、年間の乗車人員は1・5億人を超えるに至った。

高速列車の高頻度運転は東京・大阪間500キロ・メートルの回廊を世界でもユニークなメガロポリスとして統合し、日本経済に計り知れない便益をもたらした。全国に20ある政令指定都市のうち、12都市が東海道回廊に沿って位置していることがそれを物語っている。

この東海道回廊型モデルは、省エネルギーで「グリーン」という時代の要請に応えるものでもあり、都市化が一層加速する世界的流れの有意義な範例となり得ると思う。東海道新幹線50周年を期して国際高速鉄道協会（I H R A）を創立し、日本型高速鉄道システムの国際標準化を推進することにした所以である。

まさに時を同じくして、21世紀に新たな飛躍をもたらす革新的な技術が実用化され、

早ければ今秋に東京→名古屋間に新たにバスが着工の運びとなる。超電導磁気浮上鉄道（S C M A G L E V \*）である。既に（リニア中央新幹線の）7分の1が実用仕様として完成し、実用車両による走り込みが日々繰り返されている。これまでの延べ走行距離は地球から月の距離の一往復を優に超える。

東京→名古屋間を時速500キロ・メートル、40分で結び、東海道新幹線並みの輸送力を持つSCMAGLEVは、新幹線とあいまつて東京→名古屋間の地域をあたかも一都市内にあるかのごとく融合一体化し、産業や生活両面における新たなモデルをもたらすだろう。50年を経て完成域に達した日本型高速鉄道と、時を同じくして実用化されたSCMAGLEV。それぞれを21世紀の豊かさと、その基盤である日米提携にいかに役立てるかが、今後の課題である。

日本高速鉄道の特色は、厳重に防護された

専用軌道を、自動列車制御装置（ATC）で制御された旅客列車が高速走行する仕組みにある。踏切での自動車との衝突や線路上での列車衝突を絶対に起こさせないこのシステムは、車両の軽量化、省エネルギー化と高速・高頻度運転を実現し、さらには軌道構造物に対する負荷も軽減できる。在来線とのネットワーク性は、駅での乗り換えを便利にすることで確保される。

一方、欧州の場合、19世紀の膨大な遺産である在来鉄道網を活用するため、高速列車は新設された高速区間と在来線を直通運転する仕組みである。その結果、踏切や在来線上での衝突に備えて車両は頑丈で重くなり、日本型高速鉄道のメリットの多くが失われる。

これから新たに都市間鉄道を建設する国々では、遺産として括用すべき在来鉄道網がないという点で欧州と事情が異なる。4月

10日に開催された国際高速鉄道協会の創立総会には、既に日本型のシステムを採用している台湾をはじめ、米国、豪州、英国、インド、シンガポール、マレーシア各国・地域の代表が参加し、10月22日に第一回の国際高速鉄道フォーラムを開催することが決まりた。いずれも日本型高速鉄道に関心を寄せる国々である。

具体例としては、まず米テキサス州のダラス↔ヒューストン回廊400キロに新幹線システム（NT00—1 Bullet）を展開する計画が挙げられる。現在の移動手段は航空機が主流で鉄道は存在しない。東海道新幹線並みの列車頻度と輸送力を持つ高速鉄道により両市が約80分で結ばれれば、両市とその間の地域は経済的に統合されたベルト地帯として計り知れぬ開発可能性を持つことになる。航空輸送はより収益性の高い長距離便に展開できる。21世紀の米国経済を牽引するテ

キサス州、その牽引力となるダラス—ヒューストン回廊という「図式」がここに見えてくる。それを民間主導で進めようとしている点がユニークである。

21世紀の飛躍であるSCMAGLEVにふさわしいのは、一に東京—名古屋—大阪回廊、次いでワシントン—ニューヨーク—ボストンと連なる米国の北東回廊である。第一フェーズとされるワシントン—ニューヨーク間は約350キロ、東京—名古屋とほぼ同じ距離であり、この回廊にSCMAGLEVが導入され、時速500キロ、毎時10本の頻度で運行されれば、ワシントン、ニューヨークはもちろん、この間に立地するボルティモア、フィラデルフィアなどの大都市ではさらに高密度な都市化が進行し、回廊全域が融合・一体化したメガロポリスとなる。道路渋滞は解消され、空港の発着枠はより効率的な長距離便に活用できるだろう。

最近、ニューヨークの若い世代の中では「BMW (bicycle/metro/walk=自転車、地下鉄、徒歩)」というライフスタイルが選好されていると聞く。生活スタイルの変革は既に萌芽しているのである。「北東回廊の交通インフラを抜本的に変革する必要がある」という認識は地域の人々に広く共有されており、「SCMAGLEVこそ変革的である」という声も広がりを見せつつあると聞く。

しかし、米国の脊柱とも言える北東回廊にSCMAGLEVを建設する計画は、連邦政府の決断無しには成立しない。その第一歩として、ワシントン—ボルティモア間60キロを日本が協力して建設し、同盟のショーケースとするなどを、安倍首相がオバマ大統領に提案したのは昨年2月のことであった。日本の貢献は技術の提供と国際協力銀行（JBIC）からの融資である。日米政府のイニシアチブで第一歩が踏み出されれば、そこで得

られる変革の実感が政・官・民一体の輿論となつて、ニューヨークまでの延伸は必ずから実現するのではないだろうか。そして、そのための技術面での全面的な支援は我々の出番と心得ている。

\* S C M A G L E V = superconducting magnetic levitation transportation system

葛西敏之氏 1940年生まれ。95～2004年、東海旅客鉄道株式会社（JR東海）社長。同社会長を経て今年4月1日から現職。政府の安全保障の法的基盤の再構築に関する懇談会委員。

葛  
西  
敏  
之



作品 関根常雄

## アジアと交流の輪を

持続可能な成長とエネルギー資源の使い方についてどう考えるか。

東京工業大学教授  
池上 彰

「政府は安全性が確保された原子力発電所から順に再稼働させる方針だが、震災前のように原発が電力需要の3割をまかなうのは困難。太陽光や風力による新エネルギーも十分な電力を供給できていない」

「日本もドイツのように、電力料金を高くしてでも人命を優先するのかどうか。まだ政府も国民も様々な意見の間を揺れ動いている状況だ」

アジア諸国と良好な関係を保ちながら、日本がアジアのリーダーとなることは可能か。

「平和国家として成長してきた日本はアジアの国々から尊敬されている。中国や韓国では反日的な論調もあるが、実際に日本を見て驚く中韓の若者は多い。若い人の交流を進めるべきだ」

「これまで日本が経済で突出していた



が、中国と韓国が台頭してきた。中韓がアジアのリーダーになりたいと考えるのは歴史的に必然。リーダーの座を争う状況は今後もみられるだろう。これからは日本が培つてきた『平和的な外交努力』がまさに問われてくる

「日本のものづくりの将来をどう考えるべきか。

「日本人には『技術さえ良ければ売れる』という思い込みがある。高度な技術を持つだけではなく、アジアやアフリカの人々が何を求めているのか直接現地に行つて知るべきだ。そうすれば彼らのニーズに基づく、品質のよい製品をつくることができる」

日本人のほとんどが欧米ばかりを見ている。

日本の若い人々に、もっとアジアを見てもらえるようにはできないか。

「ほかの国の良さを知ろうとする姿勢が大事だ。どの国からも学べるものがあるとい

うことを若者は知る必要がある」

「アジアの人々は（文化的に）非常に多様だから、欧州連合（EU）のような統合は難しい。だが、多様性による強みがあることをアジアも日本も考えていくべきだ」

「学術機関や国際機関では欧米が権威を持つ。日本はどのように影響力を行使し、世界に貢献できるか。」

「国運でも日本は多額の分担金を払い、それに応じた（人員）枠を持つている。だが日本からの応募者数が少なく、結果的に日本人の占める割合が小さい。枠があるのだから、そこに入つていく熱意が重要だ。日本人職員が増えれば、日本の影響力も増大するはずだ」

「アジア開発銀行では日本が主流だが、今後は中韓も影響力を強めていくだろう。日本だけでなくアジアのため、という普遍的な論理を組み立てることが求められる」

いけがみ・あきら ジャーナリスト。

長野県出身。慶大卒後、NHK入局。

「週刊  
こどもニュース」を十一年間担当。2005

年独立。12年から東京工業大リベラルアーツセンター教授。63歳。

述

上

彰



作品 関根常雄

## 中東の大統領選

民主的手法 権威主義生む  
アラブの春 見えぬ「幸福」

明治大学特任教授

山内 昌之



選挙は民主主義政治を支える基本的な制度だが、民意がいつも素直に反映されることは限らない。そもそもシリアやウクライナのように、内戦や分裂の状態にある国の民意とはいっていい何かという問題もある。

また、そこで実施される大統領選挙の正当性は、国際政治の力学とも無縁ではない。ロシアやイランは、シリアにおけるアサド大統領の選出を民意の反映と考えるのに、米国と歐州連合（ＥＵ）はそれを否定する。ブーチン露大統領はウクライナにおけるポロシェンコ大統領の登場を欧米の陰謀であり、ロシア系住民の政治参加の機会を奪つた非民主主義的な工作の結果と疑わない。

エジプトのシン大統領の誕生も含めて、最近の新指導者の選出は、形式においては選挙という民主主義の手法に依拠するにせよ、選挙の実態は日本や欧米が考える民主主義の原理や本質とは異なるものだ。

とはいへ、ウクライナやシリアやエジプトには、社会の不安定と無秩序を解決したいといふ政治のリアリティーが存在する。こうした世論動向に立てば、前国防相シシ氏らの大統領選出は必ずしも異常とばかりは言えないのだ。

アラブの春の掉尾を飾るはずだったシリア国民によるアサド氏への抵抗は、表面的に先の大統領選挙の投票率73・4%、アサド氏への得票率88・7%という数字に象徴されるよう、ひとまず変容を余儀なくされている。レバノンにいるシリア難民の相当数がベイルートのシリア大使館で投票し、数千人の難民がレバノン居住権を失わずに24時間だけシリアに戻つて投票した事実は、反政府勢力への幻滅が強まり、アサド政権による秩序安定と治安回復を求める機運が生まれていることを示唆する。

また、シリア政府の管理地域に国民の8

5%が移住し避難している現状は、内外の過激派勢力がアル・カーライダ系のテロリズムを国民的抵抗の外皮で包みながら、シリアにイスラム国家を樹立しようとする野心とその厳酷な地域支配に対する嫌悪感が強まっている点とも無縁ではない。

ソ連解体後のロシアやウクライナと、アラブの各共和国に多少なりとも共通するのは、エリツィンやブーチン、モルシ（エジプト前大統領）やアサドら各氏の当選が「民主的」手続きを経たといつても、ブルーラリズム（複数の異なる政治思想や対立政党の意見を尊重する多元主義）を許容しない権威主義体制を採用したことではないか。

彼らは選挙で多数の支持を得たことで統治の万能性を委託されたと信じる多数派絶対主義ともいべき独善に陥りがちである。エジプトのモルシ前大統領とその支持母体のイスラム主義組織ムスリム同胞団は、昨

年6月30日の「革命」で倒されるまで、「民主的」に選ばれた正統性を強調しながら、イスラム国家建設を可能にする「民主的」な憲法を作り上げようとした。しかし、そこには政教分離型の世俗主義派市民の権利や、コプトをはじめキリスト教徒の信教の自由を尊重する寛容性が欠如していた。

奇妙なのは、ムスリム同胞団が5月9日に出した「ブリュッセル文書」である。そこで同胞団は、オバマ米大統領やEUによる民主化へのこだわりを逆手にとり、エジプト最優先の課題を人間の安全保障に求め、民主化プロセスへの回帰を要求している。政教分離や信教の自由を否定していた同胞団だが、欧米世論を念頭に、自らを民主主義の旗手として誇示する宣言をEUの中心地で出したわけだ。この文書はエジプト国内でテロや暴力によって国内不要を煽る活動に少しも触れていない。

一方、トルコでは、ムスリム同胞団に同情的なエルドアン首相の今夏の大統領選への出馬も取り沙汰されている。同氏と公正発展党の民主主義的な政治手法も、各種選挙で支持を受けてきた自信のあまり、ブルーラリズムよりも多数派絶対主義に傾斜している印象を受ける。オバマ氏やEUが要求する中東の民主化は、選挙の実施を基準とする限り、今後も多数派絶対主義を容易に生み出す。

アラブの各共和国で最も民主主義に近づいた例は、各種の選挙を経験したイラクかもしれない。しかし、そこでも最近、内戦の危機が進行中である。

イラクでも目立つのは、ブルーラリズムよりも多数派絶対主義だ。かつてフセイン独裁権力の下、少数民族のスンニ派アラブ人が、多数派のシーア派アラブ人やスンニ派クルド人を支配した。だが今では、シーア派がスンニ派住民を選挙の多数派原理で抑圧していない。

る、と後者は不満を漏らす。

ラテンには「多数が与せし側は良識あふれし賢き側」という金言がある。だが多くのアラブ諸国のように、民族・宗派の帰属性が市民個人の投票の自由や判断を制約しがちな環境では、市民個人の投票によつて政治の状況を変えながら、選挙で多数派と少数派が入れ替わるブルーラリズムは成立しがたいのである。

確かに政治が機能するには、何らかの意味で国会や政治機構の多数派が国民全体の利益やコンセンサス（合意）を代表しているといふ考えを受け入れなくてはならない。しかも、多数派の決定が少数派を拘束するという考えは、もともとスンニ派イスラム法理論のイジュマー（合意）にも通じるものがある。エジプトのモルシ氏とムスリム同胞団は、さながら選挙結果を最高のイジュマーと理解することで憲法改正に動いたとも言えよう。

しかし、イスラム国家樹立を正当化する法解釈は、アラブの春に託したエジプト市民の大半の意思に反した。彼らがモルシ氏の排除とシシ前国防相の支持に傾いたのは、イラクやアフガニスタンで欧米の圧力から生まれた民主主義制度の機能不全とテロの跋扈を教訓として、エジプトの経済成長に不可欠の政治的安定と治安回復を、アラブ政治のリアリズムの観点から求めようとしたからだ。

シリアでは、サウジアラビアに後援された反政府勢力が暫定政権の樹立にこだわらずに、アル・カーディダ系武装集団と対決しつつ、アサド政権との権力分有という現実的選択に目標を切り換える可能性が高い。

他方、追放されたムスリム同胞団の一部などが「自由エジプト軍」を結成し、エジプトの体制転覆を狙つてリビアで訓練中との情報も伝わる。もし、これがシリアの反政府武装勢力「自由シリア軍」のようになれば、エ

ジプトの混乱は、シリアと同様、強力な国外テロリズムを招きかねない。

ムスリム同胞団追放の代わりにシシ大統領を選んだエジプト人たちは、「いかに相談するかを知る者こそ賢い統治者なのだ」というウマル（2代目カリフ）の格言実行をシリ氏に期待したのだろう。

いずれにせよ、アラブの春が希望から絶望の日々を経て、国民が幸福になれる展望はまだ見えてこない。

東大名誉教授。最新著に「中東国際関係史研究」（岩波書店）

山内公二  
（サムライ）



作品 関根常雄

定例講演会

於・八重洲富士屋ホテル

アベノミクス

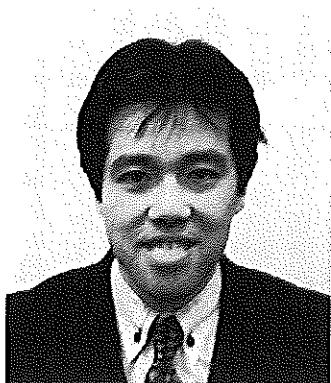
世界経済の潮流と

日本経済の方向

第一生命経済研究所

首席エコノミスト

熊野 英生



今、政労使の会合が頻繁に行われております。経団連と連合の幹部を官邸に呼んで、勤労者の賃金を上げると云う交渉です。

首相は全国津々浦々にアベノミクスの恩恵をお届けしたいと云う念願をもつてアベノミクスの發揮する真価を現実に發揮させたいと云う意欲の現れです。この時点でもうそんなことが言えるなと思うのですが、要するに、経団連の大企業の首脳の人たちの肩をたたきながら、全国に津々浦々まで恩恵を行き渡らせたいと私は言つているんだから、恥をかかせるんじゃないよ、と云うことを通じて実際に動かそうと、そういうのが安倍さんの政治的なプレッシャーなのです。

ところが考えるべきは、こういう社会主義的な計画経済で賃金が上がるかという問題なのです。実は大企業が六割にも及んで人件費を下げているというのは、これは利

益を上げるために行つてゐるものではあります。会社の利益拡大、利益至上主義で賃金を下げてゐるのではなくて、やつぱり賃金を上げられないような事情があるのであります。

将来、賃金を上げる、ベースアップをすると、将来、収益が圧迫されるようなプレッシャーになるのではないか。現実は、こういう恐怖感、強気の賃下げじやなくて、弱気の賃上げ抑制が働いていると、そういうふうに私は考えます。

ではそのファクターは何かと云いますと、恐らく社会保険料なのでしょうね。この会合の席でも中小企業の経営者の方々が多くおられて、よくご存じの方もいらっしゃると思いますが、社会保険料負担。年金保険料、健康保険料。介護もあるのですが、やっぱり健康保険料の高さが影響してきています。その協会健保は一〇%です。

これはすごい負担になります。法人税を払わない企業はたくさんあります。健康保険料とか社会保険料負担を払わない企業はほとんどないと思います。全部がパートで短時間労働だつたら別ですが。つまり、社会保険料の重しがあるから、だから、賃金が上がることに大きな抵抗があるのです。持参した資料のうち一つだけグラフを見ていたらしく、七ページ目に賃金動向を示すものがありますが、そこに労働需給と賃金上昇率というグラフを挙げております。これをごらんくださいと、皆さんに細かく見ていただき必要はないのですが、ここに書いてあることなんですが、読み方はこうです。

賃金と労働需給のバランスが、対応関係が、二〇〇四年に崩れたのです。二〇〇四年までは労働需給が逼迫していました。ハローワーク、職業安定所で出てくる有効求

人倍率が上に上がれば、つまり、求人と求職の中の求人のほうの大きさが大きくなれば、賃金が上がつていたのです。労働の時給関係から見れば、当然の理屈であります。もうちょっとわかりやすく具体的に説明いたします。人手不足になると、賃金が上がつていたのが二〇〇三年までの日本経済です。二〇〇四年以降は、労働不足、労働力不足になつても賃金が上がらなくなつたのです。こらはなぜでしょうか。

即ち、これは社会保険料の動きにかかってくのです。例えば、年金についてです

が二〇〇四年に年金については年金改革が行われて、二〇一七年まで毎年事業主負担として〇・一七%ずつ人件費がふえています。つまり勤労者の給料が上がるにそれには比例して、今度は社会保険料負担が、年金保険料がふえていきますよと。そういう先行きの計画を見せてしまつたのです。

今、年金の話だけしましたが、年金、それ以外はやはり健康保険料があります。健康保険料は、後期高齢者医療制度。二〇〇八年に導入されて、いろいろすつたもんだがありました。要するに、これは高齢者が悪いという話ではなくて、高齢者が使つた医療費の中の一定部分の負担というのが、

つまり、二十五万円の月給で正社員を雇いました。この二十五万円を二十年間上げるつもりはありません。こういう企業経営者でも、社会保険料負担を二〇一七年までこれだけ払わないといけません。つまり、見えないベースアップが行われていたのです。見えないベースアップは、現実のベースアップを抑制します。将来、人件費がふえると企業が思つているならば、その分、上げられる人件費の余地は少ない。つまり、ベースアップには応じにくいう方が働きります。

企業の健康保険料の引き上げで賄うと云うことだからです。自動的に費用を案分するような、そういうメカニズムが組み込まれたからです。

特に中小企業を中心に厳しい負担になつてゐます。中小企業は協会健保というところに入つてゐるのですが、今、法定の一〇%の保険料率まで急激に上がつてきました。つまり、年金という高齢化の負担と、健康保険料をふやすという形の医療の負担の両方を、企業が負担するようになつたので、中小企業の場合には、どうしても賃上げは自動的に抑制される傾向になるのです。

つまり、社会保険料の負担以上に利益が改善するような、そういう明るい見通しが出てこないと、企業経営者はなかなか賃上げに応じようとしないわけです。

この健康保険料とか、年金保険料を上げないようにするということ、これはちよつ

と不可能だと思います。日本はどんどん人口が高齢化しています。しかし、上げないようにはすることはできないが、このぐらいで、打ちどめだ、みたいなところまでは、やつてもいいのではないかなど思います。

つまり賃上げを本当に国全体でやるならば、医療費を減らすとか、年金の支給についてもいろいろ条件を見直しながら、年金の費用を縮小させていくことが必要なのではないかと思います。やつぱり社会保障問題に手を付けないと、結果として賃金はふえないのでです。つまり国は企業に対して賃上げ、賃上げというプレッシャーをかけているのですが、実はスカートの裾を踏んでないか。つまり、政府の社会保障制度自体を、もう少し抜本的に見直さないといけないのではないかと思うか。

でも、こういう社会保障を抜本的に見直すという見方で言うと、ちよつと悲観的に

考へざるを得ないような事情があります。

それは何かというと、年金の将来収支を五

か、消費税をそこに入れるかと云うことも  
検討されてくるでしょう。

年ごとに政府は推計しているのです。これを財政検証といいます。これは五年ごとにやつてゐる。実は今年、二〇一四年が財政検証の新しい年に当たる作業というか、一番新しい財政検証が今年行われそうなのです。

ところが安倍さんは最初から年金制度は現状維持をキープしたまま、もうさわりませんと言つてゐるのです。安倍さんは前の二〇〇六年のときに消えた年金問題を経験していく、年金に手を突つ込むといいことがないと、もう熟知しているのです。

ちなみに年金の收支だけ見ると、五年ごとに大きく運用利益というのは下方修正されれていています。大体現時点で言うと、五兆から六兆ぐらいの財源不足になつてゐるのです。だから、この財源不足を穴埋めするにはどうしたらいいか。保険料を上げる

これは、年金財政の収支が大きく狂つたという建て付けには今のところはなつてないので。消費税が八兆円増税されますが、それが年金の財源に充当されるようには今

のところはなつていません。

しかし恐らく、年金制度をいろいろ工夫しないと、二〇一七年以降、年金保険料を引き上げて、知らない間に厚生労働省の緊密な学者の人たちが、二〇一七年以降も年金保険料を上げないといけません、年金財政はこうなつていますからと。いつの間にか我々がどうしようもない世界で年金保険料が上がるかもしけないので。これは怖いことです。

実は、こういう社会保険料、社会保障の話をすると、専門家のほとんどは、年金も大変だが、医療はもつと大変だ。年代別で

見ると、医療費というのは、七十五歳を超えた後というか、七十歳から七十五歳、八十歳と段階的に急角度でふえていくのです。これをどうやって抑制したらしいのか難しい問題になっています。

今、年が更新されて確定申告の時期になっています。私の会社でも、自分が入っている健康保険組合で、どれぐらい医療費を使いましたかという通知が送られてくるのです。この前、それをあけてみてびっくりしたのです。二十五万円も使っているのです。

実は、私が使っているのではなくて、私の子供が病院マニアみたいな形で何回も病院にかかっているのです。何か具合が悪くなると専門家に見せないといけないといって、お医者さんにたびたび行っていたら何とびっくりした医療費がかかってきていたのです。自己負担自体はすごく少ないので

す。だけど、保険で払っている部分で二十五万円使っていたのです。やっぱり医療費は「見える化、透明化、可視化」しないといけないと思います。

自己負担を単に上げればいいとは思いません。しかし自分が健康保険組合などで肩がわりしてもらっている医療費が、どちらいかつていてるのかと云うことを「見える化」して、二十五万は使い過ぎだなと反省して考えないといけないと思いました。同時に、国民みんなが真剣に考えないといけないと思うのです。

今、皆さんは二十五万円が高いとお感じかもしませんが、平均すると一人当たり三十万円なのです。だから二十五万円使っている私のところでも、まだ平均以下ののです。高齢化、長寿化というのはすごくいいことだと思うのですが、やっぱり医療費は少ないほうがいいに決まっています。長

寿化と医療費が少ないということを両立てきないだろかというと、これは両立てきるのです。それは健康なお年寄りを増やすしかないので。

私は山口県山口市出身ですが、年初に私の親族がたくさん集まつて、八十歳の人が何人かいたのです。同じ八十歳でも健康状態がこれほど違うのかと思うくらい差が出ているのです。つまり、病気になる前の七十代、六十代、五十代といった若いころから健康づくりとか食生活で、健康年齢、健康寿命が大きく変わつてくるのです。

今の医療保険制度というのは、病気になつてから面倒を見るようになつていていますが、本当は病気になる前の健康管理とかをサポートしなくては、駄目ではないかと思います。そういうふうな体質改善が進まないと、医療費は減らないです。

どのぐらい効果があるか。今、国は、ジ

エネリック薬品、後発医薬品を使三十八、五兆円使うことによつて、毎年一、二兆円の医療費の軽減が図れると言つています。

全体の母数は、五兆円です。三十八・五兆円のうち一、二兆が減つたところで医療費全体は大きく変わりません。もっと劇的なことをしないといけません。

私は机の上のエコノミストなので、鉛筆を動かしながら考へると、今、七十五歳の人が七十歳のときの医療費で済むならば、つまり、七十五歳になつても七十歳のときの健康状態を維持できるならば、医療費全体が十一%減ります。つまり、四兆円弱ぐらゐの医療費が減ることになります。

今、スポーツジムに行くとたくさんの人たちが来ていて、みんなダイエットのためにスポーツジムに行つてゐるのかといふと、そうそうではありません。若い人よりもシニア層が主です。N H K の生活時間調

査というのがあるので、あれで試算してみたのです。六十歳以上の人たちがスポーツジムの利用時間の中の何%ぐらい占めるか。

二〇〇〇年のときは十五%ぐらいだったのです、六十歳以上が。二〇〇五年、三十七%。徐々に高齢者がスポーツジムを利用するウエートがふえているのです。

問題は、ダイエットではなくて、やっぱり健康寿命です。私の知っている割にシニアの会社の役員の人も、毎日朝スポーツジムに通つて会社に出勤してきます。スポーツジムで健康づくりをする世界というのは、もつともつと改善できるのです。例えば、

お医者さんがスポーツジムにいて、いろいろアドバイスしてくれたらどうでしようか。

私、実は、お医者さんに行つても余りお医者さんを信じないので。この会場にお医者さんがいたらちよつと恐縮なのですが、お医者さんからもらつた薬は全部インター

ネットで何のための薬かとか全部チェックしています。

人によつては、お医者さんは偉い、お医者さんの治療は万能だと思つてゐるかもしませんが、インターネット社会ではだんだん知識の格差というのが縮小してゐるのです。

これは、患者である、素人である私が傲慢なせいではなくて、私とかが、お医者さんのアドバイスを受けて自分で調べてみると、さすがこのお医者さんは有名なだけあつてすごいなと思う、そういう場面もあるのです。

何の世界でもそうですが、専門家があぐらをかいていてはダメなのです。やっぱり専門家の知識は大衆と共有化されて、ブラッシュアップされていかないといけません。お医者さんも、何を若造がこんなこと言いやがつてと思う世界から、あなたよく勉強

していますねと患者に対して云いかけるような、そういうふうな世界になると、恐らくは医療費も縮小されるし、治療の現場も合理的な対応ができます。こういう医療の構造改革をやって、それが成功すると、恐らく日本の財政問題というのは軽くなるのではないかと思います。

今、アベノミクスは経済成長一本やりです。だけど、あと三十四日に予定通りに消費税が上がると、財政再建と景気拡大と云う課題の一頭を追わないといけないです。この二頭を両立させるということがこれらのアベノミクスの課題であり、財政債権は単に金融の話ではなくて、社会保障をどうするか、あるいは、地方財政をどうするかと云う問題に取り組むことになります。より込み入ったような課題にチャレンジするということになるのかもしれません。アベノミクスが今、経済成長で非常に重

視しているのは法人税三十五%の引き下げです。これは、人によつては、消費税で庶民を増税し、企業に対しても減税かと怒るような人も少なからずいると思います。でも、私はこれは仕方ないかなと思います。なぜか。日本の法人税率は、今、三十八%で、この四月から三十五%になりますが、法人税率の実効税率が三十五%でも、中国、韓国の二十五%よりは高いですね。

私は、法人税の税率は引き下げて、今、税金を払つてない七割の企業があるのですが、もう少しみんな低い税率で法人税をたくさん払つたほうがいいと思います。つまり、課税ベースを緩和しながら税率 자체を下げていくのです。

こうやらないと、恐らく、海外から国内に来る企業も税率が高いままでは少ないでしょうし、国内の企業は海外に行つてしまします。そういう産業空洞化の圧力もより

強く高まると思います。

アベノミクスがこれからやらないといけないこと。これはアベノミクスだけではなく、どの政権でもそうなのですが、単に景気がよくなつただけでは解消されない問題があります。それは高齢化、社会保障、あとは労働市場の変容、非正規化の話です。あともう一つは、産業空洞化の問題です。

景気がよくなつても、なくならない問題を

解決すると、実は景気にもプラスの効果が及んできます。

アベノミクスは国がやって、国が主導して、こんなにすばらしい経済成長が実現できました。そういうふうな国家主導型の成長戦略じやなくて、社会保障とか民間の負担になるような、そういう部分を縮小するためのいろいろ構造改革に取り組んでいかなければなりません。

あるいは、非正規労働がふえて、なかなか家計を支える賃金が上がらない、一生パート、アルバイトで食べていかないといけないという人を、どうやって正規雇用にシフトしていくか。そういうふうな非常に地道な努力をしなければ、短期的には成果が上がりませんが、そういうところにもっと力を尽くすべきだと思います。

最後に、イノベーションの話をしたいと思います。

今の日本の高齢化問題、人口問題というのは、成長のポテンシャルをかなり制約していると思います。私は割に経済学が好きなのですが、経済学の世界では、労働力が減少すれば、人口が減少すれば、機械をどんどん導入して生産性を上げれば、経済成長率は維持できるのではないかと云われています。

これは新古典派経済成長理論というのですが、これは間違っていると私は思います。

どういうことかというと、労働力が減つて人口が減ると設備投資も減ります。ビジネスの現場の人はみんなわかっている話です。経済学は逆立ちしているのです。

どういうことかというと、お客様の数が少なくなってくる地域で、店舗展開をふやして生産性を上げようなんていう企業はないのではないかですか。なぜ日本が産業空洞化するか。法人税が高いせいもあります。しかしこれは、日本に工場を一個つくるよりも、ミャンマーとかベトナムとかパキスタンとか、あっちは工場をつくったほうが、人口がふえて購買力がふえそうだからそうした意思決定をするのですね。つまり、成長のポテンシャルが人口問題と重なって、日本は人口が減り低成長だ。海外は人口がふえて高成長だ。だから、向こうへ行つてしまふのです。

となると、これは深刻な話で、設備投資

にも労働力の増加にも依存できなくて、どうやつて日本が、人口が減る中で社会保障負担を負担し、生産性を上げていくかと云う課題を突き付けられているのです。やっぱりイノベーションしかないのです。経済学者でイノベーション、イノベーションと言ふ人がいるのですが、一歩踏み入つて、どうやつたらイノベーションが花開くか。

これは、学問的には解けないのです。経営学ではいろいろ諸説はあるのですが、教育を充実させていろいろ試行錯誤するしかありません。こういうときはやつぱり現場の知識に依存しながらイノベーションを考えいくしかありません。私は日本には、まだまだ規制緩和すればもつとイノベーションが出てくるようなポテンシャルがあるのではないかと思います。

リーマン・ショックが二〇〇八年にありました。二〇一二年に至るこの五年間に一

番成長した分野、イノベーションが華々し

く出てきた分野はどこでしよう。それは自動車だと思います。

二〇〇八年のとき、私の記憶では、中国で電気自動車がたくさんきて、ガソリン車はこれからなくなるのではないかと言わっていました。今、ガソリン車がなくなるから、トヨタ、ホンダ、日産が危ないという人はほとんどいないと思います。なぜか。自動車の競争は、燃費競争から安全を売る時代の競争に変わってきたのです。

つまり、自動ブレーキであり、自動運転にシフトしています。携帯電話。スマホの次は見つからないのですが、今の自動車の燃費競争の次は、安全を確保できるような自動運転であり、自動ブレーキであったり、そういう世界へ多分シフトしていくでしょ。ここがイノベーションの次のフィールドだと思います。今のフィールドと言つて

もいいかもしません。

実はこの自動運転で、二〇〇九年までは、国土交通省が、人間がブレーキを踏まないとドライバーが不注意になるから、自動ブレーキは禁止だつてやつていたのです。国土交通省自体は民間と組んで二〇〇九年からずっと研究をやつていたのですが、だけど、人間がブレーキを踏まなければいけないという概念が、長い間、規制緩和を阻んできたのです。

でも、それが切り替わると外圧じやないですが、スタンダードが変わると今度は、海外のメーカーが日本の当局に要請をして、スバルのアイサイトを初め、次々にいろんなシステムが出てきました。つまり、人間がブレーキを踏まないといけないというスタンダードが変わった瞬間に、日本のイノベーションというのはぐつと花開いたのです。

人間がブレーキを踏まないといけないと  
いう概念は、医療における対面診療でなければ診療報酬は支払いません、という原則と結構似てないでしょうか。

我々は、弁護士さんと面談すると、三十分で二万円とか五万円とられるのです。別に手は触れていません。だけど、二万円、五万円と、とられるのです。それがパソコンのインターネット、スカイプとかを使つて、税務相談でも弁護士のいろいろフォームの相談でもやつて、お金をとれないかといふと、お金をとれるでしようね。

医療について、触診しなくとも、健康管理の分野だけで遠隔診療ってダメですかといえど、それについては私は大いにチャンスがあると思います。

つまり、さつきのスポーツジムとか、そういうところでテレビ電話を通じて医療関係者からアドバイスを受ける。診療報酬に

ついては、ごく薄い部分だけ負担してもらって、あとプラスアルファの部分は、混合診療で患者というか、アドバイスを受けた人が払うようになります。そういうふうに対面診療の原則を変えていけば、過疎地域に医者が行かなくても、病院が過疎地域になくても、医療サービスはどんどん高度化するはずです。

そう考えてみると、やっぱり人間の固定観念というのがイノベーションをかなり制約していると云うことに気が付いてきます。医療については、競争があつてはいけないとか、医療について、混合医療を認めるとき格差がつくとか言つた観念が、イノベーションを制約している部分がかなりあります。こういう思い込みというのがなかなか難しい問題になつてゐるのです。

よく日本医師会がすごい抵抗勢力になつてゐると、紋切り型で責める人がいるので

すが、実はそういう組織の人たちの考え方と云うのは、すごく柔軟だつたりするのです。むしろ現場のお医者さんのほうが多いいろいろ新しい試みに対する拒絶反応を起こしたりする傾向があります。これについては、構造改革をしようと思つてもすごく深刻だと思います。

世の中、いろんなところに固定観念があるて、これはこうでなければいけないといつたことが、イノベーションを阻んでいるような要因になつてゐるのではないかと思います。今、イノベーションというのは山のようく沢山あると思います。

例えば、今ポケットに入れてないですが、私は出張するときはいつも、パソコン用の眼鏡でブルーライトを四十%カットするという眼鏡をかけています。三千円ぐらいです。それが何で私に必要かというと、目が疲れるからです。皆さん、目が疲れないで

すか。パソコンの画面が何で電子ペーパーじゃないのでしょうか。何でバツクライトのやつばかりなのでしょうね。どこか一社、バツクライトでないパソコンの画面を発売すれば、パソコン用眼鏡みたいに多分大ヒットすると思います。だけど、どこもやらない。カラージャイから。理由はいろいろあります。

あと、3Dプリンターです。3Dプリンターができるなら、3Dファックスつてできなさいですか。できるはずですね。3Dファックスができるなら、もつとプラスチック以外のいろんな素材でできるでしよう。変な話、いろんな素材を組み合わせて、現物をコピーするような、何というか、どこでもドアみたいな物質転送みたいなのも何かできるような気がしてきます。

あと、テレビ画面で手を動かすと、画面の中の球体がへこんだりしますね。あれは、

マッサージの人がこうやって、その球体が変化するのを電子情報で送つて遠隔マッサージってできないのかとか、そういうことも考えます。

私、整体をちょっとだけできるのですが、整体ができる私から言わせてもらうと、世の中にあるマッサージ器というのは、とても人間の手に比べるとかたくてどうしようもないと思います。

だから駄目なんだ、というのが普通の考え方かもしませんが、私とかは、まだまだビックカメラに置いてある肩もみ器というのは、もつともつと創意工夫すればグレードアップするとと思うのです。人間の手の触感に近いようなもみぐいになつたら、遠隔マッサージができるのです。遠隔治療も将来性があるとすれば、遠隔マッサージもいろいろチャンスがあるのでないかと思ひます。

これは、理系ではない一エコノミストが言つている戯言ですが、実は、日本経済は戯言が重要なのではないでしようか。なぜかと云えば、アイデアを出すのは素人です。だけど、アイデアを実現するのは技術屋です。あと技術とアイデアが組み合わさつてこれが商品化されたらおもしろそうだ、金を出そうというのが、金融の世界の人です。つまり、アイデアと技術とお金。この三つの融合がもつとフレキシブルに日本で出来るようになると、試行錯誤、トライアル・アンド・エラーでいろんな成功事例が出てくるのではないかと思います。

日本経済のポテンシャルというのは、恐らく、そういうアイデアをいろいろ試してみることだと思います。政府が何かやつてくれるから経済成長だと云うのは、そういう時代というのは恐らく二〇世紀に終わつていると思います。これからは民の時代だ

と思います。

アベノミクスが目指すべき方向というのは、政府主導でいろいろやつてあげる世界から抜け出すことです。そして民間に任せ、民間がいろいろアイデアを出すこと。そのアイデアが花開くようなイノベーションの下地、そういう環境をつくるということになるのではと思います。

消費税を乗り越えた後というのは、やっぱりもう一回、経済成長、どうやって日本の経済成長率を上げるかというポテンシャルの話が出てくると思うのです。そのときに社会保障改革とか、イノベーションの話で、もつと切れ味が鋭い意見が出てくると、日本も捨てたものじゃないと思います。アベノミクスについては、私自身いろいろ注文はあるのですが、全体でいくと成功してほしいと思っています。企業経営者の中にも、安倍さんが失敗すると日本経済は

もうだめなんじやないかと、そういうふうに思っている人が沢山います。期待するしかないから期待している人というのが、結構多いと思います。そういう意味で、消費税が上がった後、どうなるかということを見てみたいと思います。

一時間の話で四分ほど超過してしまいましたが、ご質問はこの後の歓談の席でいろいろといただきたいと思います。本論の話はこの辺にしたいと思います。ご清聴ありがとうございました。（拍手）

#### 質疑応答の部

○司会 熊野先生、有意義なお話を聞くことが出来、有難うございました。これから親睦、会食会に移りますが、臨機応変、ご質問がございましたら御遠慮なく、積極的に挙手いただきたく存じます。それに先立

ち、今、先生から補足的に話をしたい旨のお申し出がありましたので、よろしくお願ひ致します。

○熊野氏 先程、谷口社長に連絡質問をいただいておりますが、皆さんにちょっとだけお話を差し上げておくと、安倍さんにはいろいろ思想・信条があつて、集団的自衛権もそうですし、靖国もそうなのかもしれません、ああした類のことをやつたらいけないというのではなく、やる順序があると思うのです。

国際的な国と国との関係において、国民の将来の複雑な不安になつたり、あるいは社会保障に対するいろいろな懸念や、特に若い人たちの不安感があつて、それが増幅すると、民心に対してやたらに煽る結果になつてしまふと云うことでしょう。それと、あとは景気回復をもうちょっととしつかりし

てほしいと云う国民の期待と要望です。憲法改正もそうですが、順序として、自分がやりたい政策をするのはもうちょっと後なんじやないのかなと思います。

アジアとの関係でいくと、去年の十一月頃に、私は韓国の方とお話をしたのですが、その人は、日本人の私だからそういうふうに言うのかもしれません、パク大統領の日本に対する非常に反日的な姿勢というのは、韓国と日本のビジネスにとてもマイナスだと云うのです。韓国の中でもパク大統領の言動と姿勢に対しては、反対派が結構多いのですよ、と云っていました。

だけど、そういう人でも靖国参拝をやられると、韓国国内での意見と云うのはしゅーんと小さくなつてしまふので。やっぱり、アジアにいる親日の人たちに對して顔向けができないようなことは、ちょっとタイミングを見ながら、もうちょっと熟慮してほ

しいなと思うのです。

安倍さんは、安倍さんに近い人から聞くので、非常に人望が厚いという話もあるのですが、人の意見を聞いてやるということはいいことかもしれないのですが、やつぱり節度を持ちながら、自分のやりたいことというのには、順序としては最後にやつていただきたいと思います。

あと消費税の話ですが、やつぱり問題は、

消費税で増税された八、一兆円、一般会計には四・五兆円が入ります。これをどうするかというのは、今まで決まっている計画ではなくて、きちんとガラス張りにしなきやいけないと思います。

これについては、実は民主党政権のときの三党合意のところで、増税した部分を子育て支援に回すとか、実はもう社会保障財源のプラスアルファの部分に回しているよ

うなところがあつて、本当にそれは増税の使い道としていいのかなという思いがあるのです。

やつぱり財源に関しては、財務省はすごく嫌がるので、上がった税収をどこに使つたかという話はきちんとガラス張りにすること、もつと踏み込んで言えば、社会保障財源として、きっちりとした独立勘定をつくりて、それで收支を見ていくことが必要だと思います。

そういうのをやらないと、変な話ですが、これは三党合意のところで昔あつたのですが、二百兆円のお金を国土強靭化政策と称して使つていくみたいなことになりかねないので、そういうところは、今年、来年と、二回の消費増税がありますが、ちょっと政府に対する不安感として残されている部分だと思います。

### 関連質問

この間の国会答弁をテレビ中継でちょっと見る機会があつたのですが、安倍首相は

「私が国の最高責任者だ」と盛んに胸を張つておりましたが、そうした自覚は結構なのですですが、一緒にしては失礼かと思ひますが、かつてはヒトラーも東条英機も、最高責任者だったのです。とどのつまりは、最高責任者が独善的な考え方で暴走していくと、古今東西を問わず、結末は大体ああいつた結果になるのではないかなど思つていいのです。これで甚大な被害と迷惑を受けるのは、正直で勤勉な国民であります。

この最高責任者であると主張する裏には、単純な考え方でしようが、「民を無視した最高責任者」というのは理屈上ないのであって、先生は、政治、哲学的にはどのようにお考えになりますか。

### ○熊野氏 安倍内閣を支えているのは、こ

れは皆さん御存じかもしませんが、やっぱり菅官房長官に負うところがあります。

菅さんが非常に地味な役回りで、安倍内閣は何で安倍さんに注目が集まるかというと、嫌な仕事は官房長官が全部引き受けて、それも、長い政治家としての経験があって、自分の、俺がおれがと言わないで全部仕事をこなしている。そういう滅私奉公の菅官房長官が要になつているということが、安倍政権がうまくいっている一つのファクターです。

あともう一つは、TPP交渉で、ちょうどTPP交渉は決裂ぎみなのですが、フロントラインに鎮座してやつてているのは甘利さんです。経済産業省の大臣をされていたのですが、甘利さんは「安倍内閣で自分は大臣をやって、やめたらおれは政治家を引退する。なぜならば、自分は死んでも安倍

さんについていき、安倍さんのために身を  
粉にして働く。自分はどうなつてもいい」  
と言つてはばかりません。

そこまで安倍さんが素晴らしいとは、ち  
よつとまだシンパシーを感じるところが余  
りないので、だけど、そういうふうに  
滅私奉公する官房長官と、経済担当大臣に  
よつて、安倍内閣というのはスポットが安  
倍さんに当たるようになつてゐるのです。

これは、組織論で言うと、社長が自分で  
手を下さなくとも、社長にスポットが當た  
るよう影法師として働く人がいるとい  
うことです。それが本当のリーダーなのかな  
ど。これは御質問に対し逆の話として、  
安倍さんにはいいところがある、裏返して  
言ふと、この節度を踏み外して、おれがお  
れがとやると、この微妙ない関係は崩れ  
てしまうのでしよう。

昨今、内閣改造が夏にあるのではないか

と云ふことも噂されてゐます。きょう、官  
房長官がたしか否定していたと思うのです。  
将来、内閣改造リスクというのがあつて、  
鉄の三角形ぢやないですが、経済担当大臣  
と、官房長官と、首相。このバランスが崩  
れるとどうなるかわからないので、内閣改  
造自体が結構リスクのではないのかな  
と感じるところもあります。

#### 質問

中国、韓国が反日的な態度に利用しがち  
な、靖国神社の参拝についてはどうですか。  
先ほど先生が、この問題に触れて少しお話  
しになつていましたが。

○熊野氏 靖国神社は、思想・信条の話な  
ので、靖国神社に行きたいという人は行け  
ばいいと思うのですが、それは余り強要す  
べきではないし、さりとて日本人全体がみ

んな靖国神社に行つて英靈を拝むという感じでもないので。それを国家の總理がやつていいかどうかについては、もうちょっと慎重にやつたほうがいいのではないですかね。

#### 質問

アメリカも靖国参拝については失望したと、ああ言つていましたからね。

#### 質問

○熊野氏 これは相手がある話なので、靖国に行きたいかどうかは別の話として、中國とか韓国が攻撃する口実を易々とあげるというのは余り上手ではないと思います。これも思想・信条の問題なので、なかなか難しいと思います。

○ 皆さん、食事が用意されてきています。

召し上がってください、先生も實に若々しくて、童顔がいいんです。何とも言えない輝きがあつて、テレビで出てきて、あつ、

熊野先生だ！という具合にね。（笑）先生、実のところお幾つですか。

○熊野氏 僕は四十六です。

○四十六歳。うらやましいですね。私、三十八なんです。どうも失礼しました。（笑）三十八歳、すばらしいです。

#### 質問

何点か質問させていただきます。足元の景気のベースは、やはりアメリカの金融緩和政策がいつまで続くのかということ、現在は緩和がこのまま継続していくことだとと思うので。アメリカの出口戦略というか、出口のタイミングがいつぐらいなのかなと。それが果たしてちゃんとソフトランディングするのかということ。

それと、二番目には、中国の理財商品の三百兆近い不良債権があると言われている部分に関しても、かなり市場は織り込み始めてい

るのですが、近隣の国として、それなりに中國に進出した企業がかなり苦しんでいるといふこともあるので、そういう意味で、非常に世界のリスクだと考えているのです。この中国の見通しはどうかということ。

あと三項目は、私、資産運用の仕事に携わつてかなり長くなるのですが、最近、アベノミクスの中でも国内金融資産の一五〇〇兆円の活性化というのがかなりテーマになっています。

ここにお集まりの皆さんも、総務省の家計調査とかを見ると、基本的には日本の預金の、これは大体八〇〇兆ぐらいあると思いますが、その約八〇%近くが六五歳以上の方で保有されているということで、資産形成層は余りお金を持つてはいないのですが、そういう意味で言うと、先ほど、投信を持たれている方が一、五倍になつた、一、七倍になつたといふことで、高齢者の消費というのはかなり

景気を引っ張つてゐるということは非常にアグリードと思つています。

ただ、アメリカの過去二、三十年の資金フローの歴史を見ると、すべての若い人も株式投信を持たれていますし、そういう意味で言うと、ちょうど年金改革、レーガン政権時代に行われた一九八三年の、いわゆる非課税枠投資をマザーマーケット、特に株式市場に流し込むというような機運が、NISAの改正なんかも含めて、大分積極的に推進されてきているので、金融庁にしても、厚労省にしても、厚労省はDCの枠を、非課税枠をふやそうということで、そういう意味で言つて、長期投資の機運が少し高まつてきているなと思っています。野村なんかも回転売買をやめ始めたということですし、銀行業界も投信の回転売買、かなり厳しい指導があるので。プロはいいのですが、若い人はそれをやるなどもいつています。それから、分配型の商

品はやめろとも言っています。

毎月分配で、毎月配当を受けるような投信を多分買われていると思いますが、タコ配といつて、元本が毀損していくということを多分知らないで買われている方もかなりいらっしゃる。そういう意味で言うと、資産運用の部分が本格的に回り始めるとかなりこれは大きなレバレッジがきいてきます。中長期予測で、銀行で五年から十年の長期スパンでいくと、日経平均の1万円はフロアで、中長期的に言えば、二万円から三万円というレンジで。七万とか八万といつてはいる武者さんみたいたい人もいます。

少し中長期レンジの資金フローの動きを踏まえた上で、オリンピックの一〇二〇年あたりまで注目している株価動向というのがどんなようなレンジで見られているのかななんていうところも、別に先生の個人的な御意見で構いませんので、教えていただければ

おもしろいかなと思います。司会者が自分の書簡も述べてもらいたいと求めできましたので、たくさん質問して意見なども述べたりしてしまいましたが、よろしくお願ひします。

○熊野氏　ご参考になるご意見、ありがとうございます。

アメリカの金融機関は、大筋では、ことしの二〇一四年にかけてあと六回ぐらい買い入れ額を減らしていくような形になるのじやないかと思うのですが、これは消費税のハードルと同じように、次の三月ですが、最初の何回かは結構激震があるかもしれないのですが、そのうちちょっとこなれていくのかななど思っています。こなれていくというのは、アメリカの雇用拡大が、二十万人いくかどうかよくわからないですが、安定的にアメリカの雇用が拡大していく。そういうふうになると、アメリカの金融緩和というのはそんなに

ショックにはなりません。

これは浪花節の話になりますが、今のイエレン議長と前のバーナンキ議長は、相当自信があるからQE3、大規模な金融緩和をやめて、いつでも大丈夫だと多分思っていたのでしようね。これは本当に浪花節なのですが、そういう意味では、もしもこのQE3、金融緩和の縮小に失敗したら、今のアメリカは、イエレン議長という女性のトップであり、名譽失墜と云うことになりかねません。日本でIMFのフォーラムがあつたとき、そこの東京国際フォーラムでイエレンさんがスピーチしていたのです。だけど、この人のまさにスタート時点でアメリカ経済がこけてしまうと、本当にアメリカの中央銀行の議長の顔に泥を塗られるみたいな形になると思うのです。そういうふうな浪花節の世界ですが、アメリカはそんな失敗をするほどに弱くはないだらうという気もします。

波乱はやつぱり新興国です。アメリカはうまく実態経済の拡大にスイッチできたとしても、新興国の中でいいところと悪いところに分かれる情況でしょう。

私のうちよつと聞いた話をそのまま受け売りで言うのですが、一時期、毎月分配型ではありませんが、二言目にはブリックス、ブリックスと言っていたではないですか。ブリックス投信を買った人もたくさんいます。これは、アメリカの投資銀行のある人が、これからは、インド、中国、ブラジル、ロシアなんだ、これを合わせてブリックスだ。そういうセールストークを言つたのが大当たりした感じです。

ブリックスと言つて投信を売り出したあの人たちは罪深いですね、と言つていたのですが、恐らくは、これからはブリックスの中でも悪いところが抜けて、また新しい頭文字をとつた答申が出てくるのかもしれません。

しかし、これは要注意だと思ひます。アメリカはもう  
力經濟はうまくいくが、そのほかの国々とい  
うのは、新興国とか分かれるのではないかと  
思ひます。

あともう一つは、最近の話を言うと、つい  
この前、G20が開かれて、そこの声明で、  
これから五年間、世界の經濟成長率を二%引  
き上げていく、そういうのが声明文で発表さ  
れました。これにいち早くノーを突きつけた  
のはドイツなんです。一九八七年のときのプ  
ラザ合意の後、ルーブル合意とか、その辺り  
のときに日本とドイツに対する機関車論と  
いうのがあつたのです。これはどういうこと  
かというと、アメリカの經濟は停滞するから、  
アメリカのかわりにおまえ引っ張ってくれ  
と。そのお前とはドイツと日本でした。その  
ときにそう言われたのです。

これは、あのときの構図にそつくりです。

新興国は成長できないから、ドイツさん、E

Uを引っ張つていつてくれ。アメリカはもう  
手を貸しません。みたいな感じでした。

アベノミクスがもしも調子がよくて、日本  
の經濟成長率が一%ではなくて、二%か三%  
になつたら、ドイツと日本が機関車論みたい  
な形で、景気引っ張つてくれみたいな形で、  
またいろいろとアメリカから注文を押しつ  
けられる可能性があります。

今回のTPP交渉もアメリカの圧力で、重  
要品目五分野について圧力がかかっていま  
すが、アメリカに対し軽々しく条件を受け  
入れてしまふと、これから世界經濟が回復す  
ると、もつといろんなことを言われそうなの  
です。従つて日本というのは、アベノミクス  
が成功するか失敗するかではなくて、日本が  
成功していたとしても、成功したらそれなり  
にいろいろ注文をつけられるので、外交はや  
っぱり強くないといけないのではないか  
と思います。

あと中国の話は、私もわからないのですが、みんな不安に思っています。中国の理財商品というのは、日本でいう特金・ファンドみたいなもので、まさに簿外帳簿の部分です。ノンバンクがお金を出して。つまり、規制の金融機関というのは当局によつてがつちり固められているので、そうではないノンバンク融資の部分というのが、信託会社、理財商品を組成している会社に融資をしてやつているのです。

これは中国の八%成長がどうやら維持できなくなつたら、弱い融資案件からどんどん焦げついてきていて、どこでしたか、北朝鮮の上にある安徽省だつたかと思いますが、あれは石炭会社に対する融資が焦げついたので、理財商品がロールオーバーできるかどうかわからなくなつていています。これからまだまだああしたものは出てくるでしょうね。こういうミクロの話で言うと、中国は、至

つて不健全な形なのです。中国で実際にビジネスをしていたメガバンクの支店長さんたちの話を聞くと、上海とか北京とか、目立つところについては確かにバブル崩壊は深刻だつたが、中核都市とか、三番手、四番手とか、内陸部ではまだまだ成長すると云うのです。まだまだ農村から都市への人口流入があるので、成長のポテンシャルはあります。

そういう話を聞くと、中国でビジネスをやつている人たちは割にうまくいくと言つてるので、やつぱり短期楽観、長期悲観と云うことでしょうか。それと看過してはならないことは、中国は二〇二五年に日本以上にハイスピードで高齢化がやつてくるので、恐らく社会保障問題とか、高齢化問題というは経済成長のポテンシャルを維持できなくさせることになります。

だから、二二一年、二年はゴーストタウンみたいなマンションを償却しても、だれかがそ

の損失をかぶつて、また経済は回っていくのでしようが、時間がたつにつれて中国のポテンシャルというものは金鉱を掘り尽くすみたいな形になつて、おかしくなつていく可能性もあります。

中国がおかしくなるということは、即ち共産党の体制もおかしくなるということなので、そうなると、ロシアではありませんが、ロシアも今分裂して、その後、ウクライナの話がごちやごちやになつていますね。ああいうふうな形になるのではないでしようか。

評論家の中には中国が崩壊するみたいなことを言つている人もいますが、中国が崩壊したら一番困るのは日本とか韓国とかではないのかなと思う気もします。

最後の千五百兆円というか、今は千六百兆円だと思いますが、この有効活用というの本当に課題だと思います。今のままでは、相続税が上がつて、きれいに国庫に納付される

かもしないのです。

あれはやっぱり世代間移転をしないといけないと思うのです。シニアの人が持っている資産が有効活用されるというのは、単に株とか外債で高利回りで回ればいいだけではありません。恐らく子育て支援みたいな形で、これは格差が拡大することになるかもしれません、孫のために教育資金を出してやると云うことまで広げて考えないといけません。そういうことももっとフレキシブルにできて、日本の将来性を考える上では、少なくなつた子供の能力を高める以外にないと思うのです。今回、信託銀行さんとかは、孫のための贈与、子供のための贈与みたいな商品をつくつて割に入気を得ていますが、あれをもうちょっと幅広くやって行くことでどう。今、五十何歳、もう初老になつていて、資産が相続で移転されていくようになっているのです。千六百兆円のうち六割が六十

歳以上ですが、九百兆円ぐらいですかね、九百兆円が九百兆円の中で、「老老」の中で回っているというのが現状なので、やっぱり世代間移転、特に子供の人にお金が回るよう革新しないといけないのかなと思います。

あともう一つ、株式投資とか、そういう話を言うと、やっぱり今の日本の問題は国内のマネーがふえないと、このことだと思います。九十年代から現在に至るまで、海外投資家は四割から五割、六割と、どんどん取引ウエートをふやしています。これは日本が縮小しているのではなくて、海外が膨らんでいるからです。日本は個人マネーが成長しないので、海外のマネーが膨らんで、一定比率が日本に来ただけでも、どんどん外国人のウエートが高まっているというのが実情です。

マネー敗戦じゃないですが、日本のマネーをより飛躍的に大きくすることが肝要です。そういうことに関して、企業の会計制度とか

個人が運用資産にアクセスするようなところについて、もうちょっといろいろな改革ができるのではないかでしょうか、将来とも大きな関心事です。

一九九六年に金融ビッグバンが出てきました。あれは金融ビッグバンが、金融不安によつてなし崩しになつた後、何か具体的なプランが特に出てきているわけじやないので。金融立国と云う言葉は、政治家がよく好む話なのですが、本当に金融立国したいんだならば、個人のリテラシーを高めることです。

特に四十代から、リタイアするのが六十歳とか六十五歳だとするならば、リタイアする二十年ぐらいのときに投資のスキルを磨いて、自分の資産を老後の六十五歳以上を、どうやって運用するかという受け皿をつくらないと、金融知識がないまま資産運用に放り出されても運用できないと思うのです。

だから、そういう意味では、金融の知識普

及、あるいは、政府の啓蒙でもいいのですが、株式投資は怖いとか、利殖は汚いとか、そういう固定観念を越える世界になつて、もう少しフェアに考えないといけないと思います。実は、私、FP協会の役員もやっていて、ファイナンシャルプランナーの人たちとか割に近いのですが、もう少しファイナンシャルプランナーとかが身近な存在になればいいのかなと思つているのです。

この前、ファイナンシャルプランナーの協会で話があつたのですが、実は生活設計、マネープランを組まないといけない非常に潜在的な顧客はどこにいるかというと、病院にいるのです。病院で入院して、自分の将来の資産がなくなつて治療を受けられないのではないか。そういうふうに将来の老後の資金に心配されている方が、病院にたくさんいらっしゃると言つていたのです。

しかし、さつきの話ですが、病院でマネー

プランの話をすると、現場のお医者さんが理事長に言われて、患者さんのマネープランを相談していいと言われたのだが、周りにいるお医者さんが、「お金のことなんか相談して、そんなことは困ります。出て行きなさい」と云つてやられるらしいのです。

医療は確かに崇高な精神でやらないといけないのかも知れません。資産運用がそんなに汚いことかと云う問題です。決してそうゆう軽々なことではなく、そういう感覚をもつと学校の先生とか、お医者さんとか、警察官とか、自衛隊の人とか、もしかすると持つているとしたら、決してそうゆうレベルのものではないと、これも啓蒙の課題として真剣に考えて行かねばなりません。

#### 質問

先生のお話を聞かせていただきまして、私がどうしてもこういった、先ほどの金融業界に

在籍するものですから、ことしは、高い、上がれ上がるという会社の大号令のもとに仕事をしているんですが、

先生の、私、個人的にいつも気になつてゐるのですが、輸出産業の先ほどの企業業績が非常に好調だというお話なんですが、ただ、実際に、先ほど、個人、従業員といふんでしょうか、下のところまでお金が回つてこないというお話ですね。こここの部分というのをもう少し具体的に教えていただけるとありがたいのですが。

○熊野氏 私は年末から年始にかけて地方に行くことが多かつたんですが、東大阪に行つたとき、従業員が15人ぐらいの会社ですが、東大阪というと中小企業が集積しているところなんですが、自分たちは、為替が1ドル75円だったとき、自動車メーカーからコストダウンを要請されて、どうしようもない。

75円は狂氣の沙汰だ。コストダウンに踏み切るか。値段を下げて利益が出ないようになつた。為替が105円になりました。戻してくれましたか。全然戻してくれない。これがやつぱり実情なのでしょうね。

東海地域に行くと物すごい景気がいいです。また労働力不足かと。これは大手メーカーだけじやなくて、一次下請、二次下請。結構大きな自動車メーカーで、すごい利益が上がっています。だけど、それが東海地域以外に波及しているかというと、いま一つだと思います。

そういう意味で、やつぱり取引価格を上げる。素材産業とかは割にコストアップしたら値段は上げられるのですが、自動車とか電気ってなかなか値段を上げられないですよね。あとは、今、円安によつて潤つているのは大体自動車だけです。電気とか、まあまあというか、非常にしんどい部分を乗り越えた。

韓国経済つてサムソン一本足打法みたいなどころがあるのですが、日本のセクターも、今回の TPP もそうです。TPP がうまくいつたらどここのセクターがうまくいくかというと、自動車ですよね。どうやら日本経済も自動車に対する依存度がすごく強くなつてゐる。でも、自動車メーカーつて海外で値上げしないですね、ほとんど。ほとんどコストダウンで吸収してしまう。

今のように円安のときは下請等の取引価格を余り変えないので、上の部分ではすごい

利益がたまる。これを回していくというのが必要なことだと思います。今のところ、トヨタとかがベースアップに応じるような姿勢を見せてるので、それがどのぐらい波及していくか。あとは、取引先に波及すればいいのですが、それはよくわからないです。

2兆円ぐらい利益を上げたので、もうそろそろ値上げに踏み切つてもいいのかなと思う

いますが、それは個別企業が考える話なので。そういう波及の部分というのが本当に進むかどうかということが地域経済にとつては非常に活力になつていくので、もうちょっと様子を見てみないといけない。

賃上げするということは、恐らくは、今まで賃上げしたくなかった気持ちが壁が壊れるみたいな話なので。賃上げに寛容になると、ということは、取引先との価格の引き上げにも寛容になることにもつながるかもしれない

ので。  
デフレの犯人つて日銀じゃないですね。デフレは幸福の青い鳥と同じで、自分自身の心にあるのです。自分が経営者のときは賃上げしたくないとと思う。自分が消費者の場合は、消費税が上がるから節約しなきやいけない。そういう不確実性に対する恐怖感が意図せざる結果としてみんなの購買力を縮めてしまう。それを……

(録音中断)

……税の引き上げというのは、乗り越える、ブレーキスルーする一つの大きな転機になるイベントになるのではないかと思うので、これをうまく乗り切った後、不確実性が低下したから、設備投資だ、賃上げだと。そういうふうになるならばマイナスの回転がいい回転になるかもしれない。4月以降といふか、7、9月以降、注目しています。

さつき、安倍さんが右翼化するというのも、余りされちや困るのですが、わからないわけでもない。つまり、国の意思決定が、日本の隣の国家は非常にシンプルな意思決定がされて、日本の場合はいろんなブレーキがかかって民主的に進める。

しかし、日本自体は、先生がきょう大変詳しくデータをいろいろ重ね合わせていただいたのですが、消費税が上がつてどうなつちやうのかなど。

そんな三つをちょっと。ウクライナとか、中国の問題と消費税の問題をまた改めてお聞きしたいなと思って言いました。よろしくお願いします。

さつき、安倍さんとマイナスになるかわかりませんが、

先ほどのブリックスの話もそうなのですが、飛びますが、ブリックスも半分くらいは独裁国家みたいな。日本の周りつて結構独裁国家があるのですから。

○熊野氏 ありがとうございます。

私は、いろいろなところでアベノミクスに対してはかなり懐疑的な意見を言っているのですが、時の政権に対して、それを批判する

ような言論が許されているというのはすばらしい国だと思います。

中国に赴任した人は、中国がいかに、秘密警察じやないですが、恐ろしい言論監視国家というのをすごく身にしみて、日本に帰ってきて、ああ、日本はよかつたなど。

その人が言っていたのは、飲み屋で中国人の人の上着に間違えて上着をかけて家に帰つたら、電話がかかってきて、すぐ警察に踏み込まれて、おまえ、だれだれさんの上着をとつただろうつて。それは、恐らく、當時その人が監視されているということなのでしようね。

あとは、ケンタッキーとか言つたらちよつとまづいのかもしれないですが、中国では成長促進剤みたいなのが鶏とか家畜に食べさせて急速に、短時間で家畜を育てているのでそれを食べた一〇歳、十二歳の子供つて背がびよーん！とすごく伸びるらしいです。こん

なの健康にいいわけないですよね。でも、それが許されている。

そういうことが自由に、これはこうだと批判できない。これは恐るべき国家です。中国が悪い国だと全く思わないですが、体制維持のために余り行き過ぎると日本みたいな自由はなくなるのかなと。

きょうの昼間、実はアジアの人たちとディスカッショントしていたのですが、いろいろディスカッショントしてよく出てくるのは、まだまだ日本は我が国に比べればいい国じやないですかという話は出できます。だから、安倍さんの言動について、いろいろああだこうだと批判できるうちはまだいいのかなと。

危険なのは、時の体制に対し反対のことと言うと会社が圧力を受けるとか、組織が圧力を受けるとか個人が不利益をこうむるとか、そんなになつたら本当に日本はやばい国だと思います。そなならないことを祈りた

いと。

あと、ウクライナの話ですごくおもしろいのは、プーチン大統領は、EUと仲よくなつて、ウクライナにEUの中に入つてほしくないから、どちらかというと、独裁的な政権を間接的に支援している。でも、それは、ロシアというか、旧ソ連が崩壊して、その場をつなぎとめたいからプーチン大統領はそうしているのだというのは、何となくよくわかるわけです。

でも、ちょっと不思議に思うのは、2年ぐらいい前までヨーロッパというのはギリシャを加盟させて、どんどん肥大化して、余り変なやつをメンバーに入れるなよと言つていたのに、今はウクライナに来い来いとかやつていて、あれはどうしたことかというのは、私にはすごい疑問に思います。

不安定な国つてアルゼンチンとともにトルコがあるので、トルコも、よく考える

と、EUというか、西側のヨーロッパの中に入つているので、そういう組み合わせというのが本当にいいのかどうかというのが、だから、ロシアの問題というよりも、ウクライナがどこへ行つてしまふのだろう。ウクライナと一緒にやつていいこうとするEU自体がまたおかしくなりやしないかとちょっと疑問に思うところはあります。

あともう一つ、三問ほどありましたね。あともう一つ何でしたつけ。

○ 消費税ですね。

○熊野氏 消費税はやつぱり10%でとめたほうがいいと思うんですが、だけど、消費税は、

消費税つて前門の虎、後門の狼なんです。消費税で景気が腰折れすると、消費税は上げられないから、財政債権についてはまずいことになる。でも、消費税が無難に上げられるとすると、一〇%じやとまらなくて、一〇%

ぐらいまで行くかもしない。

これは財務省がそういうふうに仕掛けているんだと言う人もいるかもしないですが、それはどうかよくわからないですが、やっぱり消費税を上げるのはここまでと。

昔、小泉さんが自分の時代は消費税を上げないと言いましたが、ポピュリズムじやなくてそういうふうに決めて、あとは社会保障改革をやるようなリーダーが安倍さんの次に出てこないといけないと思うんですが、そこはよくわからないと。

#### 質問

隣に友人がいるもんですから、ちょっと話させてください。

○・・氏 すいません、先生、実態経済の話と違うんですが、私、インターネット上でかなり取引をしているんですが、最近、去年の12月でしたか、ネット上の架空通貨がござ

いますね。

ビットコインといつて、一時日本でもニュースに載つたことがあるんですが、これが中国の影響で大暴落を今起こしていますよね。この現状がどういうふうに今後なるのか。

あるいは、ビットコイン市場、ネット決済の拡大に伴つてこのマーケットが広がるんじやないかと私個人的には思つてているんですけど、その辺、専門家のお考えはどのような状況なんでございましょうか。わかる範囲内で結構でござりますので、教えていただきたいと、こういうふうに思います。

○熊野氏 ビットコインは余り詳しくないんですが、でも、あんなに暴落したり混乱するということは市場がやっぱり小さいんでしょうね。ビットコインの市場がどれだけネット空間で大きな存在かというのはよくわからないですが、中国が規制したくらいで大

きく乱高下が起ころうることは、まだまだ規模が小さいのかなと思います。

しかし、インターネットってやつぱりグローバルですよね。境がない。ああいう通貨といふか、決済手段が拡大していく趨勢というのは多分とまらないんじやないかと思います。ビットコインは日本人がアイデアを出したとかいう話ですが、もつと次々にいろんなものが出てくるんじやないですかね。

中国にとって一番ビットコインが目ざわりなのは、中国政府、あるいは、中国人民銀行がコントロールできないような手段が拡大していく、よく御存じのとおり、中国人ってお金持ちになると海外に投資したり資産を分散したりするじゃないですか。共産党の幹部でも。

そういう意味では、本当は中国人の中で資産を安全なところへ投資したい人って山ほどいるんじやないかと思うんです。だから、

その反対側の話として、ビットコインみたいな管理できない決済制度というのはすごく目ざわりだったので、今回は打撃を与えた。

これは通貨の問題とか金融の制度全部そういうんですが、規制対フリー対レギュレーションという闘いが今回も起ころうた。だけど、恐らく、フリー、いろんなニーズがある限り金融はいろいろ革新していくので、第2、第3のビットコインは出てくると思いますし、ビットコイン市場もまた大きくなるかもしれません

○ありがとうございます。

○熊野氏　余り質問を強要するわけじやないですが、こっちサイドの方で何か。関係がない話でも全然結構なので。

○佐々木氏　FECの・・・さん。ちょっとお話しになり御質問なり。

○　余り経済情勢は私は詳しくはないんですけど、今、一番気になること、関心事という

のは TPP 交渉の行方なんです。アメリカは、日本の妥協案といいますか、がんと首を縊に振らないですね。これは独特的のアングロサクソン系というようなナショナリズムの一つかなと私は思うんですが、実際のところ、どこまで織り合うかということが問題になるかと思うんです。

例えば、日本の米農家にしてみますと、もつと付加価値をつけて高品質のものをつくって、そして、大規模農場みたいな形で原価コストを下げる。若手を起用してどんどん自動化していくとか、いろいろそういう工夫、改善ということも聞いたことがあります。

ただ、アメリカの大規模農場というものは、多分、数、そして、価格的には勝てないと思うんです。アメリカは自動車産業を何が何でも守りたい。そして、また日本は米を主食としていますから、何としてでも米の農家を守りたいということがあると思うんです。

実際のところ、妥協点がどうなるかはまだ全然先行きが読めないんですが、一体どっちが日本の国益にかなうのか。それが私の今最大の関心事でありまして、その辺、先生の御見解というものを見通しというもので御説明いただければと思います。

○熊野氏 TPP 交渉についてコメントしにくいのは、TPP 交渉って秘密会合で、何が起こっているかよくわからないというものが実情なので。アメリカがどこでかたくなで、日本がどこで柔軟なのかもよくわからないので。

全体としてはよくわからないですが、限界的な部分だけでコメントすると、もはやあれは経済問題じゃなくて政治問題になつていて、アメリカのオバマ大統領は、大統領いろいろ交渉条件を一任してほしいという TPA というのを議会から承認を得たいと。そのためには今は妥協できないという、組織の

中のプレッシャーがある。

日本については、もう既に重要5品目については国会決議で妥協しないとやつているので、これは、妥協すると、国会の決議つて

そんなやわなものだつたのかという話になつるので、両者引くに引けない。どこで落としどころをつくるのかというのが非常に重要なので。

よく新聞情報で言われている話は、次の会合は5月にあるらしいんです。5月の前に4月に日米首脳会談でオバマが日本にやつてくる。安倍晋三は軽々しく重要5品目について妥協するんじやないか。だから、今回が重要なだみたいな、そういう話があつて、これは結構うそじやない話らしいですが、そこが心配だと。

あと、経済問題について言うならば、TPPは国際問題とかがある。国外問題である面と国内問題の面があつて、変わらない農業を

変えるには今のTPP交渉というのは多分すごくチャンスだと思うんですが、これで変わらなければ日本の農業つてどうしようもないな。

私も含めてちょっと反省するんですが、日本の農業はすばらしいのを言い過ぎたんじやないか。現実の農家というのは、9割がほとんど高齢化で、今までのビジネスモデルを劇的に変えるなんていうことが物理的にとどうか、現実的には不可能だと思います。

だから、フェードアウトするしかないんですけど、残り1割のアクティブな農業関係者がほかの9割を肩がわりできるかというと、そんなことはないのかなと。現状維持の範囲でここまで、

だから、私は、重要5品目についてはある程度保護は必要だと思うんですが、奇貨にするこという話があるじやないですか。今回のTPPを奇貨にしながらどうやって体質改善

をやるか。日本の農産物ってすごい高コストだと思います。

私があるところに講演に行つたときに、窓口だった人は、親が桃農家だったんです。その人が言つていたのは、農協が価格を管理する。特に岡山の場合は水蜜桃と言わわれている。でも、農家は泣いています。

自分たちが一〇個に1個ほどすゞくいい桃を見つけて、農協、JAにそれを納品する。そうすると、JAはさらにしてそれを選別して、何%か何割か捨てているらしいんです。桃農家の息子の人はそれを知つて、心をぐしやぐしやに、何ていうか、もみくしやにされるほど悔しかったと言つていました。そんなことをしてクオリティーを管理する必要があるんでしょうか。

私もよくりんご狩りに行くんですが、スーパーの店頭に並んでいるりんごは、りんご狩りに行くと、20個か30個、木に1個か2

個なつているすごいいいものですね。あんなもの要らないんじやないですかね。少なくとも、今、私、四六ですが、私が一〇歳ぐらいのときにスーパー・マーケットに行つたら、もつとへんちくりんなりんごがたくさんありました。へんちくりんなりんごでもいいから。アメリカのスーパー・マーケットとかでサイズの小さいりんごが山のようにあつて、中には本当に売り物なのかなみたいなのが入っていますが、それに比べると、日本の流通市場というものは、スーパー・マーケットや小売店がすごいパワーを持つていて、農家に対しても高品質なものでないと受け入れないとやつていてるので、それが高コスト構造をつくっているので、と思います。

そういうのを体質改善するにはTPPといふのはすごい衝撃波だと思いますが、繰り返しですが、それで体質改善できなかつたらアウトだと思います。

あと、国際的な問題で言うと、TPP交渉が決裂すると、昔、ガット・ウルグアイ・ラウンド。WTOの枠組みで一気呵成に自由貿易をしようとして、あれが頓挫したんです。

そうすると、自由貿易の流れって5年から

10年ぐらい後退して個別交渉のFTAとか

EPAになつたんですが、今回のTPP交渉が決裂すると、恐らくは、自由貿易の流れというのは振り子が逆に触れるんじやないか。

これから日本は、二〇二〇年、二〇二五年にかけてどんどん少子高齢化が進んで、製造業は国内の市場に依存できなくなるので、やつぱりアジアと連携しながら、国内じやなくて、海外に市場活路を設けないといけない。これは円安になればいいという話ではなくて、恐らく、貿易連携とか経済連携をどんどん深めていかないといけないので。

TPPが二〇一四年に決裂してしまうと、

やっぱり間に合わないというか、日本の企業が活路を見出すグローバル化に物すごくビハインドになるというか、足かせになるような気がするので、成長問題としてはそういう反作用みたいなところが怖いと思います。

○ どうもありがとうございました。

続く

## わが回想記

早稲田大学名誉教授

堀江 忠男

中ソ和解の根底にあるもの

月初めにモスクワで行われた中ソ外相会談で、来年前半にゴルバチョフ・ソ連共産党書記長が北京を訪問、中国の鄧小平中央軍事委主席と会談することがきまつた。中ソ和解も定着した感じである。では中ソ対立とは何であったか。

一九四九年、中華人民共和国成立後の数年間は「向ソ一辺倒」「東風は西風を圧する」というスローガンに象徴される中ソ蜜月時代であった。対立に転じたのは、一九五六年二月のソ連共産党大会でフルシチヨフ第一

書記が平和共存政策を打ちだしたとき以来である。それに基づいて同書記は五九年に米国に渡って国連総会で「四年間完全軍縮」を提案、アイゼンハワー米大統領と冷戦緩和を語つた。

この平和共存路線は、自らを第三世界の指導者とみなし、その総勢力を結集してアメリカ帝国主義と対決しようとする中国の世界革命路線とは相いれなかつた。

中国は当時、米国との原水爆戦争をも覚悟していたようだ。米国が核戦争を仕掛けてきても「人類の壊滅などはありえない。勝利した人民は、帝国主義の廃虚の上に、資本主義制度より幾千倍も高い文明を急速に創造する」(『紅旗』一九六〇年、四月十六日号)。

この根本的な世界政策の相違から、中ソは急速に敵対関係に移行していくのだが、その両者に一つの共通点があつた。社会主义は、その体制の優越性ゆえに、近い将来、資本

主義に追いつき追い越しうるという確信である。

一九六一年のソ連共産党綱領は「あと十年で人口一人当たりの生産高で米国を追い抜き、そのあと十年で、共産主義社会が建設され、貨幣は死滅する」と規定している。

中国では一九五〇年代の末期に、「十五年前後で鉄鋼など主な工業生産高で英國を追いこす」「大躍進」を開始、農村では合作社を大規模な人民公社に改組した。そこで貨幣不用の共同生活が「必要に応じて受けとる」共産主義の理想郷の出発点とされたのである。

それ以来約三十年、中ソ両国において、社會主義「計画経済」の行き詰まりは明らかとなり、中国では「中國特色的社會主義」ソ連ではペレストロイカという旗印で、利潤動機、市場機能を重視する改革に取り組んでいる。「資本主義の全般的危機は深まり、その歴

史的滅亡の運命はますます明らかになっている」（一九八六年、ソ連共産党綱領新稿）というのは「建前」で、現実にはソ連も中国も先進資本主義国との経済交流・援助を當てにしながら改革を進めなければならない。トマス・モアの『ユートピア』（一五一六年）以来の貨幣不用の理想郷の夢からさめた両国に、いがみ合う必要も余裕もないはずだ。今回の和解は本物であろう。

（88・12・10）

### 『惡魔の詩編』と日本国憲法

『惡魔の詩編』、サルマン・ラシディが最近ロンドンで出した本。イランの最高指導者ホメイニ師が激怒して死刑を宣告した。E.C十二カ国がそれに抗議してイランからの大使を召還、イランが対抗して各国から大使を

召還するという国際問題に発展してしまった。

『悪魔の詩編』にはイスラム教の開祖マホメットをもじった「預言者マホウンド」が登場する。マホウンドというアラビア語はわいせつな意味をもつ。彼の妻たちが売笑婦として描かれ、しかもマホメットの実在の妻たちの名前がつけられている。

これではイランのイスラム原理主義者が憤慨するのも当然だ。しかし、暗殺を指令し懸賞金までつけるとは、国際法規・慣行に照らして常軌を逸している。

ただし、ここまでこじれたのには歴史的な背景がある。第一に、欧米人がイスラム教についてほとんど無知で「原始的」な宗教と侮めこんでいることだ。ところが、イスラムの教義によれば、ユダヤ教、キリスト教を土台にし、同一の神を信じる宗教であり、モーセ、キリストなどのあとに現れた最高の預言者

がマホメットなのだ。

第二に、イスラム圏の諸民族は現在では後進的な地位にあるが、ギリシャ文化を中世期に継承・発展させたのはイスラム教徒のサラセン文化であった。ヨーロッパはそれから学び、また間接にギリシャ文化を輸入した。

こういう歴史的・文化的背景をもつだけに、今度の事件の底流にはイスラム教に対する西欧の無知と蔑視への反発があつたようだ。それにしても暗殺宣言は過剰反応だが、コートランを開くとわかる気がする。コーランの各章は「慈悲深く、慈愛あまねきアッラー」で始まつており、「わし（アッラー）の慈悲は広大で一切のものに及ぶ」という種類の表現も多いが、不信心、異端には實に厳しい。一例をあげよう。

「預言者よ。信者たちを駆り立てて戦場に向かわせよ。（敵を）思う存分殺した上でなければ捕虜など作るべきでない」

原理主義者とはコーランの教えを文字どおり実行しようという人びとである。イスラム

世界ではいまは少数派だ。ほかのイスラム諸国では『悪魔の詩編』を発売禁止にする程度ですましているようだ。

イランの国はとしての原理主義に、外國のわれわれがとやかくいう余地はないが、それを対外問題にまで押しひろげることは考慮してもらいたいものである。

最後に一言。この事件は、日本国憲法で保証されている「思想および良心の自由」（第十九条）「信教の自由」（第二十条、宗教を信じない自由を含む）の貴重さをわれわれに改めて教えてくれる。

(89. 2. 25)

「貨幣のない理想郷」の崩壊  
いま共産主義諸国に起つてゐる変動、改革の根底にあるのは共産主義經濟の行き詰まりである。なぜそうなつたのか。実は出発点から間違つていたのだ。

トーマス・モアの「ユートピア」（一五一年）は、私有財産を否定し、貨幣を廃止することによつて、幸福な生活を営んでいる理想郷の物語である。この国では「金や銀で便器を作る」。

これがマルクス・レーニン主義の共産主義経済運営理論の原型になつた。「共産主義の原理」（一八四七年、「共産黨宣言」の草案）にすでに、「資本、生産、交易を國民が握れば、貨幣は不用になる」という一節がある。

レーニンは一九二一年に「われわれが世界的規模で勝利したら、世界の大都市では金で共同便所を作ることになるだろう」と述べた。

スター・リンも毛沢東も、貨幣のない理想社会の到来を信じて疑わなかつた。フルシチヨフが主導して作り上げた第三次ソ連共産党綱領は、一九八〇年までの二十年間に「ソ連では（高次の）共産主義社会が建設されるので貨幣は死滅する」と断言した。

これらの夢はすべて破れた。共産主義諸国は貨幣機能の活性化、市場経済の導入に軒並み苦労している。

「貨幣のない社会」の建設、これは始めから失敗するにきまつっていたのだ。国民経済計画を立案するには、自動車百万台、船舶五万隻、背広一千万着で合計千百五万などという計算はできない。貨幣単位で評価するほかないのだ。金の共同便所のある（？）社会主義先進国AとBの間の外国貿易も物物交換では円滑、大規模にはいくまい。為替レートの設定が必要である。

「科学的社会主义」の主唱者たちが、なぜ

こんな常識的なことに気がつかなかつたのか。これを共産圏内で論じようとすれば政治の民主化、思想の自由化が必要になるのだ。最後に、トーマス・モア自身がユートピアの制度について、「貨幣のない社会」は現実には考えられない、との感想を述べていることを付記しておく。

(89.9.16)

「天職とは」

ランコ岩本

(米国ジャーナリスト)

自然界から多く教えられ、学び、納得して  
きた私なので、生きとし生けるもの全て  
に天職あり、と思えてならない。

「生きとし生けるもの」には、草木、花、  
魚、などは勿論、ペットや他の動物も含ま  
れるし、人間も、その延長からなる国家も  
含まれてくる……と、私の頭の中ではな  
つてている。

授かつたままに、

あるがままに、生きること

靈長類の長と自負する私達は、天職の  
ままに生きている「花」にも上下をつけ

てきた。例えば、薔薇はたんぽぽより地  
位が高く、故に高価となる。でも、たん  
ぽぽやチューリップ、すずらん自体には  
「階級意識」は無いだろう。だから、た  
またま隣合せとなつても、卑下も奢りも  
なく、本来の姿を全うして「美しい」の  
だと思う。

人間も、花に例えるなら、薔薇系、チ  
ューリップ系、たんぽぽ系云々となるだ  
ろう。古今を通じて私たちは、「Who am  
I?」と問いつけてきた。社会通常の「肩  
書き」でひとまず落ち着いても、本人自  
身が納得していないケースが多く、無意  
識に真の自己探しを続いていることが以  
外と多いようだ。

自己探しは、あまり執念深く探求する  
より、可能な限り自身の内部の「声」に

耳を傾けながら日々の諸事に応対して生きている中に、自然に判明するようと思われる。自身で気付くこともあれば、人との会話で気付かされることもあるう。

私の場合は、大学生だった姪との会話が自己発見のきっかけとなつた。

### 姪の穿った質問

1956年に留学し、数年後アメリカで社会人となつた私は、日米貿易摩擦や文化摩擦の仕事に忙殺される日々で、自分のことを考える暇などなかつた。年末に一ヶ月帰国しても最大関心事は「変わり行く日本」で、その観察、記録に没頭していた。

「お坊さん」に噴出した私だが、なるほどなあ、と感銘した。自分が常に「生と死」を課題としてきたことを気付かされたからだつた。私が絵を描くようになったきっかけは、米生活に疲れ「自然界に憩い」を求めて、だつた。JFKが暗殺された日に、徹夜で月光の夜の絵を描いたのは「生と死」にとり憑かれていたからだろう。「ビジネスマン」は1978年に独立し起業して会社経営者となつてからだ。

自己探しに熱中していたに違いない姪は、凄く私の「生き方」に関心を抱き、

姪の質問で何かが私の中ではつきりし、次ぎの様に答えた。「私は、『感じ、それを咀嚼し、記録し、伝える』人間」と。つまり、全て「過程」で生きる、世の中の動向も「過程」で思考する人間、となる。

留学生時代「カルチュア・ショック」で悩み鍛えられ、社会人となつてからは「日米文化摩擦」諸事に関与して、私の中で「世界の中の日本」はどうあるべきか、が年ごとに少しづつ具体化していく。ベアテ・シロタ・ゴードンの死で、「日本の天職」がはつきり、私の中で具体化したのでそれを書きたく思つてゐる。



作品 関根常雄

## 昭 経 俳 壇

三 郎

ひとり身となる夏蒲団軽きかな

蕉風や地球儀回し旅支度

夏山やときに木橋の軋む音

夏雲や南北戦跡俯瞰して

音痴かな夏鶯のまのび鳴き

朝焼けに五番街の窓燃えてをり

夏野行く草のいぶきのはげしかり

雷神の雲のとりまく摩天楼

鯉のぼり友に五人の孫のゐて

わが連れは自由の女神と夏の月

郭公の声や旅寝の夢うつつ

千鶴子

草矢吹く空に尾を引く光の矢

花わさび水引く朝の清しさよ

恩師より句集賜はる薄暑かな

のぼりたて嫁を迎へに棚田まで

山人

嫁ぎし子神輿担ぎの里帰り

富貴男

紺青の雨のしみる濃紫陽花

父の日や藏書の中の恋手紙  
露の葉を炒めて苦き夕餉かな

更衣追憶たたみてしまひけり

夏潮やみなと横浜倉庫街

倉庫街白き日傘の乙女たち

夕立や過疎の木曽路をひとり旅

あじさいのひと雨ごとの悲しさよ

H・ドッペル  
フェルト

宵山に天満宮の鉢すすむ

東海は翠・碧・蒼の五月晴れ

單物着痩せの妻をしげしげと

あじさいの変化始まる時間かな

峠の田の田植終るや旅支度

剣太郎

怨めしや夏風邪に臥す旅の友

ライン河往かども往かども麦の秋

梅雨に入る机上の書物整理して

虹の橋スロバキアからチエコ跨ぐ

どんぐり

やませ吹く斗南藩址は墓ばかり

草苗を吹く子に小牛甘啼く

今生の夕焼鞆靼海峡に

白き雲ねらひさだめて草矢吹く

往診医手を拭きて賞む金魚鉢

里青葉嫁を迎へる過疎の駅

退院の人譲られ金魚鉢

巫女ふたり早乙女となる泥田かな

麦秋や大陸横断貨車百輛

涼風や棚田にさざなみ立つ夕べ

悟風

夏帽子つづく木道尾瀬の原海

黒板に明日からのこと夏休み

人の目があまりに多し螢狩

一雨に白紫陽花の紅はけり

青春の片陰に立つ神保町

紫陽花や径は水路によりそひて

梅雨明けの一聲長き竿売り

濃あぢさゐしつとり濡れて彩ませり

満天の星に人魂遠花火

雨の輪の消えては生れ花菖蒲

瀧の水押して押されて落ちにけり

新緑の風引き入れて山の宿

送り火を焚いて周りのしづかなり

雨けぶる池ふちどりて四葩かな  
(あぢさゐのこと)

今もある沖縄の基地終戦日

幾万のひまわり燐と日に向きて

(伊藤伝衛門邸にてあづまやより眺む)

ジャングルの南の島や終戦日

青葉陰白蓮佇たたずみし池ほとり

愛憎は昔となりて木々茂る

いつからか雨の日も好き茄子の花

豪邸の厨くりやに活けられ奢しゃが我の花

京子

賢者の狂言 佐々木誠吾

### 物騒な世の中

テレビを見ていたら、暗がりをゆく人の影、すると後ろから車のライトが照らされた。車は、人影をよけて行くかと思つたら、人影を引きつぶして走つていった。被害者は立ち上がりうとしたが、力尽きその場に倒れた。すると先に走つていった車から人が下りてきて助けのかと思つたら逆だつた。轢かれて倒れている人から、何かを奪つて走り去つていった。これが現場に起きた一瞬の事件の一部始終である。路地に立つていた看守カメラが、その瞬間の一部始終をとらえていた。車のライトに照らされなかつたら、周辺は暗闇の中である。事件にあつた被害者は、深い痛手を負いながら近くのコンビニまで這いつて助けを求めた。目撃者がいないので犯人は逃走したままである。(二)

んな無謀な犯罪が許されてはたまつたものでない。これだけを見ていると日本はまさに無法地帯の烙印をおされてしまであろう。

女学生が友達を誘つて山に行き、そこで口論となつて友達を絞殺し、山の中に捨てた。殺された女学生の家族からは、捜索願いが出ていた。一ヶ月たつて、犯人は母親に連れられて自首して出た。犯人の証言で現場を捜索していたら、白骨化した被害者と思われる遺体が発見された。犯人は十六才。携帯電話の携帯サイトで交信し合つているうちに親しくなつたが、無登校の仲間だつた。殺害の動機はいたつて簡単である。ただ殺害に及んだ過程が、不良仲間同士の交信で、「やばいね」とか、「うちらも捕まるね」と云つたメールを交わしていることも押収した物證でわかつてゐる。事件には複数の第三者の介在が考えられている。集団リンチかもしれない。

をさばり、時間を持て余して不良グループに入り、気張っていた子供がいたが、殺人を犯すようなことはなかつた。低落した文化がはびこり、思慮に欠ける子供たちが増えてきている証拠である。万引きしているくらいならいが、仲間同士で殺し合うと云つた状況は、身の毛がよだち、血の気が引くような事件である。こうした少年少女は氷山の一角であつて、渋谷や、新宿あたりでふらついている奇態な多くの若者を見ると、犯罪予備軍が沢山たむろしていて、これらがいつ暴發するかわからない。これを食い物にしているテキヤもいるし、ヤクザもいるし、国籍不明の不良外人も沢山いる。繁華街での、素人の夜の徘徊は避けるべきである。

そうかといつて夜の住宅街は安心かと云うと、決してそうではない。先ほどのように人通りのない深夜のひき逃げ強盗のように、身の危険を考えると、これで万全だとは言い切れない。勤め先から家に着くまでは変な人に絡まれた

り、因縁を付けられたり、襲われたりしないと限らない。油断大敵、注意するに越したことない。身内を平氣で殺したりする現場もある。ちょっととしたことで口論となり、かつとなつて相手を刺したりして平然としている。突然姿を消して行方が分からなくなつて数年がたつた。不審な人物が浮上して尋問したところ、接触した人物に行方不明者が複数出てきて、消した犯人がその不審な人物だつたことが判つた。獵奇的だが、殺しては埋めていたらしい。掘り起こしては又、他の場所に遺棄したりしている。残忍極まりない手法である。それでいて犯人を特定できなかつたのは、普段の行動が普通の人物と何ら変わつたところがなかつたからである。若者のこうした犯罪は日常的になつてきており、更生させる術すらない状況に、慄然たる思いである。

広い付き合いで長年事業をしていると、いろいろの人が出入りして対応は様々である。世の

なか良い人ばかりとは限らないし、極力いい人と付き合つて、いい仕事の結果を得て、お互

に喜び合いたいと念願している。まさに勤労の喜びである。仕事の内容の良し悪しも考えて、全てがいいとは限らないし、欲をかいたらきりがないことも承知して商売をすべきである。いい話には落とし穴があるし、取捨選択とその判断が難しい。腹八分目、急がばまわれの単純な言いつけを守つていくに越したことはない。

日本を訪れる多くの外国人が異口同音に云うこととは、第一に日本人の優しさ、礼儀正しさであり、第二に国土と街の綺麗さ清潔さであり、第三に治安のよい国柄であることがまず挙げられる。その他いろいろと細かなことを挙げるときりがない。無論欠点もあることだし、それを云わない外国人の気配りがある。こうしたことは、外国に行つて帰ってきた日本人にも共通した事柄であつて、日本と云う国が国際的に安心できて住みやすい国柄だと云うことが理解

できる。以て誇りとすべき点である。

#### モロッコの旅

先日、教会の知人の女性Nさんが五泊六日の日程でモロッコに行つてきたと云う話を妻から聞いた。モロッコと云えば「カサブランカ」と云う名画を思い出す。第二次世界大戦は、愚か者で妄想した日本が戦争を仕掛け、巨大なアメリカの物量作戦に完膚無きまでに打ちのめされ戦争に負けた歴史である。打ち碎かれて虚無感にあつた焦土の日本、そして皮肉にも、映画力サブランカは東京に翌年、アメリカから最初に入つてきた映画である。イングリッシュドバーグマンと云う外人の女優に目がくらみながら、食い入るよう映画のスクリーンを見ていた少年時代をふと思い出した。

空爆を食らった東京は一面の焼け野原である。寒々とした焼け跡に建てたバラック小屋から市電に乗つてわざわざ有楽町まで来て、わずかに残つた外壁の、有楽座で見た感激の映画で

ある。バークマンを見たい一心で三回も見に行つた。おかげで映画のストーリーもじつくりと知ることが出来た。戦争も、新しい局面を迎えていた。ナチスドイツ軍の敗色の濃くなつた、第二次大戦終結のこと、それでもヨーロッパからモロッコのカサブランカ経由で、アメリカに脱出する多くの自由人たちがいた。映画「カサブランカ」は、そのわずかな間で繰り広げられた男女の人情の機微と愛情物語である。初めて身近に見る異国人であるが、その舞台の女性を演じたイングリッシュバークマンが、殊のほか魅力的だった。

そのカサブランカの首都を抱くモロッコは、さぞや魅惑的に違ひないと思つていたが、女性Nの感想は殺伐としてあつさりしたものであつた。「砂漠と岩盤の土地で何にも見るものもないし、食べ物も魅力に欠け、水と生ものは熱を通さないと駄目だと云うことでがつかりよ」と云うわけである。「二度と行くところじやな

いわ、東京に着いてほつとしたわよ」と云うことであった。そんなところに何故五日間もいたのか、むしろそちらの方が気になつたのである。そういえばカサブランカはポルトガル語でカサは家、ブランカは白と云う意味で、白い家の街であることは分かるような気がした。それに青い海と灼熱の太陽を想像して、いかにも躍動感あふれる思いがしてくるのだが、そんなロマンチックなことでもなさきそうである。「やっぱり日本が一番いいわ」の弁は確かである。

日本の風土、景色の良さには定評があるし、人は穏やかで親切だし、治安は良いし、食べ物も豊富でおいしいし、品物も沢山あるし、良いものづくめである。戦後、映画「カサブランカ」を見に行った時とは、日本の今は、天と地の差であり、天国と地獄の差であつてみれば、さもありなんである。昔を知る人の日本観は、又別であろう。しかし私にはイングリッシュバークマンに惚れてみた、あの少年時代が懐かしい幻影

となつて浮かんできたのである。仮領だつた力

厚かましい東電の幹部連中

サブランカはエキゾチックで素晴らしい異国  
の都市であり、モノクロの陰影に見た画面全  
が忘れられないでいる。魅惑溢れるイングリッ  
ドバークマンが、あんなに衝撃的だつたことを  
考えると、敗戦後の、たとえ全てが破壊されて  
何もなく、みなしごに等しいような状況下であ  
つたにしても。その理由は一体何なんだろうと  
考えてみるのだが、謎めいていて、難しくて適  
切な回答が得られないでいる。

Nさんは、モロッコから乗つた飛行機がドバ  
イ経由で、途中からサッカーワールドカップの  
リーグ初戦に敗退した日本チーム選手団たち  
と一緒になつたとのことである。みんな暗い顔  
をして陰鬱な雰囲気が漂つていて、機中が我慢  
できなかつたとのことであった。小さくて細い  
体格で、あれでは負けても仕方がない、到底世  
界に太刀打ちできないと、厳しい評価を下して  
いたとのことで、私も同感であつた。

毎度のことテレビや新聞に出てくる東電の社  
長は、腑抜けのぐうたら人間である。国民に甚  
大な被害と損害を与えていながら、尚また危な  
い大飯原発の再稼働を目論んで画策している。  
原子力規制委員会が再三にわたる忠告も無視  
して、活断層の存在に否定に懸命だし、すでに  
破たん状態でいながらいつぱしなつもりで会  
社経営を行おうとしている。それよりも生首を

差し出して、電力業界の先鞭を切つて改革に乗  
り出し、将来の手本となるような痕跡を築くべ  
きである。事故を起こして以来二年五か月がた  
つてゐる。今なお十五万余のひとびとが生ま  
れ育つた家に帰れず、避難生活を余儀なくされ  
ている。（八月前に書き残す）

広大な地域にわたり放射能に汚染された土  
壌の除去もままならない。一日五百トンとも一  
千トンとも推定される汚染水が、海に流れ出さ

れていると云う。第一原発の建屋から出る汚染水が、地下水を通じて海に流れることも、これを食い止めることが出来ないでいる始末である。大地に、海にと、狭い国土と豊かな海の汚染の拡大は、目に見えぬままに現在も続いている。気休めみたいに、たかだか薄い表土をかき集めた土壤汚染の捨て場もないし、集めた汚染水の集積場所だってなくなつてきている。放射能を拡散している元を止めることが出来ないから、どうしようもない。何とかして原子炉内の核燃料棒を取り出してみないことは、やることなすことイタチごっこで手が付けられない。始末の悪いことになつてしまつたものである。

応急措置もあくまで原始的な処方で、地下水が建屋に流れないように、周りに井戸を掘つてくみ出したり、建屋に流れ込まないように遮蔽壁を作つたりしているが、これとて決め手になるものではない。バケツ、シャベルを使って作

業しているのとあまり変わらない。海に流れた放射能汚染は海底に土壤として堆積されるものと、海流に乗つてアメリカ西海岸に届いてしまうことも想定される。そうなると途中の太平洋の海の状況はどうなるのであろう。地球上には知らない間にこうした原発基地が百五十か所以上あると云う。こんな危険な物質の存在をこのまま許して行つてもいいのだろうか。事故が起きてから燃料棒の処置をしようとすると、場合によつては神すら御しがたく、不可能なことが判つた。手の施しようもない事故現場の地獄的惨状を見るにつけ、これは破滅以外の何物でもない。十一年三月一一日の大地震と大津波だけなら、多くの犠牲者を出してしまつたが、復興の手立ては何とか立てて被災者を速やかに故郷へ帰宅させ、地元被災地の再生、再建に急ピッチで進められたに違いない。しかし東電の原発事故による放射能汚染が行く手

を阻み、更に被害を拡大させ、今なお深刻な状況を作りつつあることは慚愧に堪えぬところである。千年に一度の津波の恐ろしさよりも、いつ起こるかわからない原発事故の放射能汚染もれと、土壤汚染の方が心配だと云うのだから、この世の中は救いようがない。

大事故を起こした東電には長年の王様企業、獨占、独断、貢物企業に体慣れしてしまい、国民のエネルギーと労力を目に見えない形で搾取して、自分たちの富の蓄積を謀り贅沢をしてきたが、この事故でその実態が暴かれたにもかかわらず、隠ぺい工作の体質はあらたまないままである。事故の収束も自分勝手に解釈し、保身に走るのみで事故処理も後手、後手に回つていて改善の余地が見られないままである。こうなると早くから指摘してきたように国を巻き込んだ犯罪企業である。東電事故の犯罪性を指摘して起された国民からの訴訟は、証拠不十分で却下されたが、十分検討してしかるべきであ

つた。こんなありさまだからこの国では習慣的にも、地質学的にも原発事故の発生を頻繁なさめることを以て、建設を中止するに十分である。加えて既存の原発は定期点検のため今その稼働が中止されているが、これらの再稼働についてもこれを機に中止すべきである。一たび東電の事故と同じ規模の原発事故を他の場所で起したら、この国は再起不能に落ちるだろう。のど元過ぎれば何とやらで、指導者の馬鹿ども達は頭が剥げきって思考能力ゼロの状態だから、こんな連中にこんな重大な事案について任せはおけない。職を解かれればいずれ一介のばけ老人になり下がる連中ばかりである。自分さえよければよいとする輩であつて、国民に対する責務、責任などさらさら考えていない種族である。謡曲の高砂に、「四海波静かにて 国も治まる時津風 枝を鳴らさぬ御代なれや あひにあいおいの 松こそめでたかりけれ 住める民とて豊かなる・・・」と、この国の豊かな

美しさを称えていて尽きないが、古くから嘗々として守られてきたこの大地を、微塵もなく破壊しつくした企業こそ糾弾されてしかるべきである。世間では一万、二万の金を盗み窃盜で服役する者もいるし、傷害事件を起こせば直ちに逮捕留置所行きで、裁判にかけられている。人を殺めて罪を負う人もいる。それから比べると、國家存立にかかる程の天文学的な金銭的被害を与える人々に肉体的、精神的痛手を与えるながら、尚自らの利権にしがみつき、利益を求めるようとする、狂気的態度は何と言つたらいいのだろうか。もはや救いがたいものを感じて愕然とするのみである。彼らの安閑とした状況を一変させて、死にもの狂いの改善を求めて行く以外にない。

汚染水は地下にしみこんで海に流れていることが今になつてわかつた。こんな当たり前のこととは以前から指摘していたが、東電はこれを否定し排水溝のみを取り上げてきていた。事実

を隠蔽することだつてやつてゐる始末である。見つかると謝罪して逃げてゐる。汚染水についてはこの種の大事故では当初から分かつてゐることなのに最近になつて又慌てだしている。一昨日も第一原発の発電所には満杯に近い貯蔵タンクから、汚染水が漏れている騒ぎである。毎日三百トンもの汚染水が海に流れ込んで海水を半永久的に汚染してゐる。いつまでたつても、今の東電では解決の道はたぐれない。解決の手立てを、国が率先して行動に移すしかあるまい。四、五日前に安倍首相はそのことを閣議で決定したが、それまでに被害を大きくしてきているところを見ると、それが現実であり、政治的決定は遅きに逸した感がある。東電のぐうたらな経営者、指導者、幹部、職員らを解雇し責任を求めてもいいんじやないかと思う。

私も被害者？！

賢者は、木更津市郊外に縁があつて雑木林を買つている。県道と市道との交差点の角地約一千坪の平坦な土地である。周辺はのどかな住宅街で県道の先はアズサアークで整然とした近代的な研究所が集まる区域である。中には立派なホテルオーラが建つてある。何故この地にホテルオーラが建つてある。何故この地に豪華なホテルだが、何かの疑惑があつて土地を取得しホテルを建てたに違いないが、バブル崩壊以前の、バブル絶頂期に建てたものに違いない。私の持つてある土地はこの区域から木更津市に五キロほど戻つた地点で、知人が買つてくれと云うので付き合いと思つて買ったものである。毎年タケノコが生えて、その時期になると隣の住人から「タケノコが生えているから取りにいらっしゃい」と連絡をしてきてくれる。道具は揃えておいてくれるので車を飛ばして

東京湾アクアラインを涉つていけば、四十分で着いてしまう。

ところが東電の原発事故以降は放射能拡散の被害に遭つて、凡そ影響のありそうな距離でもないのにスポット地域になつてゐるようで、放射能に罹つてしまつてタケノコが食用にならないと云うのである。私の筍は自然に生えているものなので構わないけど、丹念にタケノコを栽培している生産者にとつては打撃である。東電の保障はそこまでしてくれないので、タケノコの出荷ができないでいる生産者農家は泣き寝入りである。掘りたての筍は甘みがあつて柔らかく、いろいろな料理にして味わつて食べることが出来る。わさび醤油で刺身にして食べることも出来る。これは絶品である。タケノコを掘つて皮をむいても食べられないとなれば今年、去年と三年続きで木更津行きを断念せざるを得なかつた。おかげで採り立ての柔らかいタケノコを中心代わりに使おうと思つていた

思惑と、土地の値上がりの果実を失つて被害が大きいと思われる。最近、この土地を老人ホームの建設に活用したいので売つてくれないかと云う申し込みがあった。五百メートルほど奥へ行つた先にも立派な施設が建つてるので、地域的にそうした需要が多いようである。場所的にはこちらの方がはるかにいいので、竹の子狩りが出来ないようであれば処分しちやおうかなと思っている。ただし千葉のこの地の土壤汚染がどうなつてゐるのか調べてみないと、ホームを立てたはいいが、高齢者に影響が出たりすると困ると云つたら、そこまで心配する必要はない」と云われたけれど、東電の幹部の者ならそうした神経で済むが、きれいごとを云うわけではないがやはり心配である。

日本の土地の表面を全てこうして汚染させてしまつていることを思うと、土に生きる我々すべて、且つ諸々を含めて直接、間接的に問題があり、とりわけ直ちに健康被害を考えると身

の毛がよだつ思いで、その恐ろしさで生きた心地がしなくなつてくる。妊娠を希望する人、胎児を抱えている人、これから子供を育てて行く人、そればかりではない、妊娠前の卵子や、正常な精子の活動を阻害されはしないかと思っている若者たちだつていて。こうした人間そのもの的存在について考えるとき、将来にわたつて影響がないだらうか、無いとは言えないことだけに不安である。こうした不安と疑念は、放射能拡散による汚染地域の策定の時から抱いていることであつて、別に今更改めて提起したものではない。永遠につながつていく問題で、いつ、どこで断ち切れるかが判らないままである。巨大な釜の中から出てきてしまつた放射能の汚染処理は難解な困つた化け物である。

東京電力は昔から殖産興業の大義のもと、政府の支援と、膨大な資産を以て基幹産業を育成し、産業界に君臨してきた。そして確かに時代を作り上げて、今日の日本の底力を積み上げて

きたのである。その功績も大なるものがある。しかし蓄積された膨大な資産を背景に、電力の独占事業をほしいままにきたがゆえに、驕りと贅をほしいままにしてきたことも事実である。利権の上に胡坐をかいて惰眠をむさぼり、競争力のための改善、改革を怠ってきた。半官半民の形態で、民間企業のように熾烈な競争にも晒されず、努力研鑽を怠ってきたのである。旧態然とした企業体質は如何とも直し難く、膠着した組織でコントロールできなくなっている。

### なお、未解決の放射能問題

水力、火力発電はもとより、原子力発電においても、一基を作り上げてしまえば放置していくことも稼げる云う妄想にあり、後のことは何ら考えていなかった。原子力発電の基地を政官愈着の末に立ち上げて、利益を貪り、付けを国民の血税に置き、安住したのである。三年前の東

北大地震では、想定外の大地震に襲われて、原発基地の膨大な配管、配電の損傷を受けた。既に甚大な損傷を受けて原子炉の正常な稼働を失い、放射能被害は予知されていたのである。更に原発基地があっけなく大津波に襲われて冠水し、壊滅状態にあった。事故現場の対応も拙劣だった。建屋の水素爆発が予想されて、ベントを開けるタイミングを逸し、充満した水素を建屋から放出することが出来ず、大爆発を起こした、結果、原子炉内の放射能が噴き出て、広く周辺一帯に広がってしまったのである。いままお、原子炉はメルトダウン状態から一步も改善されていない。稼働不能に陥った後の原子炉の復旧はもとより、放射能の漏出を食い止めることが出来ず、大地と海の汚染は甚だしいものがあつて、生態系におぼす影響は未知数であり、再起不能のものすら出てくる始末である。加えて人体への影響も大きな不安要素となつて、将来に重くのしかかつてきている。破損

した原子炉の燃料棒の扱い方を間違えば、その害するとは計測不可能である。あまつさえこれまで適正に処理されたはずの使用済み核燃料は、この先一体何時、何処に持っていくんだと云いたい。テロの標的にあつたら全滅である。こんな物騒極まる物質を、この狭い国土の日本に置き去り同様にするとは、民族の瞬滅を誇らうとする悪魔以外に見当たらない。国家百年の計を論ずる政治家諸君よ、そんなのんびりされていたのでは国民は困るではないか。憂国に過ごす賢者は夜も寝られず、国民の命の安全のことを考えると怒り心頭である。最近、小泉信一郎が原発再稼働反対を声高にして叫んでいるが、国民の安全と幸福を考えたら皆が立ち上がるねばなら尚ことである。目先の金に目がくらみ、がつがつと前後の見境なく東奔西走し、國と国民の生命、財産を預かるはずの政治家としての本分を忘れた連中が多いことを憂えるのみである。

害するとは計測不可能である。あまつさえこれまで適正に処理されたはずの使用済み核燃料は、この先一体何時、何処に持っていくんだと云いたい。テロの標的にあつたら全滅である。こんな物騒極まる物質を、この狭い国土の日本に置き去り同様にするとは、民族の瞬滅を誇らうとする悪魔以外に見当たらない。国家百年の計を論ずる政治家諸君よ、そんなのんびりされ

### 馬鹿な県議

ところで最近の地方議員の中に、とんでもない県議が話題に登場してきた。連日のように、面白おかしくテレビに放映されているが、ちょっと頭をかしげてしまうのである。兵庫県の県会議員だが、政務活動費の不正な支出を指摘されて釈明の記者会見を自ら催したのは良いとして、途中から泣きわめき、一体何を言つているのか分からぬ様子に、この人の話はまじめに受け止められないのではないかと記者諸君は戸惑つたのではないだろうか。駄々をこねた赤ん坊のような、正に餓鬼のしぐさと号泣でがつけられない。見ていた私は噴き出したあと唶然としてしまつたのである。この人はまともに政治と向き合える人ではない。一度医者に診てもらつていたほうがいいのではないかと云うことである。顔をあげて、でかい口を開け、大声を上げて泣きわめくさまは尋常ではない。

漫才師だつてやつて見ろと云われても、なかなか真似のできない芸当である。あれでは手の打ちようもなく、困つたものである。さりとてあんな輩が民意にこたえて県政のために働いていくとも思えない。悪童の子供が喚き散らすのと同じで、せつかく県議に当選して氣の毒だが、罷免ものである。

責任追及の前に、即刻辞めるべきである。

### 未だに、汚染水の問題

前に書いた東電原子炉の爆発と、放射能拡散問題についての記事は、丁度一年前に書いたものである。この状況は今も変わつていないし、まことに残念であるが、むしろ事態は混どんとしてきてる。特に汚染水の継続的漏水は、未だに止められないでいる。手を付けなければ、

永遠に流れて行く恐ろしい環境破壊問題である。汲み取つて貯めているが、収めたタンクは敷地内に膨大に積み上げられているが、このまま放置すれば、無制限であり、日本中に汚水タンクを置く場所を設けなければならなくなる由々しき問題である。海に放流すれば、海は汚染されて魚介類は食べられなくなる。海洋国日本は存立できない。物議中の尖閣諸島や、千島列島の問題どころではない。

原子炉建屋内から出る汚染水の流出を防ぐために対策を講じているが、未だに完璧になつていない。この流出を防ぐために、一号機から四号機の建屋周辺の地中を取り囲む形で、今、凍土式の遮水壁を作つている。幅二メートル、深さ三十メートル、総延長一五〇〇メートルの凍土壁である。これで地下水は建屋の敷地に入らないようになると云うことであるが、果たしてこれで完全に防げるのであろうか。疑問である。地下水は生きているので横からの流出を防

に防げたとしても、広大な敷地の底辺、即ち底から湧出してくるだろう。専門家でありながら単純な見落としが多いのは仕方がないが、それにしても馬鹿が多い。何度やつても決定打が打てないし、莫大な金を注ぎこんでは失敗を繰り返している。そこで先日、環境地盤工学専攻の京都大学の嘉門名誉教授が提唱した工法が目に付いた。馬鹿者たちに参考になる故、一考すべき工法だと思ったのである。



作品 関根常雄

### 清ちゃんの釣果

梅雨が明ける三日前の日曜日まで、連日のようすに真っ黒な雲が空を覆つて白い稻妻が走り

抜け、雷鳴が天地に轟いていた。午前中、薄日が差したりしてお天気に騙されかちで、境界から帰ってきた後は、どこに出ることも出来ず、尾山台駅近くの店をのぞいて、気ままに入つたり出たりしようと支度をしていた。支度と云つても私の場合は衣服や化粧ではなく、万年筆とざら紙の二、三枚を持って出るだけである。出かける先々で、ひとときの無聊にまかせて、和歌を気ままに読んで書いてくるのである。ついでくる家内にとつては、お茶を飲んでいても会話をする時間がなく、私は自分の思考に浸つてしまふ。妻も持参した本を黙つて読んでいる。時間が来ると、と云うよりは、書

いている紙がなくなると、万年筆のキヤップをはめて、私の時間が終わるのである。そこで初めて妻と向き合つてお茶を飲みながら話すことがあれば、お互いの言葉を吐いて、ある種の会話を時間を過ごすことになる。

出かけようとした矢先、電話がなつた。近くに住む友人の狩谷さんからであつた。笑いながら話をしていた妻が電話を切つた後、夕方から狩谷さん宅で久しうぶりに魚焼きパーティーを開くので来ませんかと云うことで、二つ返事で行くことにした。どうせ三連休の今日は二日目である。夕方の五時半ごろからやると云うのである。仲間の釣の名人の清ちゃんが、昨日から海釣りに出て沢山の釣果を得てきたそうである。清ちゃんと云つても子供ではない。壯年の域にあり、悠々自適の資産家である。かくしてこの日は四家族夫婦が集まつて、釣つてきた魚料理を食べる会を楽しむことになつた。

時間があつたので取り敢えず尾山台駅まで

出掛けた行き、予定通りコーヒーショップに入つて所定の勝手気ままな時間を過ごしててきた。短歌は気ままに即興を楽しみ、三十首ほど読んできた。流し詠みなので、後から読み返してみるとなめらかである。この判らない字を、オフィスに行つたときに事務員さんに頼んで活字に打つてもらうのである。自分のことが実際に書いてあるので、和歌は、体験的であり、実証的である。従つて事務員さんも、私の現実の行動や、生活の様子がすみずみまで判るので、打ついても楽しいらしい。狩谷さんのパーティーには手ぶらで行くわけにはいかないので五百ミリの缶ビール六本を持ち、家内は庭畑で採れたトマトや自家製の野菜サラダや新香、漬物などを用意して行つた。

清ちゃんがこの日に運んでくれた釣果はイサキが二十五尾、深海に棲むオコゼが三尾である。今にも崩れそうな空を見上げながら、この分なら大丈夫そうだと期待して、魚焼きパーティー

に向かつた。狩谷さん宅は素敵な日本庭を配する家で、先代から引き継ぐ豪邸である。庭木も立派なものが多いし、手入れが大変だろう。庭から入つていつたら野外でバーベキューを楽しむコンロが用意されて、釣りたて新鮮のイサキが十匹ほどが炭火焼きされている最中である。もっちゃんの旦那が小気味よく音を立てながら団扇を煽いで、イサキをひっくり返して焼いている。焼くのは炭で焼くのが一番である。しかも備長炭が、味わいがあつて最高に良い。居間を覗くと、清ちゃんが既に機嫌でいっぱい気分である。ともちやんも、にこにこしながら食膳の支度を手伝つてゐる。ともちやんとは狩谷家の御主人である。魚を釣つては来るものの、せいやんは自らはあまり食べたりしないで、専ら他の人がおいしそうに食べているのを見て楽しむタイプで、食べてもらつて満足しているのである。本当の名人と云うのは、そういうのかもしれない。王者の風格と云うものだ

ろうか。

みんなが、こうして会うのは久しぶりである。きっと十年ぶりかも知れないと話し合つた。

それまでは家族夫婦が一緒になつて、併せて大概は六組ぐらいで、いつも冒險的な旅行をしていたりした。車を二台ぐらい連ねて行くので行く先々で機動力を發揮し、食事は得意即妙、どんなところでもテントを張つて野営専門の自炊である。その道のベテランがいて、リーダーとなつてやつてくれるの、こちらは楽ばかりしていたのである。何度も経験した楽しい思い出である。最近は馬力がなくなってきたから、穂高に登つたり、御嶽山に夜中から登つたり、金時山に重いリュックを背負つて登るような機会は遠のいてしまつたが、トライしてみようとする気概は、お互に十分持つてゐる。しかし時間が上手く合わないでいる。ひよつとする時間が合わないと言ひ訳しているのかも知れない。実は馬力が以前のように出なくなつて

きたのかもしれない。一体いくつになつたのかなあと云うことになると、みんな勝手な数字を述べて年齢をはぐらかしている。

空の雲が次第に黒味を帯びて、如何にも崩れときそくな気配である。イサキの焼き具合がこんがりと、極上に達したようである。その時特大の「紅かさご」が、どーんとコンロの網の上に置かれた。目にも鮮やかな紅色の肌をした、朱に染まつた色はまるで陶器のようである。焼いているうちに、白い透き通つた肉が剥けて見えてきた。この白い肉が紅かさごの特徴で、美味を最高に象徴するものである。高級料亭で出されると、綺麗どころが必要になると云う。贅沢な、お座敷の様子が自然と目に浮かんできた。今晩の狩谷家の座敷も、それに勝るとも劣らぬものである。きれいどころは、それぞれの「ちやん」の奥方が勤めてくれるだろう。余り確信の持てる話ではないが、人生は夢と希望をもつことが大切である。今日は、その奥さんたちが

イサキの刺身も別にたっぷりと用意してくれているし、紅かざこの大鍋に煮物にして、魚の紅白の身を丹念に、芸術的に試食することも出来、これ以上の贅沢な食膳は考えられない。何年振りかに開いた清ちゃんの釣果を楽しむ会は、もはや最高潮である。

三枚におろしたイサキの刺身は、小生の大好物である。刺身は口の中でコリコリとして舌にからまり、噛むほどに甘い味が染み出てくる。

思つ存分に味わい、食べることが出来た。さらには高級魚は一尺二寸ほどの大きなオコゼで、丸ごとに皿の上に乗つた姿は、鍋で煮ても崩れず、赤い綺麗な姿を白い皿の上に残している。煮汁にねつとりと体を濡らし、妖艶にも見える。箸をつけて崩してしまうのが、惜しいくらいである。花魁に手を付けるとは、このことかもしれない。箸を以て指しながら、頬の肉が一番おいしい所であると云う清ちゃんである。一昨日、誕生日を祝つたばかりの家内のために、再度目

出度い紅かざこの絶品の肉を、まず第一に頬の肉をお祝いとして下さつたのである。かざこの白い肉が、確かに光つて透き通つてゐるのに気が付いた。私も胸のあたり一部を割いていたが、この味は今までに味わつたことがないほどに、肉に模して言えば、さしづめ松坂肉の最高級の部分の肉を食するのと同じかもしれない。清ちゃんが自慢して釣果を語るのも、むべなるかなと思つた次第である。

外は大ぶりの雨となつてカミナリが光り雷鳴がとどろく様子であつたが、狩谷家の広い座敷は静かな音に、まさに宴たけなわの折、たくさんの食膳で賑わい、昔をしのんだ話も加わつて、みんなの笑いが絶えなかつたのである。帰るころには雨も止んで嘘のような夜空が広がつて、いくように思えた。あしたあたりから梅雨明けだそうである。関西、東海地方は今日、梅雨明けになつた。子供たちは、昨日から待ちに待つた夏休みだ。海や山に繰り出して、元気になつ

て帰つてくることだろう。出来たら魚釣りも楽しんでくるといい。ついでに覚えてくると良いだろう。夏休みの大きな成果を獲得することになる。若いうちから釣りさんまいでも困るが、そんな怠け者はいないだろう。夏休みの宿題は、つりだ。

釣の極意を会得するには、機敏で忍耐が必要だから、凡人には難しい。いわばこれは人生修行のひとつである。竿に当たった時の感触、糸を引くときの力と勘案、釣の醍醐味を知ると、川崎のおじさん、清ちゃんみたいに、人生が普通の人の何倍も楽しむことが出来るからね。

七月二十二日

青春の思ひを抱き訪ねきて 穂高の嶺みねに見つ  
む夏雪

つり橋を渡りて清きあづさ川その先に立つ  
聖き穂高よ

紺青の空にかがやく高原のはてにそびゆる  
槍ヶ岳かな

青春の夢にうなされひとりきしこの高原の  
平なめの滝

うねり立つ雲の海より登りくる黄金こがねの朝の  
日のきらめけり

夏山

夏来ぬ

後記隨想

佐々木誠吾

浅草三社祭り

風かほる皐月に三社祭り来てはなやぎ過ぎぬ  
ふるさとの街

夏を告ぐ三社祭りに若衆の一の宮担ぐ力まさ  
れり

とび職と思へる人の花棒を粧にかつぎて足を  
ふむよし

六区より五重の塔の脇にたつスカイツリーの  
空に伸ぶ見ゆ

澄みわたる皐月の空に浅草の祭りの幟立ちて

私は十七日の土曜日、事務所に出社して客人と  
要談した後、久々に浅草に行つてみようと思ひ  
立ち、夕方の五時にオフィスを出ました。くま  
なく晴れ渡つた五月の空は、絶好の祭り日和で、  
氏子の下町全体が祭り氣分で沸き立つてゐる  
ことでしょう。京橋から地下鉄銀座線に乗つて  
いくと十五分で浅草駅に尽きます。上野広小路  
あたりから車内は祭りを楽しみに行く人たち  
でざわつき始めてきます。稻荷町あたりからは  
神輿を担ぐはつび姿の若者たちが乗り合わせ  
てきて、祭り氣分は自然と伝わつてきました。  
地下鉄を下りて人混みの中を雷門出口に出て  
みると、猛烈な人込みで前に進めない状態です。  
こうした光景は隅田川の花火大会と同じです。  
お祭り騒ぎの現場なので当然のことですが、  
景氣の盛り上がりを感じて、街なかは活気にな  
ふれています。天ぷらの三定の前を通り過ぎ、

雷門の前に出ました。立ち止まって、ここから仲見世通りをはるかに見通した時の、正面に遠く見える観音様の、金竜山浅草寺の大屋根のいらかがいぶし銀の光を放っていました。左右に雷神、風神がいかめしく立つ、その雷門をくぐり賑やかな仲見世に入つて左右の小店を覗きながらいきました。仲見世を入るとすぐの右手に、幼馴染ではないのですが、高等学院時代のクラスメイトが店を出して商いをしていました。代々続いているので、家業を継いだ「T?K」と云う小間物屋です。お母さんが色白で丸顔の美人で、お店を仕切つてやつっていました。友人は、大学在学中は雄弁会に入つてかなり活躍していて、お袋さんに似て色白で、体の小さい割には演説をしたりするときはライオンが吠えるような声を出していました。当時の弁論の内容からすると、先ずは地元の発展を期して台東区長から都知事になつて、末は総理大臣を目指しているような感じを受けていましたが、人間

の一生は何とも測りがたいものです。鳥小屋のような店を張つて小物ものを売つて生計を立てており、今日はおそらく年寄り衆として静かに、仲見世商店街の裏方を務めているに違ありません。

人混みをぬつて先を担いでいく町内の奉納神輿のあとをつけていきました。群衆の中に見た法被姿の粋な女性に色気を感じ、一緒に肩を入れて神輿を担ぎたいと云う思いにかられました。年甲斐もなくと自嘲氣味ですが、気合の入れ方は決して若者には負けません。昔どつた杵づかで、神輿担ぎの雰囲気に馴染んで、ひたすらあとをつけて行つたところ、いつの間にか壮麗な宝蔵門のところまで来てしました。「獅子舞のあとに従ふ童かな」とは恩師の遠藤蘆穂先生の一句ですが、ふとそんな情景を思い出しました。獅子舞も、神輿も、限りなく童心を呼び起こして、心は無垢に過ぎて楽しいものでした。

宝蔵門を出たところから正面觀音堂に向かって延々と続く行列は、開帳されている觀音様を拝顔するために列を作つて待ち時間をいわす並んでいる参詣者です。この境内で真夏に開かれる「ほおづき市」は、別名四万六千日と云うほどに、この日に参詣すると四万六千回お参りしたことになると云われています。無精者に限つて欲張つて一攫千金とはいかないまでも、労せず大金を手にしようとする魂胆なのでしょう。それと同じかもしれません。靈験あらたかなご本尊を拝んで、たんまりと御利益を頂戴していくこうという算段なのでしょう。大小に限らず、お願ひ事を神仏に明かしてお願いするのも、傲慢のうちに限りを知り尽くした人間の本性として憎めないものがあります。不束な小生は賽錢銀貨を手にしたまま行列に驚き、隣の淺草三社の大権現様に向かいました。

鳥居をくぐると真正面に朱塗りの本殿を拝ぐつたところから、参詣客が百メートルほどの列を作つて待つていています。何と忍に耐えた信心深い人たちでしようか。祭りにきて先を急ぐとは何と無粹なことだと思いながら、浅草神社の脇にある仮小屋を見たら周りを葭簀に囲まれて、そこには三基の宮神輿の一の宮、二の宮、三の宮の豪華絢爛の神輿が鎮座ましましていはりませんか。細工は繊細、優美に彫刻され、金箔に貼られて装飾された神輿は、それ自体が高尚を極めた工芸品であります。宮神輿の豪壮な思いの余り、近くで見ない限り決して気づくものではありませんが、日光東照宮の華麗な極彩色の陽明門を以て、舍利殿をそのまま小さくして花棒にのせた感じです。三社祭は、この三基の宮神輿が、早朝のお祓いを受けて浅草神社を宮出しと称して豪快に担ぎ出されてから一日中、各町内の氏子たちの肩に渡されて担がれていきます。そして夕方から夜にかけて

官入と称して竿灯に照らされながらいとも華麗にお宮に帰つてきます。実は、早朝からの宮出しと、夜の宮入りで、三社祭は最高潮を迎えます。

今ここに奉納されている三基の宮神輿は、いわば三社祭の主役であります。この境内で重さ一屯の神輿が大勢の猛者たちに肩を入れられて、もみくちゃにされながら境内を出ることが出来ず苦労するのです。境内は騒然として熱気があふれ、三基の神輿がもみ合うなか、豪気な若衆の掛け声が雷神、風神の雄叫びと合わせ雷

朱の屋根を背に、三つの宮神輿が華麗に担がれて、やがてゆっくりと浅草神社の鳥居をくぐつて出陣していく光景は、小さいころからの強烈な印象で、いまだに消えることなく現実のものとなって跳ね返つてきます。明日のそんな光景を描きながら、私は三基の神輿が置かれた舞台を眺め、ここでお賽錢を擧げることにしました。一之宮、二之宮、三之宮の大きな神輿をしみじみと鑑賞して、早くも豪快華麗な神輿担ぎの心境に遊ぶ思ひでした。

雲のように境内に渦巻いて唸りを擧げています。大勢の担ぎ手が神輿に肩を入れて波打つさまは、勇壮な男意氣を示し、まるで玄界灘の荒

角刈りの鳶の親父が花棒を粹に担ぎてはしあぎ行くなり

波のような、怒涛を思わせてきます。更にはこれを取り巻く大観衆の輪が左右前後にうごめ

いて、担ぎ手と觀衆の気合が一致して、正に火

を噴いて爆発した桜島と云つても過言ではありません。金龍山浅草寺の巨大に反りあがつた

お神輿を祓いひ清めておこそかにみ靈をおさめ担ぎ行くなり

やふるさと

浅草の三社祭に参詣の列の社殿に長く続けり  
着物着る乙女がふたり鳥居前たたづみおれば  
艶めきにけり

狛犬の遠きに見ればめんこいに近くに寄れば  
いかめしく居る

花棒を担ぐ且那が威勢よく雄叫びあげて仲見  
世をゆく

境内にたてば朱色の観音堂おおき甍のさざな  
みにけり

若武者の声勇ましくお神輿をかつぎ魂揺れに  
乗りていくなり

朱に染まる五重塔にいぶし銀スカイツリーの  
ひかる夕陽に

下町を渡る三基の宮みこし三社祭りに夏はき  
にけり

魂揺れに乗り担ぎ手の勇み立ち我が二の宮の  
街を巡りく

あさくさの三社祭の人波に我ももまれて良き

五月十五日 続

## エッヂ氏の投資戦術

( 平和な資本主義国家 )

アベノミクスの経済財政政策がここにきて小康状態なので、それに敏感な証券市場も動きずらしい局面にきている。ニューヨーク株式市場が相変わらず堅調な動きをして力強く史上最高値に挑戦しつつあることは、本欄で以前から

繰り返し詳説しているように、ここ数年、アメリカ経済が仔細な政策と相まってダイナミックな新時代を見越しつつあることの証左である。ニューヨーク市場が、昨今の世界各地で起きている不穏且つ不安定な政治情勢をみながらも、たとえばテロの発生や暴動、政変や、領土問題で国同士の衝突など緊張する事件の発生にもかかわらず、堅調な上昇傾向が続いている。

堅調を続けるニューヨーク市場を受けて日本も現在、中国、韓国との関係がぎくしゃくして先鋭化する中、不穏な様相を呈することなく経済優先に推移して、国内の企業業績が顕著に上向いてきているので、好循環過程に入れば、懸念されるアベノミクスの第三の矢が弓を離れて、快調な滑り出しを期待することもあながち無理な話ではなくなってきた。企業家の間で

ることが心強いが、こうした傾向は経済が政治に勝る事案として喜ばしいことである。ここで株価水準を上げてきたアメリカ経済は、仮に何かが起きたにしても「官民天晴れ」と、称賛を送つて惜しみないものがある。ちなみに東京株式市場は過去バブル期に付けたとは云え、高値の三八、九一五円を奪還できずにいるどころか、二五、〇〇〇円もの下値で、一四七〇〇円台をうろちょろしている始末である。政権交代を果たして一年六か月経つが、アベノミクスで奇跡的に浮上した東京市場である。

も次第に現実の話として確信に満ちたものとなつてくれば、積極的な投資に向けて動き出しがある。政治家は心して「経済は政治に勝る」と云う原則を以て、政権運営に臨むべきである。アベノミクスの成功の成否は、株価水準の上昇の成否にかかっているといつても過言ではないがゆえに、我々もダイナミックな株式市場の動きを大いに期待しているところである。そして平和と経済は表裏の関係にあって、力学的にも相互依存関係にあると認識すべきである。

つい最近までは、日銀による大胆な量的金融緩和政策が功を奏し、加えて内需拡大の財政出動も八分通り行われ、待つばかりの第三の矢である成長戦略が、弓から離れないままに模索中であつたが、企業の半数が増配、復配に踏み切つてくる情勢にかんがみ、これが株式配当の向上と相まって、家計に及ぼす影響は大きいものがある。加えて賃金も若干ながら上向き、ボーナスの支給も増額傾向にあるので、家計を潤わして消費を刺激し、有効需要の増大につながつていき、消費税の値上げも次第に吸収されいく感じである。第三の矢の目的は、日本経済がデフレ状況から完全に脱却して、世界経済の構造的枠組みに在つて、継続的指導力を發揮していく基礎を築く大事な戦略的政策である。従つて証券市場のもつと勢いをつけた展開が望まれるし、その期待を裏付けるのが成長戦略の方にかかつたきている。この行方がはつきりしないので、今までは株式もこの先行方がはつきりせずにもたついてきているが、早晚安定した上昇機運に入つていくものと思われる。こうした中での違和感のある話が随所に出てきているが、例外的なものとして扱つてみたいと思っていることがある。株式の新規上場の中で、久しぶりに重量感を感じて株価の動きを感じつくりと眺めてきたのが、西武コーポレーションである。売り出し募集価格1600円で妥当な水

準であつたが、過熱せずに穏健に1600円で初値を付けて始まつた。その後堅調な動きをしながら最近二千円台に乗せた株価は実に魅力的であつた。さすがに健全で、王者の貫録である。

最近、聰明なエッチ氏が気づいたことは、部分的かもしれないが証券市場の不健全な状況である。こんな状態だと世界市場を目指す東京株式市場の信頼性を損ねるのではないかと、H氏はしきりに憂えているのである。最近、大型の新規上場を目指す会社が増えている。先に挙げた西武もそうであるが、証券会社から盛んに新規上場会社の株式の募集の勧誘が入つて、募集に応じたほうが得策であると訴えている。上場する前に募集価格に参加して、上場した時には人気が先行して募集価格より高い値段で寄り付くのが常識であるから、投資家はその話に乗つて購入するのである。証券会社にしても、特に幹事会社としては銘柄の推薦に

当たり、顧客サービスの一環として投資対象として、優良会社としての推薦を当然行つてゐる。投資家は証券会社に払う手数料もないし、初値は何パーセントか高い値段が始まると期待するのが当然である。だからこそ幹事証券会社が自信を以て上場を進め、事業会社が自信を以て社会的認知を受けたいと大衆から資金を集めるのであるから、会社の存在価値を貨幣的価値を以て、社会的信用を得なければならぬはずである。同時に事業会社は、それによつて莫大な資金を手中に收めることになる。

一例をあげてみると、最近の新規上場会社のマーケットの状況は極めて不自然であり、且つ不健全であり、投資家を結果的に裏切る場合が多い。これでは新しい市場の開拓は実現に程遠いものとなつてしまふ。ちなみに、最近上場した日本ディスプレイと云う資本金968億円の会社があつた。中小型液晶ディスプレイの製

造で日立、東芝、ソニーが事業統合して作った

もので出資割合は残りの70パーセントを産業革新機構が出資している。国が関与し、有名な一流会社が名前を連ねている。売り出し募集価格は900円であった。最近はどこの証券会社でも、大卒の女性社員の登用で活気があり、特に営業に配属されているケースが多い。男性と違つてやんわりとソフトムードの営業で殿方の投資意欲をそそっていることはいいのだが、厳しい訓練に不足がちで物足りないところもあって、顧客としても閉口することがある。厳しい相場の世界だからしつかりとした基本的な教育が必要なのに、それがまま営業の実践に出されるわけであろう。若い営業レディーを前面に出して、こうした弊害は得てして顧客の泣き寝入りになることがある。そして男性は管理職として専ら奥に収まっているケースが多い。女性登用も、女性の地位向上をめざし、自意識の高い環境を作つていかなければ、

折角の機運を損ないかねない。

余談になつて仕舞つたが、資産株として女性営業レディーが投資に奨めた優良会社が、期待した立会日に、初値七五〇円で初めから公募価格を二割近くも割つて一五〇円安であつた。鳴物入りで、九〇〇万を投資した投資家は上場初日にあつけなく一五〇万円を損したことになる。それ以降株価は戻す気配なく、つるべ落として下がりっぱなしである。加えて、その後に決算発表になつたが来期の予想が減益、下方修正ときたからひとたまりもない。安値更新で四九〇円まで下がつてしまつた。今日現在三四〇円安の560円である。短期間に四割と云う損失に、しかも鳴り物入りで新規公開した株だけに、エッチ氏は不審の念を強くし、これは証券市場を悪用して、事業会社と証券会社が仕組んだ新しい経済犯罪行為であると憲卷いている。女性に甘く親切なエッチ氏は怒り心頭であるが、若くて可愛い女性営業マンに愚痴をこぼ

すわけにもいかず、ひたすら忍の一字に耐えている。冗談まじりに株主代表訴訟を提起してみてもいいくらいであると、自問自答している。女性営業マンがこんなことで落胆し、社会に対して不信の念を抱くようになつてはと、正義感の強いエッチ氏は考えて深刻な心境のようである。これが大した会社でなければエッチ氏もそんなに怒りを覚えないだろうが、日本を代表する企業と、国が関与している企業だけに、納得できない心境のようである。エッチ氏だけでなく、多くの投資家が初めから思わぬ大損失を被つていることになつていて、確かに実情を知つてみると、エッチ氏の言い分に共感を覚えるのである。

もう一つの実例を挙げてみたい。新技術を売り物に、将来性が大きく評価される会社の新規上場である。ベンチャー企業の新規上場である。将来性を買っていくだけにリスクも多い。売り出し価格一八〇〇円、上場日の初値が二三三〇

円で立派であつたし、その三日後に二四六〇円の高値をつけた。しかしその後は慘憺たるもので、ベンチャー企業であるという特殊な性格を持つことに投資家は戸惑つたきらいがある。何かのきっかけで株価は、急な坂道を転がり始めたように転がつて急落した。不安は不安を呼んで、株価は気が狂つたようになつて下げ止まらない。株式を以て喜んだのもつかの間、エッチ氏は内心穏やかでない。将来性を煽つたわけではないが大手証券会社に申し込んだ株式は三千株だつたが、僅か百株しか割り当てが来なかつたが、僅か百株しか割り当てが来なかつたことが幸いであった。二ヶ月足らずにたつた五二〇円まで瞬間下がつたのである。何と株価は五分の一にまで急落した。人の思惑とは恐ろしいものである。エッチ氏は、百株しか割り当てがなかつたことを神に感謝したのである。ところが不思議なもので潰れてしまふ会

社なら仕方がないが、そうでないのなら、二ヶ月前、一八〇〇円の順番待ちの割り当て株を、今なら割り当ててもらわなくとも六〇〇円そこそこで幾らでも買えるはずなのに、人間とは何と不思議な欲張りな生き物なのだろう、何とエツチ氏はこんな安い値段でも買えないでいるのである。エツチ氏はそうした自分自身について、気の毒に嘆くことしきりなのである。それにも一八〇〇円が配給制で奪い合いみたいだつたのが二ヶ月後の今、まだ三分の一のコストで買うことができるとは、資本主義の社会は矛盾だらけだが、欲の突つ張つた人間にとつて面白い社会であることは疑う余地がない。しかし云えることは一獲千金を夢見る亡者は有象無象だが、実現できた人は稀であり、ほとんどいないに等しいということである。これもまた面白い真実で、人間の思惟と欲望は正しく、又これほど当てにならないものはない。

冥想して博打性を取り戻したエツチ氏は、人

間的品性を捨てて六二〇円あたりで思い切つて買って出た。この品性を捨てた行動が現在のところ当たつているかに見えるという。結果は天のみぞ知る心境だそうだ。ここ数日、自己自身の内部に、欲望をむき出しにしたエツチ氏だが、下劣にして最も忌むべき博性と、獸性をあらわにしてマーケットに挑んだのである。しかし間もなく自分自身を取り戻し、品格こそ人間にとつて最も重要な要素であると反省して、修行の道に戻つたそうである。上品を装い、虫も殺さぬ顔をしながら善良な投資家を欺く日本ディスプレイの社長さんたちの品の悪さは最早言わずもがなである。日本を代表する企業のトップの人たちが合法的とはいえ莫大な資金を吸い上げていくような、略奪に等しいようなことをして、悪いお手本はオレおれ詐欺にも等しく、これではみんなに対する示しがつかなくなつてきて道義的責任を問われても致し方ないだろう。略奪行為と云えば、一橋

大学の山内学長はこの前の講演会で、経済行為の初期の段階では、略奪行為が経済的活動の一つであるとモンテスキューの学説を紐解きながら申していたが、事はこれほど金融経済が発達した中での現象だとすると考えてしまう。こうした風潮が蔓延していくようだと、内外に対する影響も大きく看過できないことであって、誰かが勇気を以て指摘して再発防止に努めてほしいものである。市場の信認を得るためにもお互いにそうした認識が必要である。相場の世界だから上げ下げは当然なことながら、あまりにも露骨だとマイナス面が大きすぎる。新規上場を果たした株には、これにかかわって儲けた投資家もいれば一方、逆に大損をした投資家もいて、世は様ざまだが、しかし時代に乗った気鋭の会社は、業績の回復を以て吹き返すことががあるので、会社の実態を良く理解して根気よく待つことは株式投資の鉄則かもしれないし、自己責任でもある。

時代の潮流から外れて旧泰然とした企業は、保全の身に意を注ぎ、縮小均衡に甘んじて、概して没落していく運命にある。シュンペーターの創造的破壊ではないが、常に新しい視点に立つて競争に打ち勝ち、時代的要請にかなつた企業活動を演じて利潤の蓄積を図つていくことが大事である。そのための資本調達を健全、円滑であるべきの株式市場だが、資本主義の発展過程で、株式市場ほど目まぐるしく変遷の歴史を踏んできた事例はないだろう。資本蓄積の手法は、過去の教訓にならつていくだけでは駄目だということ、事業家も、投資家も、過去の経験則が確実でない理由がそこにある。資本主義の中身が変わってきたこと、資本主義の制度が社会の発展とともに変わってきて、証券取引そのものが大きく変わってきたことを篤と理解することが必要である。そうでないと大やけどをすることがあるということを、極端な株価の推移を見ても分かるのではないだろうか。

エッヂ氏の述懐はまだ途中だが、大観して云い得ることは、日本は自由で平和な資本主義国家であり、これは世界に冠たるもので、エッヂ

氏は、株式投資でなかなか満足のできる結果は手にできないながらも、株式投資を以て日本經濟に前向きに参画していることを誇りに思つてゐる由である。

五月二十六日

続く

## 昭和経済会 創立八十周年記念

昭和経済会は今年、創立八十周年を迎えました。長い歴史の間には、苦楽を積めた幾多の貴重な体験を積み重ねてきました。恙なく、今日まで眞面目に、愚直に活動を続けて来られたのも、会を愛する会員諸君のご協力の賜物であり、博識ある多くの協力者のお蔭であります。

新しき時代に向かつて常に真摯に立ち向かつていくことは、会に求められた信念と姿勢であります。これはわが会の要諦であり、これは自由と平和に裏打ちされ、未來永劫に普遍的であります。その上に努力研鑽に励み、これからも国と、民生の發展のため、經濟活動に邁進してまいる所存です。なお一層のご協力、ご鞭撻をお願い申す次第であります。

日時 十一月四日 午後六時から  
会場 KKRホテル東京

未知の青年からの手紙に対する返事

\*

先日手紙を頂いていながら、此のところ超多忙のため今まで返事を出すことができませんでした。どうぞ許しください。

小生はいつも若いつもりでいて、自称三十八歳です。健康で長く生きて人生を楽しみたいからです。よくばかりですが、できれば悔いのない充実した毎日を過ごしたいと思っております。その間、貴兄のように若い人といいを交歓することほど楽しく、うれしいことはありません。聞き及べばまだ二十四歳とのこと、失礼ながら頂いた手紙の、しつかりとした書体と文体を見て、躍如と/orizesます。

写真家の杉村先生と、貴兄はお知り合いのこと、すばらしいことです。不束ながら小生は、杉村先生とは短歌同人誌・淵を通じ知り合つたことなので、もしかすると二十年近くなるのかもしませんが、手紙を通じて懇の中になつたのは四年ほど前からです。しかし、まだお目にかかつたことがないのですが、長年の大切な知己のような気がしています。心が通じ合つて意氣投合しておりますが、大先生からは、お手紙を頂戴することと、数々の優れた写真を頂いて拝見するうちに知らず知らずに私を広い大きな芸術の世界に導いてくださっています。広い芸術の世界とは、云うべくしてなかなか云いがたきことですが、一例をあげて簡単に申すと、昭和経済の今月号の巻頭を飾る一枚の写真のよう

に、奈良の「斑鳩の里」を巡るお寺と、仏像と、風景の写真であり、「会津八一」の和歌と書の大きいなる理解者であると云うことです。そうした数々の作品を頂いて、この上ない御好意を深く感謝しております。そのような先生と知り合いの仲と聞いて、貴兄の人となり想像に余りあると云うことです。

思うに杉村先生は優れた写真家であり、しかも東洋美術に深い造詣を持つておられ、特に大歌人の会津八一の和歌の世界の優れた理解者です。先にも述べたように、古都の奈良の数々の古寺を訪ね、仏像に拝し、すばらしい作品の数々を撮影されています。作品から会津先生の和歌と、杉村先生の作品との渾然一体の世界を味わいながら、おかげさまで深遠の世界を逍遙、堪能することができ私は幸わせに思っています。

貴兄のお手紙で母校早稲田の名前が綴られて、久しぶりに胸に熱く感じる思いです。まして貴兄が文学部出身と聞いて、なおさらの感があります。私は政経の経済です。大学については特に文学部に在学を憧れていますが、事情があつて経済に行きました。貴兄は若くして会津八一のうたに心惹かれてきたとのことです、素晴らしいことであり、立派なことだと驚いております。学生時代か

ら研究論文を発布したりして、既に八一の世界を勉強、研究しているので、それはそれとして将来が楽しみです。ぜひともそうした道の研鑽に努めて行って下さることを念願しております。

貴兄の今の立場は恐らく学問研究の道を行つてゐるのではないかと推察しますが、一つでも大きなテーマを以て人生を広く、深く歩んでいくことは、大いに意義あることだというのが私の考えです。私が会津八一の存在と作品に触れたのは、社会に出てから久しくのことと、さらには植田重雄先生を通じて間接的に知るようになりました。本や著書は持つておりましたが、熱を入れて読むことはなく短歌同人誌の淵に入つて、さらに少しばかりその世界を知り味わうようになりました。ですから貴兄のように若い時から八一の世界を勉強していることは尊敬に値するものです。何かと忙しいことと思いますが、こら

からも若者たちの皆を糾合して、八一の作品を味わうべく努めてみてください。

名古屋在住と云うことで、杉村先生とはきわめて親しくお付き合いのことと思ひます。杉村先生の撮られた写真の優れた世界に、八一の和歌を重ねてみると、八一の和歌と書が、更に際だつて映し出されてくることに気が付きました。新しいジャンルを構築するものではないでしょうか。会うようなときには貴兄から、杉村先生に大なる尊敬と親しみを込めて作品を鑑賞させていると伝えてください。わが青春を呼び覚ます大いなる力を与えて下さっているとお伝えください。早々。

### 戦争の恐ろしさ

何かにつけて思い出すのは夏目漱石の小説、草枕の冒頭に出てくる文言である。世を達観して余りある明文で覚えやすいし、何か嫌なこと

に遭遇するところの箇所を思い出して、嫌なことは受け流して物事を執拗に考えないことにしている。むしろ自分に言い聞かせているのである。性格的にさっぱりしているとか、淡淡としているとまで言われる所以がそこにあるかもしない。「知に働けば角が立つ、情に竿を差せば流される、意地を通せば窮屈だ、とかくにこの世は住みにくい・・・」世の中なんてこうゆうものだと思えば、「何かあつたにしてもそれにこだわらず、すぐにほかの方策を考えて実行すればいい」と、そうすれば、自ずと解決策が得られるというものである。してみると決して諦観的な、世捨て人のような気持ちでないことが逆に考えられてくる。世の中思いよう、考えようでどうにでもなると居直り氣味である。岡太さが時には必要である。気にかけてばかり入りと神経衰弱になつたりして、結果は良くない。

「三つ子の魂百まで」とはよく言つたものだ

が、幼いころに体験したこと、覚えたことは一生付きまとつて、よくも悪くもその人の一生に大きく影響してくる。育児教育の大切さは、知的情操的観念にどまらない。身体の生育まで及ぼしてくる。豊饒にして強健な心身の育成に関わつてくる問題である。幼いころだけではない。成人して尚血氣盛んなころにも、同じことが言えるのではないだろうか。若い学生時代に良い文学作品に接した時の感動は格別だが、よく咀嚼して読んでいると、血となり肉となることが多い。文学作品に限定されない。物理、数学、医学等の活動分野へと、範囲はますます広がつてくる。基本的には、確たる原理原則を知識として会得し、身体健康にこれを体得していくことが大切である。すべからく文言自体が人生訓となつて、指標に誤りなきことを教えてくれる。大切なことは古典に接していくことである。

私は四人兄弟の三男坊でありながら小さい

時から、病弱な人間であった。写真で見てもそのことは歴然である。兄、弟と比べて体は細いし虚弱体質であった。父は、稼いでも稼いでもお金はざるに湯水のごとく、私に際限なく金がかかり嘆いていた。いつも病院に入院したり通つたりして、学校に行くよりも生活の大半は、医者の治療に費やされた。大概は小さい時に病弱であつても、中学や高校に進学するあたりから小児病を卒業して、丈夫になつてニキビが出てきたり、体毛が生えてきたりして、自然と成長の過程がはつきりするものである。小児喘息はこうした過程を損なうに充分であった。しかもその小児喘息は大人になつても続いて、可なり執拗なものだった。小児喘息は体力を奪い、体の抵抗力を失わしめ、いろいろな病気を惹起、併発せしめるものである。加えて感染症にも弱い。一人前のことを云つてゐるようだが受け売りではないし、体験してきたものだから云つていることは正しいし眞実である。病気に対する

反応は敏感であり、すぐ表面に現れるので油断できない。ところが神は努力するものに対して実に寛大である。この敏感さは良い方向にも効力を發揮するからである。戦前戦後のどさくさを生きてきた私にとつても、落ち着いた生活をすることができなかつたし、東京の空襲が激しくなってきてからは、農耕民族ではないが、人間としてほぼ定着して当たり前な生活権を行使することはできなかつた。疎開先で兄弟たちが飲まず食わずの日を過ごしていたことは、父は知らなかつたようである。東京の空襲が激しくなってきたので、子供たちを縁故疎開と称して避難させ、水戸の繁華街の泉町で華々しくデパートを経営していた自分の弟に、財産の一切を託して安心しきっていた。しかし松藤デパートは戦況が厳しくなってきて、国民の経済活動は日を追つて停滞し、そのおりを食つて赤字続きた経営を強いられていたのである。そのため後で分かつたことであるが、父が預けていた

預金や物品は運悪くすべて使い込まれていたので、のちの父の事業の展開に活用することができなかつたし、勿論母の生活の財布に入つてくることはなく、すべて闇の中に消えてしまつていた。それに加えて、事の発覚を恐れた叔父は、母を避けるようにして子供の私たちと一緒に連れだつて、父からより遠くに離れさせようとしていたのである。そうしたことは父にとつては何にも知らされなかつたのである。父は叔父に預けていた自分の財産はおろか、私たちの生活については全く安心しきつていたのである。何も知らない母と私たち兄弟は、辛酸をなめ、しなくとも済んだ苦労を体験して行くことになつたが、母の苦労はさておき、私たちは逆にできぬような勉強を、体当たりで経験することができて、今にして思えば逆に幸わせだと思つてゐる。叔父は戦後間もなく患つて急死してしまつた。戦前、戦後の心労が原因だったかも

しれない。そこで預けてあると思っていた父の財貨はすべて霧散していたことに気づいたのである。戦争の惨禍はこうしたところにもあつた。叔父も戦争の犠牲者だつたかも知れない。水戸で一番の百貨店を経営して信用も厚く、羽振りのよかつた叔父夫婦であつた。我々家族はすべて一からの出直しであつた。東京に帰れば生家の浅草には父が所有する土地があつたからいいものの、しかし未だ一面の焼野原であり到底生活できるような状態ではなかつた。そこで父が手に入れたのが、離農した農家の土地である。奇抜な発想と決断に驚いたし、その構想が楽しかつた。莫大な被害を負つた父であつたが、父の力はでかかつた。

父の戦略は、母と家族が農業に専従して食いつないでいき、自らは東京に帰つて事業の再興に専念する考え方だつた。なにもなくなつてしまつた後だから、思い切つた決心がついたのだろう。家族は、自給自足の慣れない原始生活に戻るだけである。茅葺の一軒の家屋と、六反歩の実り豊かな秋の収穫付きの田畑だつた。疎開先での転々とする借家住まいから解放されて、戦争が終わつて平和な自分の家に住めること、家族が食べるだけの食糧は何とか目鼻がついたこと。離れ離れだつた家族が一緒に暮らすことができる。何とも言えない喜びがあつた。子供心に、抜群の開拓者精神が湧いてきた。

戦争で負つた被害は、東北大震災と、東電の原発事故の放射能汚染で帰るべき土地を失つて途方に暮れる避難民と同じである。一面の焼野原は、震災で受けた東北の状況と変わらない。すべては一からの出直しである。しかし有難いことに、恵まれたことに、僕ら兄弟には帰るべき場所があり、土地がある。学校なんか行かなくとも平気だつた。朝から晩まで、嬉々として農作業の手伝いに時間を費やした。好奇心に満ちた広い世界が広がつていた。鋤や、鍬を振り上げて黒い大地に挑むとき、澎湃として湧き上

がる生命の躍動を覚えて尽きなかつた。季節とともに大地に生きる、もろもろの生きものを共にした人間生活に喜びを得た。農作業は季節を通じて一貫しており、耕耘、種まき、生育、収穫、全てが天候に左右され、文字通り天命に従つて行つた。大自然の営みがじかに体に伝わってきた。農作業の全てが人力で、手作業で賄われていく過程では並大抵の苦勞ではなかつた。苦勞と云えば苦勞かもしれないが、そんな大人が思い抱くような苦しみは、子供のこころには微塵もなかつたのである。夜を徹して働いたこともあつた。自然と一体となつて生活することの喜びがあつた。待望だつた鶏を飼うことも出来た。可愛いヒヨコを孵して十四ばかりのとも出来た。豚を買うことが夢だつたが果たせなかつた。庭先に花壇を作り、好きな花を植えて育てて行く楽しみも出来た。コメを作る田んぼには水が欠かせない。稻の栽培は時期によつ

て水を満たしておかないとだめになつてしまふことがある。激しい水争いが村を挙げて昔からあつた。幸い水争いはなかつたものの、怖い経験をしたこともあつた。ある闇夜のこと、子供心に思いつめた私は、一人里離れた場所に持つ田んぼに出かけた。自分の家の田に水を引くためである。流れの堰の向きを変えるための泥作業を手探りで、ひそかに夢中になつてやつていた。どうしたわけか月の影がなかつた。泥で練り上げた小さな水路から水の流れを、自分の田んぼに早く流し込む必要がある。暗闇で水の流れる音だけが頼りだつた。すると背後に草を踏む物音に気づいた私が、ふと振り返ると暗闇の中へ、後ろに大きくかぶさるような影に気づいた。誰かが居る、危険だ、早くにげださないといけない。とつさに判断した私は、こごんだまま泥から足を掻き出して、そのまま一目散に逃げ出そうとした。すると大きくかぶさつてしまふ影が広がつて、まるで投網に呑つたようにな

つて私は身動きが取れなくなってしまった。泥田にうつ伏せになつて低く身構えた体は、しかし反射的にそのまま投網をすり抜けたようになつて、畦道を無我夢中で駆けだしたのである。闇夜で足元が定まらず、体力のない体であつたが、不思議と馬力が湧いてきた。止まれ！と太く怒鳴る声が後ろで聞こえたが、それを振り切つて一目散に突つ走つていった。闇夜を徘徊する曲者にあつて、捕まれば暴力を振るわれて闇夜に消されるかもしれない。捕り物帳ではないが、水泥棒と云う罪名で、翌朝死体として擧げられるかもしれない。どんなことがあってもこの場から逃げなければならないと、死の恐怖に襲っていた瞬間にあつた。生い茂る草を分け、少しばかり太い農道に出たが、遠くに見える小さな明かりをめざし一目散に逃げる私にとっては、家にたどり着くまで長い時間に思われた。無我夢中であつた。泥まみれの物凄い姿で家の軒下に立つ私を見て、母は一体何

事があつたのかびっくりしながら私に訊ねていたが、放心状態の私は答えることができなかつた。母はその先のことについて何も訊ねなかつた。まして咎めることもなかつた。私はあの影の大男が後をつけてやつて来はしないかと怯えながら、別棟にある風呂場に行き、泥まみれの体を大きな風呂桶に沈めて小さくなつていた。

不思議なものであの時の恐怖は未だに忘れていない。ときどき思い出すときがあるが、少年のころの強烈な出来事として、反射的に足を踏ん張つて自分を試している。何か困難なことがあると、無意識に両足を踏ん張つてみる癖があるのは、良しつけ悪しきにつけ、身についたこととして納得している。そして意外にも物理的に単純で小さな踏ん張りが、情感的な自信につながつてくるのが面白いと思つてゐる。丁度ロンドンオリンピックで優勝した女子柔道の松本かおる選手の気合い入れのようなもの

かもしだい。試合に立つ前の松本選手の気合の入れ方は物凄く、鬼氣迫る様相である。獲物を捕らえたカマキリのようであり、物陰に隠れて獲物を捕えんとする豹にも似ていて凄まじい目つきである。彼女ににらまれた選手は一瞬たじろいでしまうのではないだろうか。一瞬体がこう着して動けなくなってしまうような気がする。いざ突入と云う気構えの時には私にもそうした気迫があつてほしいと思うのである。弱気をぶつ飛ばして氣力充满、戦闘意欲に燃えた面構えともいうべきか。

戦争が引き起こした悲劇の体験は、物心両面で凄まじいものがあった。参戦して九死に一生を得て帰国した人々は、苦悩を引きずつてその後の人生を送ってきた事であろう。父は戦前に多くの店員を戦地に送った。人生の修行に就くため地方から預かれた大事な少年、青年を赤紙一枚の召集令状で戦地に送り出さなければならなかつた。一点の曇りない青年たちは、出

征軍人として皇國の皇軍ここにありと誓つて、國を出たからは敵を百万打ち倒しと叫び歌つて、千人針を肩にかけ死の戦場に立つていつた。このところ暫く平和が続いて、あつという間に七十年がたつたが、何だかまたぞろ軍靴の音がしてくるような気がする。もちろん日本は例外で、外国では性懲りもなく、未だに悲惨な戦争で殺し合いが絶えずに来ている。經濟の發展と民政の安寧につとめてきている安倍内閣であるが、内外の軍事的挑発要因が重なつて、日本が再び戦場に参加しなければならない国にあえて持つていくような気がしてならない。集団的自衛権の發動が、時の政府の憲法解釈によつて容認されるとかである。

戦争放棄をうたつた日本国憲法は、平和を象徴し、これを堅持して世界に冠たるものである。この戦争放棄の平和憲法が、そして自由と平和と民主の原則に立つ國家の存立こそが、戦争の抑止力になつていかなければならぬと思ふ。

## 表紙絵のことば

コンコルディア神殿

関根 常雄

今回の表紙絵は、シチリア島をめぐるスケッチ旅行に参加した時の作品です。海外でのスケッチ旅行は初めてのことで、好奇心だけがふくらみ、旅の空にあこがれて小躍りするように出掛けました。アリタヤ航空の飛行機に糊、ミラノへ、そしてローマ、シチリア島などを経てパレルモ市へ着きました。パレルモは人口が百万足らずとのことです、シチリア島で一番大きな都市です。マフィアの都市として有名で、映画「ゴッドファーザー」などでよく知られる麻薬犯罪都市の一面があります。一般の観光客には安心して観光を楽しむところでもなさそうです。パレルモには有名なカテーデラル聖堂があります。聖堂

には壮大な鐘楼があり、思わず度胆を抜かれる思いでした。「キューポラを飾るモザイク、宇宙の支配者キリスト」など、聖具室には銀製の調具や、アラブやビザンチンの精巧な細工が施されたものです。手箱や羊皮紙があります。。又興味深い壁と天井には「ヘラクレス礼賛と、その物語」をテーマに装飾的なフレスコ画があります。そのヘラクレスの大広間は、現在シチリア州の議会場となっています。その議会の場は、イタリア古代宮殿を今世紀に生しています。十六世紀後半に造られた広間のフレスコ画は、十八世紀にジュゼッペ・ヴェラスケスが描いたものだそうです。当時のイタリアには、この様な素晴らしい職人的な人が多かつたようです。その高い芸術性の根源は、現在のデザインセンスに繋がっているのですね。

表紙の絵はシチリア島のアグジエトに建つコンコルディア神殿です。シチリアの古代

遺跡を代表するもので、トリス式神殿の威風を今日に伝える素晴らしい文化遺産です。風化によって漆喰装飾は損消を受けていますが、貝の化石を含む石灰質凝岩は古色蒼然としていますがその保存状態は大変よいと思いました。アテネのテーセウス神殿によく似た造りで、元はカストルとポルクスの名を冠していました。神殿正面には巨大な正面の柱で梁を与えています。全体では三十六本の円柱が建ち四段造りの基部に置かれています。六世紀になつてキリスト教のバジリカに転用されたそつうです。室内壁に沿つたアーチは、当時のもので今でも崩れず強固なもので見応え充分です。ここでは沢山の文化遺産を見せてもらいました。スケッチが目的の旅行でしたが、すつかり観光にはまつてしましました。

東京に帰り製作に取り組み作品を東京都美術館にて開催された「大調和展」に出品し

ましたといふ大賞を受賞しました。感激の思い出となり、つい最近の個展を開いた時にも、三點ほど出品させてもらいましたが、好評な結果を得て満足しております。

平成二十六年 八月六日 印刷  
平成二十六年 八月八日 発行  
第六十五巻  
昭和經濟 第七号

佐々木 誠吾

編集人  
兼発行人

印刷所

公益社団法人

昭和經濟

事務局

〒104-0018

東京都中央区八重洲二ノノ一ノ二

TEL (六八二〇) 6000番

FAX (三三七一) 三一〇四番

e-mail=info@showa-e.or.jp

<http://www.showa-e.or.jp/>



生きる力を育む介護  
日本介護事業株式会社  
フランチャイズ本部

代表取締役会長

**西村公統**  
Kiminori Nishimura

本社

〒130-0015

東京都墨田区横網1-2-28

TEL: 03-5608-3636

nishimura@nihonkaigo.co.jp  
[www.danrannoie.com](http://www.danrannoie.com)

〒103-0013  
東京都中央区日本橋人形町三ノ三ノ六

人形町ファーストビルB三階  
TEL 〇三一三六六二一七七〇一

有限会社 日本橋会計事務所  
税理士法人 日本橋税経センター  
税理士 松下敏雄

中央建設はこんな会社です

暑中お見舞い申しあげます

建設全職種で職人不足が深刻化し  
工期にも大きな影響が出ています  
ご計画の皆様は早めの検討開始で  
準備される事をお奨めいたします  
メガソーラー工事も施工実績あり  
一級建築士  
取締役社長 清水侃治

<http://www.chuou-kensetu.co.jp>

 中央建設株式会社

〒102-0073 東京都千代田区九段北2-3-2

☎(03)3261-4201(代)

超安全

エレベーターの新設・リニューアル工事には  
ダブルフレーキ式巻上機 (実用新案登録第3-1464563)

**SEC** レベーター株式会社

〒110-0016 東京都台東区台東三丁目一十八一三

TEL 〇三三八三三一一七一 (大代表)  
FAX 〇三三八三三一四三三〇  
SECビル

代表取締役社長 西村裕志

太平洋興発株式会社

取締役社長  
佐藤幹介

〒111-0011 東京都台東区元浅草二丁目六番七号  
マタイビル六階

電話 ○三一五八二〇一一六〇一  
FAX ○三一五八三〇一一六一三

弁護士 富田純司

平和と自由を標榜する会の発展は  
世界につながる

〒100-0006 千代田区有楽町一の十二の一

新有楽町ビル十階十三号  
TEL ○三一三三二四一六〇八一

株式会社谷口コーポレーション

代表取締役会長

谷口八稜

東京都中央区銀座三丁目7番2号

電話 ○三(三五六四)九四一八  
FAX ○三(三五六四)九四一九

  
タケオ  
岩本

6425 Broadway, #11E  
Riverdale, NY 10471

企画展  
開校・彰考館プロジェクト 諸物會要の世界IV

## 弘道館を紐解くII

2014年7月10日(木)~8月31日(日)

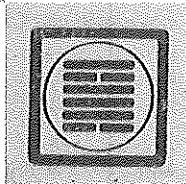
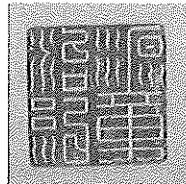
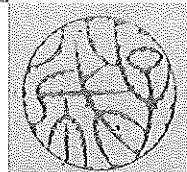
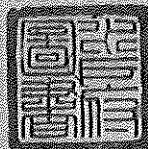
開館時間：10:00~16:00

休館日：月曜日

HPアドレス：<http://www.tokugawa.gr.jp/>

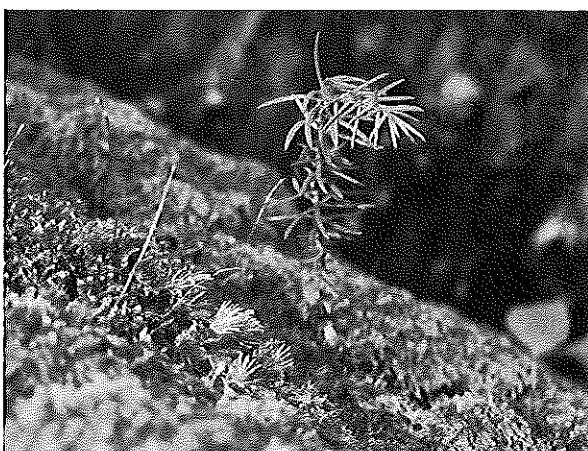


展示 ミュージアム



## 徳川の森

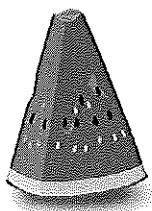
水戸徳川家が守った徳川の森は二〇一四年  
文化庁「ふるさと文化財の森」に設定されました



大能林業有限公司

代表取締役 德川齊正

木材・薪のご予約は下記まで  
TEL:0294-72-4571 / FAX:0294-72-4575  
MAIL:[mori@tokugawa.gr.jp](mailto:mori@tokugawa.gr.jp) 担当 石井



暑中お見舞い申し上げます

*JYUSAN SERVICE*

株式会社住産サービス  
代表取締役 鈴木 亮

〒167-0051 東京都杉並区荻窪4丁目32番9号

TEL: 03-5347-1303 FAX: 03-5347-1305

E-mail: [uthagi@mst.ocn.ne.jp](mailto:uthagi@mst.ocn.ne.jp)

月刊誌掲載者・昭和経済論文（敬称略）

昭和五十三年（平成二十六年八月）

大内義一

早稲田大学名誉教授（巻頭隨筆）

荻原伯永

（株）日本経済社 日経専務

牛場信彦

外務省顧問

広瀬嘉夫

NHK解説委員

安井謙

参議院議長

加藤寛

慶應義塾大学教授

豊原兼一

NHK解説委員

斎藤栄三郎

参議院議員

岡村和夫

NHK解説委員

石井義昌

櫻桂川精螺製作所 社長

糸川英夫

組織工学研究所所長

宮本四郎

通産省産業政策局長

豊田雅孝

（社）日本中小企業団体連盟

安井謙

前参議院議長 自民党顧問

大来佐武郎

对外経済関係 政府代表

藤原弘達

政治評論家

堺谷太一

作家

原田正二

大正大学教授

豊田雅孝

当会顧問

安井謙

第一勵業銀行産業調査部長

窪田真也

劇団手織座

宝生あやこ

山本幸助

山本幸助

通産省産業政策局長

山田勝久

通産省商政策局国際経済部長

岡松壯三

通産省電子政策課長

村山祐太郎

鈴木金属工業㈱会長

堀江忠男

当会理事

寺島祥五郎

早稲田大学名誉教授

安井謙

画家

當会顧問

自民党最高顧問

田山晃

元 読売新聞政治部次長

鈴木三子郎

元 税務大学教官 税理士

竹下登

大蔵大臣

福田赳夫

衆議院議員

齊藤榮三郎	商學博士 法學博士 文學博士	水谷研治 東海綜合研究所 理事長
河野洋平	參議院議員	バツラフ・ハベル チエコ大統領
前川春雄	衆議院議員	平野憲一郎 日本經濟新聞 マニラ市局長
黒田眞	前 日本銀行總裁	吉田和男 京都大學教授
堀江忠男	通商產業省 通商政策局長	中曾根康弘 元首相
水谷研治	東海銀行常務取締役 調査部長	石川忠雄 慶應義塾大學名譽教授 學長
鈴木俊一	東京都知事	北岡伸一
田村次朗	米國企業公共政策研究所 所長	島田晴雄
目良浩一	東京國際大學教授	吉田和男
行天豊雄	東京銀行會長	塩野谷祐一
吉川洋	東京大學教授	宮沢喜一
竹中平藏	慶應義塾大學教授	山田伸二
加藤寛	慶應義塾大學教授	石井明
原田和明	三和綜合研究所 理事長	加藤寛
鶴武彥	東京大學教授	元 首相
大山昊人	東京國際大學教授	NHK解說委員
井浦康之	企業コンサルタント	東京大學教授
元 N H K解說委員	東京大學教授	政府稅制調查會會長
伊藤裕章	朝日新聞ワシントン特派員	千葉商科大學長
小宮隆太郎	東京大學名譽教授	
青山學院大學教授		

島田晴雄	慶應義塾大学教授
樋口廣太郎	アサヒビール会長
橋本大二郎	東京大学教授
奥野正寛	福川伸次
	高知県知事
	電通総研研究所所長
	鈴村興太郎
	一橋大学経済研究所教授
	清水啓典
	立命館大学教授
高橋伸彰	中谷巖
	一橋大学教授
	金大中
	佐和隆光
	茅陽一
	吉田和男
	榎佳之
高橋伸彰	東京大学 医科学研究所
	立命館大学教授
月尾嘉男	東京大学教授
北岡伸一	東京大学教授
石原慎太郎	東京都知事
	山口光恒
	慶應義塾大学教授
	岡崎久彦
	元駐米公使 駐タイ公使
	ポール・サミュエルソン 経済学者
	大野健一 政策研究大学院大学教授
	佐々木和男 サウディ石油化学会社社長
	ドナルド・ラムズフェルド 米国防長官
	イアン・ジョンソン 世界銀行副総裁
	竹森俊平 慶應義塾大学教授
	山本清治 経済評論家
	朱建榮 東洋大学
	アレクサンドル・パノフ 駐日ロシア大使
	林光夫 ナショナル日系博物館ヘリテージセンター 理事(前理事長) 日系プレース基金理事
	ハワード・H・ベーカー 駐日米大使
	山本清治 経済評論家
	ランコ岩本 ランコ・インター・ナショナル代表 ジェームス・D・ウォルフエルソン 世界銀行総裁
	シモン・ペレス イスラエル外相
	山口光恒
	慶應義塾大学教授
	大野健一 政策研究大学院大学教授
	佐々木和男 サウディ石油化学会社社長
	ドナルド・ラムズフェルド 米国防長官
	イアン・ジョンソン 世界銀行副総裁
	竹森俊平 慶應義塾大学教授
	山本清治 経済評論家
	朱建榮 東洋大学
	アレクサンドル・パノフ 駐日ロシア大使
	林光夫 ナショナル日系博物館ヘリテージセンター 理事(前理事長) 日系プレース基金理事
	ハワード・H・ベーカー 駐日米大使
	山本清治 経済評論家

スティーブン・ゴマソール 駐日英國大使	佐藤隆三	ニューヨーク大学名譽教授
山口義二 立教大學經濟學部教授	東京大學客員教授	
公文俊平 多摩大學情報社會學研究所所長	曾根泰教	
伊藤元重 東京大學教授	平野雅章	慶應義塾大學教授
アルビン&ハイディ・トフラー	若田部昌澄	早稻田大學教授
米未來社會學者	山内昌之	東京大學教授
中曾根康弘 元首相	大西隆	東京大學教授
ハワード・H・ベーカー 前 駐日米大使	浜田純一	東京大學總長
竹森俊平 慶應義塾大學教授	中西寛	京都大學教授
岡部直明 日本經濟新聞 論說主幹	高木新一郎	前 産業再生機構委員長
加藤寛 千葉商科大學學長	諸富徹	京都大學准大學教授
山口光恒 帝京大學教授	入江昭	野村證券顧問
斎藤惇 産業再生機構 前 社長	林良造	ハーバード大學名譽教授
渡辺智之 一橋大學教授	東京大學教授	一橋大學教授
土屋堅二 お茶の水女子大學教授（哲學）	伊藤元重	東京大學教授
山崎正和 中央教育審議会 會長	今井賢一	スタンフォード大學
福江等 前 ナザレン神學大學學長	井深記念塾ユーライ	名譽ニアフエロー
大田弘子 経済財政担当相		

吉川弘之	東京大学 元学長	深尾京司	一橋大学教授
池尾和人	慶應義塾大学教授	山本 純	慶應義塾大学准教授
細田衛士	慶應義塾大学教授	小黒一正	一橋大学准教授
林 良嗣	名古屋大学教授	吉川弘之	東京大学 元学長
土居丈朗	慶應義塾大学教授	大村敬一	早稻田大学教授
脇坂 明	学習院大学教授	庄司克宏	慶應義塾大学教授
関 满博	一橋大学教授	ジム・フレアティ	慶應義塾大学教授
古谷 浩一	朝日新聞記者	伊藤元重	東京大学教授
御厨 貴	東京大学教授	清家 篤	日本私立大学連盟会長
田中明彦	東京大学教授	藤原帰一	慶應義塾長
西垣 通	東京大学大学院情報学環教授	緒方貞子	東京大学教授
山内昌之	東京大学教授	田中素香	国際協力機構（JICA）理事長
高安秀樹	明治大学客員教授	申 珙秀	中央大学教授
浜田宏一	エール大学教授	加藤弘之	駐日韓国大使
若宮啓文	朝日新聞本社主筆	新宅純二郎	神戸大学教授
植田和弘	京都大学教授	岡部直明	東京大学准教授
松本 紘	京都大学総長	若宮啓文	日本経済新聞客員コラムニスト
大西 隆	東京大学教授	中沢克二	朝日新聞主筆
山中季広	朝日新聞ニューヨーク支局長		日本経済新聞社 中國總局長

猪木武徳	青山学院大学特任教授
長山浩章	京都大学教授
石川城太	一橋大学教授
鹿野嘉昭	同志社大学教授
岡部直明	日本経済新聞客員コラムニスト
篠崎彰彦	九州大学教授
翟林瑜	大阪市立大学教授
横山彰	中央大学教授
小林慶一郎	一橋大学教授
原真人	朝日新聞編集委員
若宮啓文	朝日新聞本社主筆
小林慶一郎	一橋大学教授
須藤繁	帝京平成大学教授
翁邦雄	京都大学教授
下斗米伸夫	法政大学教授
吉川洋	東京大学教授
渡辺博史	国際協力銀行副総裁・元財務官
澤田康幸	東京大学教授
北岡伸一	国際大学学長
有田哲文	朝日新聞編集委員
柴田直治	朝日新聞国際報道部
竹森俊平	慶應大学教授
磯田道史	静岡文化芸術大学准教授
橘川武郎	一橋大学教授
伊藤元重	東京大学教授
山内昌之	明治大学特任教授
白石隆	政策研究大学院学長
土屋英夫	日本経済新聞本社コラムニスト
戸田悦造	懸賞論文 優秀賞
青山慶二	早稲田大学教授
瀬口清之	ヤングローバル戦略研究所研究主幹
今井賢一	スタンフォード大学名誉シニアフェロー
田中伸男	日本エネルギー経済研究所特別顧問
宮本雄二	宮本アジア研究所代表、外務省顧問
菅原宅	東京大学先端科学技術研センター准教授
白石隆	政策研究大学院学長
野中郁次郎	一橋大学名誉教授
矢作弘	龍谷大学教授

有吉 章	一橋大学教授	大来佐武郎	対外経済担当大臣
御厨 貴	東京大学先端技術研究センター教授	齊藤栄三郎	科学技術省長官
伊藤 邦雄	一橋大学教授	柿沢弘治	衆議院議員
大村 敬一	早稲田大学教授	浜田幸一	衆議院議員
御厨 放送	大学教授	木元教子	評論家
山内 昌之	明治大学特任教授	岡松壯三郎	通産省電子政策課長
北岡 伸一	国際大学学長	稻川泰弘	通産産業省政策局
葛西 敬之	JR東海名誉会長	藤原弘達	商務サービス産業室長
岡崎 哲二	東京大学大学院経済学研究科教授	山本幸助	政治評論家
山内 昌之	明治大学特任教授	岡松壯三郎	通産省産業政策局長
池上 彰	東京工業大学	山田勝之	通産省生活産業局長
当会・講演会 講師（敬称略）	鈴木幸夫	通産省国際政治部長	テレビ東京解説委員長
昭和五十三年（平成二十六年五月）	山室英男	NHK解説委員長	
堺屋太一 作家	佐野忠克	通産省宇宙産業室長	
栗栖弘臣 統合幕僚長	河野洋平	衆議院議員	
加藤寛 慶應義塾大学教授	寺島祥五郎	当会理事	
糸川広洋 組織工学研究所 所長	長富祐一郎	大蔵省官房審議官	
	中沢忠義	中小企業厅長官	

吉國隆	農林水産省大臣官房企画室長	内田 满	早稻田大学教授
天谷直弘	(財) 産業研究所 顧問	岡松壯三郎	通商産業省生活産業局長
黒田眞	元 通産省審議官	水谷研治	東海銀行常務取締役調査部長
鈴木俊一	東京都知事	有馬朗人	東京大学総長
上野明	野村総合研究所 主任研究員	松本和男	経済評論家
前川春雄	前日本銀行總裁	大山晃人	NHK解説委員
大山晃人	NHK解説委員	鈴木淑夫	野村総合研究所副理事長
野坂昭如	作家	松永信雄	元 日本銀行理事
水野哲	通産省産業政策局	霍見芳浩	外務省顧問 前 駐米大使
堀江忠男	産業政策局総務課長	村松暎	ニューヨーク市立大学大学院教
梅沢節男	早稲田大学名譽教授	杏林大学教授	慶應義塾大学名譽教授
田川誠一	国税厅長官	飯田健一	NHK解説委員
森 亘	進歩党代表 衆議院議員	L・A・チジヨーフ	駐日ロシア連邦大使
藤井康男	東京大学総長	大山晃人	元NHK解説委員
水城武彦	龍角散社長		東京国際大学教授
大山晃人	NHK解説委員	小浜維人	NHK解説委員長
斎藤栄三郎	NHK解説委員	青木匡光	メディエーター(人間接着業)
国務大臣	科学技術厅長官	紺谷典子	(財) 日本証券経済研究所

原田和明	主任研究員	吉田春樹	和光経済研究所理事長
和田俊	三和総合研究所 朝日新聞編集委員	副島隆彦	経済評論家
大山昊人	テレビ朝日ニュース・ステーション 元 NHK解説委員	ポールシェアード	ベアリング投信投資顧問 <small>(株)日本株運用ヘッド兼ストラジスト</small>
木村時夫	早稲田大学名誉教授	早坂茂三	田中角栄 元秘書
井浦康之	井浦コミュニケーションセンター 当会理事	山田伸二	NHK解説委員
水谷研治	東海総合研究所 理事長	中村敦夫	参議院議員
目良浩一	東京国際大学教授	原田和明	三和総合研究所特別顧問
山下亀次郎	筑波大学 臨床医学系内科学教授	西澤宏繁	東京都民銀行頭取
斎藤精一郎	筑波大学付属病院副院長	亀井静香	衆議院議員
岩國哲人	立教大学教授	山田伸二	NHK解説委員
浅井隆	前 出雲市長	武者陵司	ドイチエ証券チーフストラジット
岩田規久男	経済ジャーナリスト	川崎真一郎	第一生命経済研究所主任研究員
久保亘	上智大学教授	金子一義	国務大臣
大山昊人	前 大蔵大臣	山口義行	立教大学教授
山田伸二	東京国際大学教授	山田伸二	NHK解説主幹
NHK解説委員		斎藤精一郎	千葉商科大学教授
高木新二郎		伊藤 達也	金融担当大臣 <small>(株)産業再生機構 産業再生委員長</small>

斎藤精一郎	千葉商科大学大学院教授	山田伸二	NHK解説主幹
(株)NTTデータ経営研究所所長	山内進	一橋大学学長	
社会経済学者 エコノミスト	板垣信幸	NHK解説主幹	
佐々木和男	学校法人静岡理工科大学理事長	熊野英生	第一生命経済研究所首席エコノミスト
元三菱商事(株)本部長	元モスクワ支局長	元モスクワ支局長	
三原淳	経済評論家 株式評論家	山田伸二	NHK解説主幹
石川一洋	NHK解説委員	山内進	一橋大学学長
山田仲二	NHK解説主幹	板垣信幸	NHK解説主幹
中谷元	元防衛庁長官 衆議院議員	熊野英生	第一生命経済研究所首席エコノミスト
林良造	東京大学教授	元モスクワ支局長	
渡辺喜美	元経済産業省 経済産業政策局長	山田伸二	NHK解説主幹
山崎淑行	みんなの党代表 衆議院議員	山内進	一橋大学学長
中谷巖	NHK科学文化部 記者	板垣信幸	NHK解説主幹
ロバート・フェルドマン	サウディ石油化学(株)前社長	熊野英生	第一生命経済研究所首席エコノミスト
月尾嘉男	経済評論家・エコノミスト	元モスクワ支局長	
東京大学名譽教授	元モスクワ支局長	山田伸二	NHK解説主幹

講演会の主な講師  
(講演時役職)  
(敬称略)

山黒岡山山長梅鈴前牛野中岡加堺天河高糸小藤大安斎土本稻吉井岩福  
室田松本田富沢木川場坂沢村藤屋谷野木川汀原平井藤屋田葉野深佐田  
莊祐新榮宗  
英三幸勝一節俊春信昭忠和太直洋二英利弘正三一秀俊凱赳  
男真郎助久郎男一雄彦如義夫寛一弘平郎夫得達芳謙郎清郎三彦大寅夫  
N通通通通大国東日外作中N慶作通科弁組日政大參科經本經日ソ富大  
H産產產藏本H應學織本學藏  
K省省省稅京務本產工經治議濟田本士大臣  
企K義產技學濟藏技銀(内  
解產國官銀塾業解省術護研新評院術評評  
活業際序都省業解省術護研新評院術評評  
說業產政政房行大究開大研行行總  
委審業策治審長知顧長委教所社論議論社理  
員議局局部議長委教長所顧長社理頭大臣  
長官長長官官事裁問家官員授家間官士長問家臣長官家長家事長取

伊金山龜西早島副山久岩斎目原和小レ霍松鈴有大水森堀水藤井大  
產藤子口井澤坂田島田保国藤良田田浜ノ見永木馬來谷江城井浦山  
精佐  
當達一義靜宏茂晴隆伸哲一浩和維ヨ芳信淑朗武研忠武康康昊  
官也義ニ香繁三雄彦二亘人郎一明俊人ヲ浩雄夫人郎治亘男彦雄之人

通大内国立衆東政慶政N前出立東三テN駐ニ前野東対東東早N龍井N  
商藏閣務教京應H京和ビH日レ駐村外海稻H浦  
產省大議都治義治大教綜合朝ヨ米總京總京田角ミコ  
業政總臣大議都治義治大教綜合朝ヨ米總京總京田角ミコ  
政策理・學K雲大際研ニロク大合經合大KニK  
策研產經民塾大際研ニシ立・大濟研大ヶ  
研究大業院評評解藏大究ス説大外學名解シ  
研究再濟銀大學大究ス説大外學名解シ  
研究會臣生學行論學論大學所スア學所當  
会メ補機部議行論學論大學所スア學所當  
ン構教頭教委教理大務所當譽社セ  
ババ佐担教頭教委教事シ員大院顧事大教委シタ  
官當授員取家授家員臣長授授長シ長使授間長長臣長長授員長ト員

昭和經濟 26—暑中号

昭和25年6月24日 第3種郵便物認可（毎月1回1日発行）  
昭和25年10月19日 日本国鉄道特別扱承認雑誌第1797号

**Showa Economic Study Association**  
**企業家・経営者団体**

公益社団法人 **昭和経済会**

事務局 〒104-0028 東京都中央区八重洲2-11-2

TEL 6820-6000・3271-8846 FAX 3271-3104

URL <http://www.showa-ec.or.jp/>

e-mail [info@showa-ec.or.jp](mailto:info@showa-ec.or.jp)